平成15年度 福島大学FDプロジェクト活動報告書 ~授業改善の追求~



2004年3月 福島大学FDプロジェクト



平成 1 5 年度 福島大学 FD プロジェクト活動報告書 ~ 授業改善の追求 ~

目 次

1	. はじめに・・・・・・・・副学長(FD プロジェクト責任者)	今野順夫	1
2	. 福島大学 F D 講演会 い「なせばなる、進化する F D」・・・・・・山形大学	小田隆治	2
3	. 私の授業改善 ************************************	UI 	4.0
	▶「体力トレーニング」のススメ・・・・・教育学部 □ 15は 15 は 7 0 は 10 だく		16
	₽「はじめてのけいざいがく」· · · · · · 経済学部		18
	🕻 " エンターテインメント" としての講義を目指して・・・・行政社会学部	後滕	20
4	. 福島大学 F D ワークショップ ▶ 第 2 回福島大学 F D ワークショップ報告書 『学ぶ力』 - 学生の「学ぶ力」をデザインする - ・・・・FD ワークショップ 3	実行委員会	23
5	. 教育改善のための学生アンケート		
	▶前 期 開 講 科 目(平成15年7月実施)・・・・・・	• • • • •	59
	共通教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • •	60
	専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・		82
	▶ 通年・後期開講科目(平成 16 年 1 月実施)・・・・・・		97
	共通教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • •	98
	専門教育科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • •	138
6	. 福島大学 F D プロジェクト要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • •	153
7	. 福島大学 F D プロジェクトメンバー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• • • • •	154
8	. あとがき・・・・・・・・・・全学教育主管(メンバー)	小島 定	155

FUKUSHIMA-U. はじめ

平成15年度福島大学FDプロジェクト 責任者 今 野 順 夫

に

福島大学 F D (ファカルティ・ディベロップメント) プロジェクトは,三年目を迎えました。教授方法改善等の諸課題を実施する職務を負った本プロジェクトは,今年度も,新たな挑戦をしてきました。

教育内容及び教授方法の改善の必要性を否定し、またその努力を惜しむ教員 はおられないでしょう。しかしその努力は、従来、主に教員個々人の努力のみ に任されてきたし、また相互援助の場も限られてきたといえます。FDプロジェクトは、教育内容及び教授方法の改善を、集団的に組織的に実現しようとす るものです。

本年度は,山形大学の小田隆治教授をお迎えして、講演会を開催し,山形大学の貴重な取り組みや優れた授業実践例について学ぶことができました。近隣の大学の積極的取り組みに,大いに励まされました。

また「ワークショップ」を,昨年度に引き続き1泊2日の日程で実施しました。本学のFDプロジェクト「ワークショップ」は2回目であり,未だ手探りの実践でしたが,大きな確信を得ることができました。特に本年度は,教員の努力が空回りにないように,三学部の学生代表の参加も得て,学生の目線からも十分に学びながら行いました。本学の今後のFDのあり方に大きな示唆を与えてくれたと思います。

さらに,授業改善に向けた「学生アンケート」(学生による授業評価)も,「共通教育」並びに「専門教育」アンケートを継続的に実施しました。「学生アンケート」の方法・内容等にも,絶えず見直すべき建設的な意見が寄せられています。学生自身を,主体的にいかに授業づくりに参加させるかが重要であり,「教え」から「学び」へという学習観の転換の中で位置づけられるべきでしょう。

今年度の報告書には,はじめて各学部の教員による「私の授業改善」を掲載させていただきました。教員の地道な努力に学び,学生の顔・教員の顔が見えるような報告書への一歩になりつつあると考えています。

本報告書を大いに活用され、教育内容及び教授方法の改善のために役立てられることを期待しています。



平成15年度 福島大学FD講演会

日時 平成15年12月11日(木)

13:00~14:30

場所 M 2 1 教室

演題 『なせばなる、進化する F D 』

講師 山形大学教育学部教授

お だ たか はる 小 田 隆 治 氏

- ・山形大学教育方法等改善委員会委員、
- ・山形大学授業改善ハンドブック 『あっとおどろく授業改善・山形大学実践編・』編集長



【開 会】(司会:小島 定 全学教育主管)

今年度の FD 講演会を始めさせていただきます。今日は、山形大学で FD の中心メンバーとして活躍され、山形大学授業改善ハンドブック編集長の小田隆治先生をお招きしましてご講演をいただきたいと思います。始めに、講演会の開催に当たりまして、講師紹介も含めまして今野副学長からご挨拶をいただきます。

【講師紹介】(今野順夫 学務担当副学長)

一昨年から始まりまして、今回で3回目となりますけれども、FD プロジェクトのイベントでもあります FD 講演会でありますが、できるだけ他大学の例も学んでいこうということで今回は山形大学教育学部の小田先生においていただきました。色々挨拶をするよりは、先生にお話いただいた方がいいと思いますので、ただ、簡単に先生のご紹介をさせていただきますが、1954年に山口県にお生まれになりまして、山形大学の理学部、それから筑波大学の大学院を修了されて北里大学の医学部に就職されていますが、1989年から山形大学の教養部、それから教育学部というかたちで、専攻は生物学ということで研究なされております。特に、2000年度以降は教育方法等改善委員会という中の教養教育の改善充実特別事業作業班の班長さんとして FD を推進してこられました。

なお、生物学の専門の著書もございますが特に私たちは、今、全学教育主管からもお話がありましたように、このようなものを纏めたり、あるいは IDE 民主教育協会の冊子にも山形大学における FD 報告をされています。聴くところによると教養教育の自己評価で、山形大学は大学評価・学位授与機構からも FD レベルがかなり高いとお褒めの言葉をいただいているそうですし、山形県の新聞等でも教育改善について注目されているということでございます。私たちは、近くにありながらなかなか聴く機会がありませんので、この機会に、私たちの FD 活動の改善・推進のために先生のお話をお聞きしたいと思います。

それでは先生、よろしくお願いいたします。

【講 演】(山形大学 小田隆治教授)

ご紹介有難うございました。それでは早速話に入りたいと思います。タイトルですが、 最近いろんなところで話をするときに、この「なせばなる」という表現を使っております。 これはかなり意識的に使っておりまして、皆さんがご存知のように、山形県に米沢市があ ります。そこにかつて上杉鷹山という藩主がおり、庶民を励ましました。彼は山形出身で はなくて、宮崎の小藩の次男坊でした。そして、藩運営が窮乏しているときに彼が登場し て助けたわけです。まさにそのようなキャッチフレーズとして意識的にこの「なせばなる」 という表現を使ってお話をさせていただいているわけです。

平成15年度前期から今まで山形大学での教養教育改善充実特別事業で何をやったかについてお話しします。

今年、何をしたかといいますと、授業改善ハンドブック、先ほど副学長先生にご紹介いただきました小冊子です。その他ホームページなどいろいろなことをやっております。山形大学の教養教育の改善は教育方法等改善委員会が行っているわけですが、その中で実際に担っているのは教養教育の FD を中心に活動をしております。そうした時に、山形大学の教養教育はどのような実施体制かといいますと、6 学部ありますが、全学出動体制をとっておりまして、山形市にあります人文・教育学部・理学部が中心となって、ほかに 50km離れております米沢の工学部とか、100km離れました鶴岡市の農学部も来て、この教養教育を担っています。FD の組織はどうなっているかといいますと、教育方法等改善委員会



すと、よその大学の方にいつも驚かれるんですが、私を含めて3人だけです。財源は何か と言いますと、現在、学長裁量経費をもらっています。それ以前は文部科学省の事業経費 によりました。

では、FD では何をやっていくかといいますと、授業改善なんです。それは「迅速かつ継続的な授業改善」でなければならないと私は思っています。そして FD の基本理念は「相互研鑚」 - お互いに励ましあってやっていこうじゃないか - を基本理念といたしました。決してトップダウンではなく、相互研鑚でお互いに励ましあってやっていこうじゃないかというわけです。

今年、授業改善ハンドブックを作りました。これは委員会の中だけではなく、学内の委員以外の人を招いて編集委員会を作って1ヶ月くらいで作りました。

次に、今年度新しくやったものとして、「豊かな授業を目指して」と題してホームペー

ジ(HP)を立ち上げFD活動の紹介をやっています。

次に、教養教育ワークショップです。いわゆる講演型のものを毎年1回開いています。参加者が約150人~200人います。まる1日費やしておりまして、午後からは分科会に分かれ、その後全体会で話を纏めるという形式をとっております。あと「FD 合宿セミナー」、先ほどお伺いしましたが、福島大学さんもやられている、泊りがけでシラバス作ったりとかする、そういう形式のものを今年3年目になりますが、やっております。

あとは、「学生主体型の授業の研究と実践」今の授業だけではなく、新しい授業を研究して実践しています。あとは「公開授業と検討会」、ほかに「シンポジウム」これも来月、一月にやります。あとは前期・後期に「授業改善アンケート」をやります。あと、「高大連携のあり方の研究と実践」、「他大学調査」、毎年、先進的な実践を進めている3校くらいを訪れますが、今年はついにお金が無くて行けませんでした。それで、違う研究会がありましたので、「京都コンソ・シアム」に行きまして、お金が無いなりになんとか工夫をして行ってきました。そして「授業改善報告書」を作っていくわけです。

では、なぜ授業改善をやらなければならないのか。今日のお話しとして FD の理念的なことについて話すつもりはありません。おそらく過去の講演会ではそういうお話がすでにあったと思います。そして、なぜ授業改善をやらなければならないのかということも延々とお話することはいたしません。ひたすら実践的なことをお話ししたいと思います。しかし、少しは触れておきたいと思います。

「教育無くして大学無し」です。それはいろんなところで言われていることです。それから、「エリート段階からユニバーサル段階へ」です。マーチン・トロウが言っている言葉、もう日本の中でユニバーサル段階が起こっております。49パーセントの人間が大学に進学しています。もう学生の集団が変わったんですよ、ということです。「個人的な授業改善から組織的な授業改善」へ、自分は一人で授業改善しているよと。しかし、我々は寺子屋



は共有するために見せて下さいということです。そういうことを、組織的な取り組みとして目指しています。次に「授業の独善性の排除」。先ほど言ったように、自分の授業が良ければいいだろうということではない。そういうことでは、組織として疲弊してしまいます。まさにそこが、ファカルティ・ディベロップメントで授業改善をしていく主旨なのです。

授業改善をしました、教育はいいです、研究も素晴らしい、しかし、来年から実施される独法化の中に置かれて、いい大学は本当に生き残るのか? いい大学が生き残った方がいいとは思いますが、競争というのは、私はそうは思っておりません。いい大学が生き残らないこともあり得るだろうと。しかし、社会的・国家的に見ていい大学が残らないのは不公平だと。私は、いい大学にして、さらに組織としての生き残りを行いたいと考えているわけです。

では、授業改善について話を進めますけれども、先ず、授業の診断書としまして、学生による授業改善アンケートを行います。資料としてこれが無いと客観的に分からないんです。授業改善するための情報は、他にもいろんな方法があります。授業中に学生に感想を書いてもらったり、いろんな手段はありますが、全体として授業改善アンケートをやるのも一つの方法であります。これも一つの診断書でありまして。では、どうやって直すのかといいますと、それは自助努力です。見たら直すと。私の場合、語尾が聞き取れないという点を直しました。今は言われません。こういう形で言われて直していくという自助努力です。しかし、ここに一つの神話があります。大学の先生は優秀ですから、研究だけではなく、教育にも力を入れるとすぐに直せるよ、ということになるわけです。しかし、実際に直せるかというと、追跡していきますと、直せない人は直せないんですよ。ではどうするか? まさにファカルティ・ディベロップメントとしてやっていく。組織的な取り組みとして、公開授業&検討会というものをこの位置付けとしております。直さないといけないんです、ここは。公開授業&検討会は注意するだけではありません、ここは。「下手だよ」というお墨付きを与えるところではないんです。「貴方は、こう直した方がいいですよ」と指摘する場所です。

次に、「授業改善ハンドブック」。これ何かといいますと、今、山形大学では公開授業 & 検討会を普及しようとしています。これが直す方法だと思っております。かなり有効な方法だと思っています。しかし、公開授業 & 検討会に参加しない人がいます。そこにはまだ強制力は働かせていません。参加できるようにいろんな工夫をしています。しかし、講演会とか F D 活動に一切参加しない人がいます。そこにおいて、大学では二極分化が起こってきますね。それは早くから言われています。そうした時に、そのような参加しない人の目にも触れるようにする。我々はどういう意識で授業改善を進めようとしているのかということを、その黄色の本に書きました。よその大学ではなくて、山形大学ではどう進めたいのかをそこに書きました。こうして直してもらおうじゃないかということです。そして、本当に直ったのかどうかの検証を学生による授業改善アンケートに拠ろうではないかということです。

アンケートは2000年に始めたんですが、アンケートを取ったときの勝負どころは、公表の部分であると思ってました。我々は組織的な授業改善情報を共有しようじゃないか、皆さんも見れるようにしようじゃないか、自分の授業の位置付けをハッキリしようじゃないかと。山形大学では5段階評価です。例えば私の場合は生物学担当ですが、自分は3.5を取ったとします。私としてはアンケート実施前には3が普通ですから3.5を取れば十分じゃないかと思っていました。けれども、やってみるとですね、私は毎日集まってくるものを見れるわけですから、他の人のを見ますと4なんですよ。これはFDをやっている人間としては困ったなと思いました。「4は取れないぞ」と思って焦ったんです。私の点

数を体育や語学と比べてもしょうがないんです。理科系の生物の授業と比較してこそ私の位置付けがあるんです。このようにして、全体の中の座標軸を組んで位置付けを得ようじゃないかと。自分の授業と比較する対象は、決して平均点ではないんです。そのようなことを正に相互研鑚の精神だという風に私は言いました。

次に「教育評価」。よく、学生による授業評価の話をしますと教育評価の話が直ぐ出てきます。山形大学では、教育評価はやってません。そして、アンケートで求めているものを教育評価には利用しません。それは、そのように言っていないからです。では、教育評価に使わないのかと言えば、将来は使うかもしれません。しかし、そのような事態になったら、今年から教育評価に使います、と言うことです。その方がフェアだと私は思っています。今現在使うことはあり得ません。言ったことと違ったのでは困ると思います。ですけれども、いつかは教育評価の一つの手段として使われるかもしれません。

それでは、アンケートの集計結果をどうしたのか。 A 4 判 1 枚で表面が質問項目 1 7 問 ありまして5段階評価でマークシート方式です。裏面は自由記述です。山形大学の前期の 科目が教養教育で300科目あります。後期も300ちょっとあります。それを前期7月 の 2 週間で教官自身が取るようにしています。教官はそれを事務室に持っていき、事務で は集計をして後期の授業が始まる時に公表をします。どういう風な公表をするのかと言い ますと、例えば、私の授業は・・後期の教養ゼミは17人、4.92と出ています。回答 数はその授業に出ていた数です。回答率、放棄した数が出ています。この授業を履修した 理由、学生の欠席数、休講回数、学生の授業参加意欲、その他色々ありまして総合平均を 出しています。この表を300科目ですとA4で7枚になります。それを教官個人の結果 とともに返しまして、授業改善に役立ててください、と委員長名でお願いしています。教 官に返却した日と同日に学生掲示板にA3判に大きく拡大したものが7枚貼られます。2 000年始めての年に、学生は何に興味を示すのか関心がありましたが、学生は見ていな いんですね。愕然としました。学生はこんなの見せられても何がなんだか分からないわけ です。そこで、翌年から変えまして、授業名と担当者名をつけたものも掲示しています。 新聞にも「学生の教官評価を公表」「熱意や教授法を採点」などと書かれ取り上げられまし た。では、アンケートは学内の教員にどのように受け入れられたのか。始めから文部科学 省から予算が認められておりますので我々の委員会、当時は教養教育研究委員会という名 称でしたが、そこでアンケート実施について検討した時に、実施してよいかどうかを学部 に降ろして問いませんでした。これは調査なんです、ですから協力してくださいというス タイルです。そのように訴えました。非常勤も含め89%の人達が参加してくれたんです。 これは驚くべきことです。後期になったら減りました、それでも77%の実施率です。私 はそれほど気にすることはないと思いました。結果は公表されますということでアンケー



トに協力してもらいました。発表の方式も分からないままです。当の私も分かりませんで した。夏休みの間いろいろ検討しまして、方法が確立しました。後期は実施率が少し下が りましたけれども、その後は右肩上がりです。大学では受け入れられていったわけです。 では、授業名の公表はどうか。これは1年後からです。全授業の60数%が名前を公表す るとなったわけです。ですから、私に言わせますと、山形大学の授業改善アンケートに関 して言えば、教官は協力してくれているということになるわけです。皆がやろうじゃない かと、アンケート結果をお互いに見て研鑚し合おうじゃないかという姿勢が、このアンケ ート結果に如実に表れていると思います。それを年度末の報告書に纏めるわけです。大学 の図書館に置いています。そして全国の国立大学にも配布します。人の名前が載ったもの を配布するんです。今年から作成した授業改善ホームページには人の名前は載せていませ んが、一覧表を掲載しています。全国の他の大学のアンケートを見ますと、もっと詳しい ものはあります。しかし私はそれに同意しません。なぜかといいますと、結果の全貌を簡 単には把握できないからです。自分の授業は他の授業と比較して初めて自分の授業の位置 が分かると思います。そうした時に、分厚いものですと他の授業科目の結果を見たりはし ませんよ。アンケートの自由記述は、初年度私がいろいろな授業のをたくさん読みました。 1000枚以上は一人で読みました。そうしたなかから、学生は良い授業をどのように考 えているのかということを分析してみました。すると、それはよく言われるような単位の 取りやすい授業ではないんですね。学生は良く分かっています。内容がある授業と答えて います。内容が無い授業はやはり駄目なんですね。そして得るものがないとやはり駄目な んです。知識とか、技術とか。初年度は、一般教育が低くて外国語がちょっと高かったで す。それは何故か、それは得るものがハッキリしているからなんですね。一般教育のよう に考えるものになってくると、ちょっと点が低くなってきている。あと、分かる授業です ね。これは決定的です。悪い授業は何か、全てその逆です。これを全学の集会でお話しし たら、ある先生が、「分からない授業にもいい授業はあるだろう」と言うわけです。言葉と

してはなんかかっこいいですね。その時私はな んと言ったか。「分からない授業でいい授業はな いですよ」と言いました。分からない研究でい い研究は沢山あるんです。世界の人がほとんど 分からなくてもいつか認められる良い研究はあ ります。しかし、分かる授業とは何なのか。目 の前の学生が分からないと、ビデオテープを販 売するものとは違うのです。授業はフェイス・ トウ・フェイスですから、目の前の学生に分か ってもらわないといけないわけです。というこ とで、分からない授業でいい授業は無いと私は 思っています。今分からなくても、帰って復習 して分かってもらっていいですよ。しかし、分 かってもらわなければならないんです。受講生 を理解度で評価するならば当然のことです。こ れは私は間違っていないと思っています。授業 はあくまで研究とは違います。



さあ、評価が終りました。では、どうやって直すんだろうと・・・我々は公開授業&検討会をやっています。私が一番初めに山形大学の教養教育でやりました。委員会の方々は、「アンケートはまだ良いが、公開授業は絶対嫌だ」とおっしゃるんです。その方は、すごく教育熱心な方です。そのときの公開授業をする人のイメージでは人柱です。さらし者ですね。みんなからボロクソに言われるわけです。それで、そこでいろいろ考えた末に、参観者にも授業改善してもうことにしました。逆転の発想です。これは、私は成功したと思っています。いまだ、イメージとして授業者はさらし者というイメージが強いんですが、そうではないんです。参観者も授業の改善をしなければいけないんです。ですから、公開授業と検討会は、授業者と参観者との双方の授業改善を目的とするものとなっているわけです。参観者が授業者を見て、「貴方はここを直しなさいよ」と内省化を求めるだけではなく、授業を見ることによって、参観者に内省化させるわけです。「参観者の貴方たちも直してください」と。そこまでいってようやく我々の相互研鑚になり得るわけです。公開授業ですが、「参観者は授業中の学生の反応を観察する。そこから授業の分析につとめる。」としています。

始めに公開授業をやって次の検討会をどうしようかと思い、京都大学を見学してきまし た。そこは、プロフェッショナルな教員や大学院生などいろんな人がいます。そんなこと 山形大学でできるはずもありません、そんな専門的なセンターも無いですから。さらによ その学部でやっている公開授業も見学に行きました。授業者に対して、「あの授業はまずか った」とか、「あの数値は間違っているんじゃないか」とか、すごくアカデミックな雰囲気で やっているんです。よその大学にも見に行きました、完全にアカデミックな雰囲気でした、 アカデミックサロンです。これは明らかに授業の分析にはなっていない。熱心な先生が一 番前の席に座り、生徒は後ろで寝ているんですよ。これは明らかにおかしいと思いました。 客観性、つまり学生の行動観察、学生が途中で何人入ってきて、誰が寝て何々したという ことを経時的に記録するという方法を、私たち作り上げました。そして一方で授業者の観 察も行ないます。そしてそれを合致させると、学生はどのような時に授業に飽きてきて、 何をするということが分かります、これを詳しく検討会で話すのは大変ですから、二人く らい役目を決めます。引き続いて行う検討会では、1人5分か10分くらいでこの行動観 察の話を終えます。それ以上長くはしません。「授業の総合的分析」に努めるような形に組 み立てるということです。ですから、教官は授業の邪魔をしないように教室の後ろに座っ てもらいます。教室の中に入り込まない。授業は学生が主役であり、学生が理解できるか どうかなのです。「検討会の留意点:検討会では参観者が授業者を誉めることから始め、い い雰囲気を保つように努める。」これは京都大学から言われたんです。何を気をつけたらい いかと。なるほどこれだと思いました。何故かといいますと、これは幼稚なことのように 思えますが、たいていは厳しく批評するんですね。我々はどの学問分野でも批評の専門家 なんです。そうすると検討会はどうなるか。参観者は授業を批評し、授業者は懺悔を始め ます。これは容易に想像がつくんですよ。それでこのように書きました。意識的に誉めよ うと。検討会を経験して、また公開授業&検討会をやろうという気になること、それが大 事なんだろうと思います。

公開授業と検討会をセットでやる。公開授業だけでは駄目だということです。これはある学部の話ですが、うちは公開授業をやっていますと、高校生などの来訪者に全授業を公開していると。すると下手な授業は高校生がもういいやといって帰ってしまうというわけですよ。それは、私に言わせれば大学のマイナス面をさらしている事になりますよと。い

いですか、問題は何なのか。ここで言いたいのは、このように授業者をさらし者にして、 授業者の自助努力だけで悪いところが直るかということです。正にここで直そうとしてい るわけです。それは随分違うということです。公開授業といいながらさらし者にして参観 者にプイとやられたりして。見られるということだけで授業者が襟を正すという効果は確 かにあると思います。それで恒常的に改善できる人はいいですが、改善できない人もいる と思います。このように、公開授業は検討会とセットにしなければならないのです。

私の授業を公開しました。ここでは普段どおりの授業をやるということですね。そして 306人入る教室で、私は出席取っていませんから、当日学生来なかったらどうしようと 思いましたが、学生来てくれて本当に有り難かったです。後ろには40人程の教員が全学 から来てくれたんです。他の大学からも6人の先生が来てくれました。1時間半授業をや りました。そのあと検討会です。委員会メンバーがここ、私はここにいます。北大、京大、 東海大学の先生方です。このメンバー以外の先生方には、検討会を見学してもらうだけで 検討会そのものには加わってもらいませんでした。我々のやり方である、先ほどお話しし た行動観察の仕方などを見てもらうことにしたんですね。検討会を1時間くらいやりまし て、残り30分くらいは一般の教員も交えてフリートーキングとしました。検討会では、 授業がすごく分析され、解体されていきます。私に対していろいろときつく言われるわけ です。最初は誉めることになっていますが、全然誉められないわけです。なかなか凄まじ いものがありました。こんなにめちゃくちゃに言われていいものかと。終ってから検討会 を見学した方々にアンケートをとりました。アンケートには「この公開授業と検討会は授 業改善に役立ちますか」という項目があるんですが、ほとんどの人達が「役立ちます」と 回答してくれたんです。このように、「公開授業&検討会」は授業改善の方法と認知される のですね。しかし、「自分の授業を見せたくない」と。公開授業の模様は新聞にも取上げら れました。

こうした大々的なイベントとしての「公開授業&検討会」と同時進行したのは、いつで も誰でも自由に見に来ていいですよ、というスタイルを入れました。このスタイルでは三 つの授業をやりました。我々の委員の人が二つ、他の先生が一つ。私の授業もやりました。 しかし、後期の間中、私の授業に1人参観があった以外は、誰一人として参観にきません でした。私の授業には、ある年配の先生が見に来てくれました。しかし、私の授業が退屈 だったのでしょう、途中で寝るんですよ。アンケートに何と書いてあったか、「途中で分か らなくなった」当たり前ですよね。このように、授業の常時公開を私たちもしましたが、 誰も来ないですよ。教員は毎日忙しいですよ。今日行こうかな、などとそんなこと思いま せん。それと、行ったら授業者に対して悪いかなという気持ちもあります。このことは、 あらかじめある程度他大学の調査もしていましたから分かっていました。常時公開は人が 来ないというのは。ある大学は「常時公開をしたが来なかった。来たのは、また我々2人 だけだった。」というような内容で毎回克明に書いている報告書もあります。我々はそのと おりだとも思いましたけれども、常時公開と言うのは、あまり効果が無い事を学内に実証 するためにやってみる必要があったのです。しかし、公開授業というものは授業改善を果 たすものですよ、ということで皆さんに授業公開をしてもらいたいわけです。そこで我々 は公開授業を始める前に学生の行動観察と教官の行動観察をやるために3回くらい他の先 生で訓練をして本番に臨みました。そうしたときに、3人くらいの少人数であっても充分 検討会は成り立つことが分かってきました。お互いに信頼してますから。ですから、この 方法でやればいいじゃないかと。別に専門家に見てもらわなくても、親しい者同士だって。

まさにピアレビューです。それは専門的には同じ学問領域の方でなくてもいいんです。そのミニ公開授業と検討会の方法を次の年から全学に提示しました。「公開授業と検討会は授業改善のためにとても有効な方法であるが、自分の授業を不特定多数に公開し、その検討会を実施することに躊躇している教員が多いのもまた事実であるので、3~5人の参観者からなる閉じられた公開性の『ミニ公開授業&検討会』の構想をした」わけです。

「二公開授業&検討会』の授業者と参観者に寄せて」

- 1)内容があり明るいムードの『二公開授業&検討会』にして下さい。
- 2)授業者は普段どおりの授業を心がけてください。
- 3)参観者もその授業のいいところを発見し、自分の授業にも生かすように心がけてください。
- 4)参観者は学生といっしょになって授業だけに集中しないでください。 大事なのは授業中の学生の反応です。授業の内容や授業者の行動の 変化によって学生は敏感に反応しているはずです。
- 5)参観者は今日参観した授業が15回分の1回だということに留意してください。
- 6)教室の環境などにも留意してください。
- 7)検討会では、参観者が授業者を誉めることから始めてください。

の検討会を行なう。検討会の終了後に授業者と参観者にそれぞれ A4-1 枚のアンケートに記入してもらい、それを今後の授業改善の資料に使う。」これをやってくれるという人に次の内容のものを配ります。 5)についてですが、これ検討会の中で時々ですね、「この先生は何も教えていないじゃないか、あのことを抜かしているじゃないか」と言われる参観者がいますが、そんな失礼なことはないですよ。これまで何回か授業をやってきた中に学生との信頼関係が築かれ、今回教えないけれども次回に教えるかもしれないわけですよ。これは考慮に入れておいていただかないと、たった一回だけの講演じゃないんですから。

また、次が授業者と参観者に出しても らうアンケート項目です、共通しており ます。

2)については、この表現も配慮しています。「よかった点」が先に来ています。 3)については、これは授業者だけに聞いているのではなく、参観者にも聞いているのです。この紙が1枚あることによって参観者の公開授

「三公開授業 & 検討会のアンケー F項目」

授業者と参観者に共通

- 1)この授業の学生の反応はどうでしたか。
- 2)この授業のよかった点と改善点。
- 3)今回の公開授業・検討会の成果をこれから の自分の授業にどのように生かしていこうと 考えていますか。

業&検討会に臨む態度が全然違います。 (「ようこそ先輩!」イラストを示して)では、この顔はわかる人は分かりますよね。そうです、山形大学の学長です。後から写真も出てきます。学長自ら去年から授業をし始めました。なぜかといいますと、山形大学でも FD 合宿セミナーが福大と同じように行なわれていますが、学長も第一回目にひらの一参加者として参加しています。最初はすごく辛かったようですが、参加してもらいました。そうしたときに、学長自身もすごく触発されて、何を始めたかといいますと、山形大学の OB を呼んで授業をしてもらおうじゃないかということを構想しました。まさに「ようこそ先輩!」を教養教育の中で企画してやっていくわけです。そこで、授業を始めた学長に何を言ったかというと、「学長も授業をやっているのだから、ミニ公開授業&検討会をやってください」ということで引き受けてもらいました。参観者は3人でした、迷惑な話だったと

思いますが。やり終えたあとで私から言いました、「「ようこそ先輩!」あの授業のネーミングは NHK のパクリじゃないですか」と・・、よそには使えないということになって、今年は「山大マインド」という名前に変わりました。そして学長も授業を静観しているだけでは駄目で学生の議論の輪の中に入ってくださいということになり、今年は学長も中に入っています。本当に素直で教育熱心な学長です。学長は、私とか他の方から言われたことを受け止め、悩みに悩んで改善していくわけです。学長が先頭に立ってくれているのはありがたいことなんです。しかし、学長が授業をやっていることは、ほとんどの人は知らないと思います。

では、このミニ公開授業の回数はどう変わったのか、平成13年度は6件です。それから右肩上がりで今年度は前期だけで十数件です。平成13年度の6件は私がすべて見に行きました。廊下ですれ違った時に、「先生の授業を見せて下さい」とお願いして、断られたことはないですね。体育の人にもお願いしました。また、メチャクチャ学生授業評価のポイントが高い人にもお願いしました。その授業を見にいったら、「これは・・・評価が高いのは当然だな」と思いました。メチャクチャな授業にかける労力です。もう真似はできません。一番低い点の授業の方も見に行きました。「これが一番低い点だったら、山形大学の水準はすごく高いな」と思いました。ずいぶん高いです、宣伝するみたいでなんですが。しかし、直るかというと厳しいものを感じました。その後どういう動きが出たかというと、ドイツ語の先生達が急に自分達で集まって「俺達も「ミニ公開授業&検討会」をやろうじゃないか」という動きが出てきました、これは理想的な姿になってきたなと私は思いました。

では、公開授業のタイプです。山形大学が今目指しているのは普通の授業、全体のレベルの向上です。 いい授業を本当に見せたいのですが、今はまだその 段階ではありません。悪い授業は改善してあげたい んです、これは大事なことだろうと考えています。 来年はたぶんできると思いますが、授業が上手じゃ ない人が自分はグループ内で最低点だったと言って

公開授業のタイプ 普通の授業(全体のレベルの向上) いい授業(いい見本) 悪い授業(授業の改善)

研究授業 (啓蒙活動)

くるんです。授業の途中で出て行ってしまう学生はどうするのか、あの学生たちに授業アンケートに答える権利があるのかなど・・・黄色い授業改善ハンドブックで書かれていますが、それを実際改善できるかどうかやることにしています。

次に啓蒙活動、新しい研究授業をやってみようということです。私が今日話したことが面白おかしく物語としてこの黄色のハンドブック「あっとおどろく授業の本が大学実践編」であります。中のマ

「あっとおどろく授業改善・山形大学実践編・」

目次 第 1部 授業をよくしよう -X 氏の授業改善奮闘記-第 2部 授業改善ワンポイント集 2 7項目 第 3部 新 は 1 授業と授業改善の実例 8項目

ンガは学生に書いてもらいました。授業中300人の学生の中から募りました。一人手を挙げてくれました。文章を見せて5ページに1枚の割で書いて欲しいとたのみました。ちなみにイラストのメガネは山形特産のサクランボです。

このガイドブックが予想以上の反響を呼んでびっくりしています。 これは朝日新聞の山形版ですが、教授に授業のハウツー本 -山形大 全教官に配布へ-」という見出して出ました。「教育の転

換 from Teaching to Learning 授業者中心から学習者中心へ」ということです。

次に「新しい授業プログラムの研究 学生主体型授業の研究と実践『自分を創る(教養セミナー)』」ですが、これは何かといいますとこれまで述べてまいりましたように既存の授業の底上げを狙っていますが、エリート段階からユニバーサル段階に転換して、

自分を作る(教養セミナー)」の教育目標

題解決能力の育成 企画力 能動的行動力 社会性 責任感

・リーダーシップ・コミュニケーション能力など

学生というのは全然変わってきているわけです。それで既存の授業だけで耐え切れるものなのかと他の大学の様子をうかがってみると、学生参加型とか学生主体型とかそういう授業というものを研究なさっているんです。これは山形大学もやらなければならないということで、やるのは私しかいませんからやりました。それは何なのかといいますと、意欲とか主体性とか自己学習能力を身に付けさせるということです。そして私は、自分を作る」という教養セミナー授業を立ち上げました。

またそれが新聞に載りまして、学生による学生のための授業スタート山形大で試み」というい いタイトルをつけてくれました。自由に何でもやっていいですよというシラバスを書いたところ、学生 が集まり演劇やビデオ映画を作ることになりました。中間発表があり、それについての質疑応答が あります。これからの企画を全部レジュメに書いて来なさい、と言いました。演劇はどこで練習したら いいんですか場所がありません、と言ってきました。雨に濡れないように橋の下がいいんじゃない、 と言ったら、そのとおりにやりました。機材が有りませんと言ったら、それは自分たちで考えて、と言う だけです。 旧県庁の前で夜の 8時から翌朝の 3時まで練習 しているんです。 それまでの人生で一 番頑張った、と彼らは最後に書いています。始めのころはどんな形であれ大学で発表会でもやれ ばいいかな、と私は考えていましたが、途中から急に、「よーし、これは金を取って発表会をしようと いうことにしました。「発表会も学生主体だよ」ということで。 それはいいですね」と言うことで発表会 をすることになったんです。そして300人以上入れる会場を借り切って、300円入場料を取って。 学生達は観客を呼ぶために、自分たちのアイデアで高校などを訪問していくんですが、 「300人以 上来たらどうしよう」、廊下に溢れ出たらどうしよう」などと本気で心配しているんですが、私はそん なに来ないと思いました。私は事務職員の方々に頼みました、100 人近くの事務職員の方が入場 券を買ってくれました。私はすごく感謝してます。学長夫妻、副学長も見に来てくれました。昨年と 今年は入場者 150人でした。今年は偶然会場の外に新聞記者がいて一日付き合って、結果、新 聞全面にこれだけ写真を載せてくれたんです。 学生は授業を進める過程で責任と自覚が生れてき ます。独力でやるということは大変なことですが、達成感がありますし、自信になります。これはおそ らく大学教育の中でこれまで組み込まれていなかったものだと思います。今、山形大学の中で学生 主体・参加型授業が少しずつ広まってきました。1つが突っ走ることにより、他への波及効果を及ぼ すものなのかなと思います。今年、このような合宿セミナーを3回やりました。30人規模で1泊2日の ものです。これを1週間ぶっ続けでやりました。何故かといいますと、大学評価・学位授与機構から、 この合宿セミナーは高い評価を得られましたが、でも毎年30人ずつやっていたら、全体がおわるの に 25年かかってしまうじゃないかと 「それならやってやろうじゃないか」ということで、毎月 1回ずつ などと面倒なことはやりたくないので、3回分を一気にやりました。蔵王山寮という山形大学で持っ ている東北地区大学の共同利用施設を使いました。

木曜日は管理人さんが休みで使えないということなので、その日は下でワークショップをやればいいじゃないか、ということになりました。今年の合宿セミナーには他の大学にも声をかけたんです

が、新潟大学から3名の方がいらっしゃいました。

それでは、FD によって教育 が本当に改善されているのでし ょうか。FD は、先生達が一生 懸命になることだけを奨励して いるわけではないのです。 学生中心ですから、学生が本当 に元気になっているかが問われ るわけです。FD を開始した時 点より単位合格率が軒並み上が っております。単位を落とす学 生が少なくなってきています。 一般教育の平均単位取得数です が、平成11年度まで年間25 単位だったのが、右肩上がりに 上がって3単位くらい増えてい ます。大きなところでは、エア コンの設置です。私の授業は3 00人でやっていますが、その 最初の授業アンケートでは「暑 さで気が遠くなった。死ぬかと 思った。」とか「呼吸ができなく

第 3回山形大学教養教育 FD 合宿セミナー

山形大学蔵王山寮にて 8月 (一泊二日、3回)

参加者:1回につき各学部から5 名=30 名 6 班×6 名)

新潟大学3名

平均年齢 48歳

プログラム

1山形大学のニーズと課題」

仙形大学をどのような大学にするか」

科目設計 1 授業名と目標の設定

科目設計 2 授業内容の作成」

科目設計3:シラバスの完成」

各プログラム 90分

参加者によるセミナーの運営 学生主体型授業を体験

10分 講師の説明

40 分 グループ作業

40 分 全体会 (各班のプロダウトの発表 ¼ 分×5 班 = 20 分、 全体討議 20 分)

セミナーで構想された授業

あなたの知らないリサイクル

ラフランス革命

最上川学のススメ

雪 酒 キムチ == 山形文化の多面的研究 = まるごと人間学

なった」とか、教えている方もフラフラなんですが、厳しい指摘があるわけです。それではエアコンが必要だろうということになって、現在では設置率7割近い教室にエアコンが設置されています。おそらく、国立大学の中でも稀有なことだと思います。アンケート結果が施策整備に反映されたと見ていいでしょう。ですから、もう、学生が夏に授業中暑いということはほとんどなくなりました。学生の授業評価アンケートを見ますと、13年度と14年度を比較しますと、僅かずつですが点数が高くなってきたんです。

それで、学長の提案で FD ばかりでなく、これまでのノウハウを使って SD をやり独法化に臨もうじゃないかということになりました。ほとんど、合宿セミナーと同じような形で SD を企画しました。参加者は 3 0 ~ 4 5 歳くらいまでの事務職員を対象としました。私はディレクターになりました。FD と何が違うかというと、創出プロジェクトということで、参加者にアイデアを出してもらって、それがよければ、学長裁量経費で実行に移そうじゃないかということです。創出プロジェクトを山の上の一泊二日だけではなく、その前から準備してもらったわけです。(写真について)会議室に学長と私がいます。明るくにこやかに笑っています。一方、事務の人たちの表情は暗いですね。これは、ただ一泊二日で泊まりに行くだけと思っていたのに、会議室でいきなり分厚い資料が渡されて、これを行くまでに準備しなさいと言われ、参加者は驚天動地だったのです。これは、参加者が一生懸命発表している光景です。ある事務の人達は、自分達でパワーポイントで作ってきて発表しました。この時何があったかというと参議院で独法化の法案が通り国大協の会議で学長が急遽東京で会議があり、夜の11時過ぎに山形に帰り翌朝6時に山寮に駆けつけて

くださいました。山形大学創出プロジェクトということで、情報評価室(東京分室)の創設とか、留学生センター(中国サテライト)の創設とか、(財)山形大学後援会の創設等々・・・これらを学長裁量経費要求書のフォーマットに仕上げました。最後に、「FD やSD で東北地方の大学が魅力的に **なせばなる!**」ということです。

以上で私のお話を終ります。ご清聴有難うございました。(拍手)

【質疑応答】

Q.(小野原雅夫 教育学部助教授) 講演型のワークショップに150から200人、それから、ワークショップに1年で30人×3で90人ですね、参加したとお聞きしたんですが、それは、要するに、トップダウンで来いということで呼んだのかということと、普通に呼ぶと(会場を見渡して・・・参加教職員は30人程度)にんなものかなと思うんですが。

A.講演型の150~200人というのは、各学部の割当てとかは何もありません。何もない状態で150~200人が集まっています。そして、鶴岡市にある農学部は本部のある山形市から100キロ離れています。米沢市にある工学部は50キロ離れています。医学部は市内でも6キロ離れています。このような地理的条件にも関わらず、全国でもこれだけ FD に集まる大学は無いと思います。では、どうしているのか。それは、事務の人達が教官といっしょになって、以前所属されていた学部の教官一人一人の研究室に電話をかけるわけです。来てくださいと。これが一番有効な方法だと思います。私は忙しいですから人集めはしませんけれども、それこそがミソなんだろうと思っています。合宿セミナーは各学部5名と割り当てています。今年など3回もやると5名出さないところがあります。私は忙しいから対処できないでいると、ある委員が「じゃあ、うちの学部から何名出しましょう」と言って7~8名出してくれる学部もあるわけです。それで全体の人数が揃います。今まで、学長も出ていますが、人文学部と教育学部の学部長が一般参加者として参加してくれました。教育学部は二名の評議員も出ました。それは、私から出てくださいとは言っていないのですがやってくれています。

Q.(白石昌子 教育学部教授) やはり、小田先生のように核になる方がいらっしゃらないと難しいと思うんですが、委員の任期とかそのあたりはどうなっているのでしょうか。

A.この委員会の任期は2年です。学部の推薦なんですけれども。私が入ったときには前任者がいまして、その方が辞めていったので、友人でしたその方が私を指名していったのです。友達ですからじゃあといって引き受けました。そして、公開授業とかアンケートとかをやりまして、一年経ってこのくらいやれればいいだろうと思いましたが、その時お世話になった北大の先生とか京大の先生とかに「小田さん、来年どうするの。」と聞かれ、「来年やめるよ」と私は答えたんですが、「それはないだろう。ここまできて止めたら何も無くなる」と言われました。私はやめてもいいんだと軽く考えていたんですが、その先生方にも大変お世話になっていますから、やらないことについては不義理を感じ、また次の2年に向かっているわけです。ある面で仕方がないなというところはあります。後継者を作りたいということもあります。本当に必要なのは高等教育センターだと思っています。他の大学ではすでにできていますが、実際、全学を動かすわけですから、動かす力、学長や副学長など執行部がしっかりやらない限り、FD研究がそのまま FD の運営に反映されるわ

けないですから、ここは動かしてナンボのものですから、ここは大事にしなければいけな いなと思います。

(司会:小島 定 全学教育主管)

うちが抱えている切実な質問が出されましたが、他にありましたら・・・いかがでしょうか。 それでは他に質問が無いようですので、小田先生のご講演は終らせていただきます。どう も有難うございました。



私 の 授 業 改 善

「体力トレーニング」のススメ

教育学部教授 川本和久

1. はじめに

福島大学で教鞭をとって、20年になります。最初の数年間は、若かったせいもあるのでしょうが、ただ自分が知っていることを一生懸命伝えるだけの授業だったと思います。その当時から、授業の最終回には、授業評価アンケートのようなものをして、次年度の授業に活かす工夫をしていました。30歳前後は「授業への情熱」だけは、非常に高いポイントを獲得していました。ただ、授業に対するテクニックなどは、学生の正直な評価がされていました。

40歳になったときは、授業のテクニックや内容などの評価ポイントは上がったのですが、他の要素に比べて「情熱」の評価ポイントがやや低くなっていました。この結果をどう解釈するかです。この10年間で多くの知識を身につけているので、ひとつでも多くのことを学生に伝えたいとの思いは、非常に強く持っています。ですから、10年前と比べて、授業に対する情熱は高いはずです。しかし、ポイントは低くなっている。

そのとき、学生の情熱のとらえ方が、10年前と違っていることに気づきました。元来私は、体育会系なので、俺についてこい!とガンガン授業を引っ張って、自分の言いたいことをどんどん押しつけることが、情熱の表れだと勘違いしている所がありました。実際に当時は、それで良かったのかも知れません。ただ、世の中も変わり、学生も変わり、社会的ニーズ変わっている中で、自分を変えないと対応できないことがわかりました。そこで、情熱の表し方を変えて、授業に取り組んでみました。

2.30歳台の授業「体力トレーニング」

いわゆる体力トレーニングの具体的な実施方法を身につけることをねらいとした体育の専攻学生のための実技科目です。1回目の授業で、体力トレーニング実施上、必要不可欠な生理学的な説明をおこないます。学生達は他の先生の講義で、生理学の勉強はしているのですが、勉強したどこの部分がこの「体力トレーニング」に必要なのかがわかっていませんから、もう一度勉強してほしいところや、これだけは知っていなければいけないところを指示します。そういう意味では、理論が分かって、実践というステップを踏んでいきます。

2回目からは、ウェイトトレーニング(フリーウェイト・マシーン)、サーキットトレーニング、スーパーウェイトサーキットトレーニング、インターバルトレーニング、メディシンボールトレーニング、アジリティドリル、スピードトレーニング、フレキシビリティトレーニング、コントロールテストなどと呼ばれる筋力を高めるトレーニング、持久力を高めるトレーニング、柔軟性を高めるトレーニング、敏捷性を高めるトレーニングを次から次へと紹介していきます。

紹介する内容は、基本的なことから始まって、世界の最新情報まで、多岐にわたっています。特に敏捷性を中心とする新たなトレーニングがアメリカを中心に開発されていた時代でしたから、最先端のトレーニングをどんどん紹介していきました。東京を中心に行われるこの手の講習会には、できるだけ参加して、最新情報を学生に伝達していくことが、自分の使命だとまで思っていました。実際にトレーニングの本場アメリカまで、研修にも行きました。

自分としては、日本だけではなく、世界の最先端のトレーニング方法を紹介しているという自負がありましたから、非常に満足度の高い授業でした。また、実際に学生の満足度も高く、授業評価も高いものでした。

この授業評価の「授業への情熱」の点数が変わりだしたのが、今から5年ほど前です。こちらは、一生懸命に最新トレーニング情報を提供しているにもかかわらず、「授業への情熱」のポイントが少しずつ下がり出しました。気がつくと、時代はインターネットを駆使した双方向型の情報伝達の時代になっていました。私がやっていた授業は、教師が自分の満足する情報を、ただ、一生懸命に学生に垂れ流している昔ながらのものでした。「俺の気持ちは分かるはず」といった感覚も、教師の年齢が上がるにつれて、ずれてきます。ゼネレーションギャップに気付くべきでした。そこで、双方向型の情報のやりとりの中で、授業への情熱を感じてもらう授業へと転換していきました。年齢を重ねたので、授業への情熱がなくなったとは思っていません、逆に若いモンには負けない、くらいには思っています。が、私の情熱を授業という形で、学生に理解させることが出来なかったのです。

3.「体力トレーニング」へのオヤジの挑戦

授業で教えたいことは、基本的には変わりません。というか、変わるはずもありません。 ただ、テーマは、双方向です。そこから私の「授業への情熱」を理解してもらうことです。 「双方向」というと教師だけではなく、学生からの発信が必要です。何を発信してもらお うかと考えたときに、学生に発信するネタを提供することが大切だと思いました。体力ト レーニングですから、生理学的な見地が必要となります。そこで、運動中の生理的な変化 のデータをとることにしました。このデータを介したやりとりが、双方向を実現してくれ るという発想です。

体力トレーニングでは、スタミナ(有酸素性能力)を向上させるためには、最大の70%程度の強度で長い時間走ります。今までの授業では、最大の70%はおおよそこのくらいのスピードだから、このスピードで走ってみなさい。といって、体験させて、スピード感やトレーニング強度を実感していくものでした。今回は、これに心拍計を使って、走行中の心拍数をモニターします。まず、運動強度(走る速さ)によって、心拍数が比例的に変化することを実体験させます。いままでは、こちらが準備したグラフの提示だけでした。自分たちのデータを用いますから、学生は面白がりました。それから、70%の強度で、スタミナトレーニングに励んでいきます。いままでは、走ること = 辛いことだったので、これをやる授業の日は学生のテンションが、やや下がっていたのですが、今回は、意欲的に取り組んでくれました。そこで、有酸素性能力向上のためのトレーニングについてレポートを出すと、しっかりしたものを書くようになりました。

続いて、運動強度のもう一つの要素である血液中の乳酸濃度を測定します。以前は実験室での測定だけでしたが、現在は簡便にどこでも測定できるようになりました。この乳酸値をトレーニングに活かすことができると、自由自在にトレーニング強度を設定して、トレーニング効果を上げることが可能となります。やや辛いと感じるような体力トレーニングの授業では、必ず血中乳酸濃度を測定して、レポートに活かすようにします。そうすると、自ら進んで乳酸を出すように辛いことをやる学生が出てきます。今度は私が学生達の「授業への情熱」を感じました。教師の評価ポイントである「授業への情熱」というのは、実は学生を見ればわかるというのが、遅まきながらわかりました。

ここ数年の「体力トレーニング」は、徹底して生理学的データなどを測定して、データを双方向の媒体にして授業を行いました。学生から帰ってきますから、また帰さなければいけません。授業ノートが2冊になる学生も出てきました。「授業への情熱」をその場限りのものとしてとらえていたことも事実です。実は、授業をやりっ放しではなく、フォローしていきながら、しっかり内容を理解させ、学生を一定レベルに引き上げることが重要だと気づきました。「授業への情熱」の評価ポイント?確実に上がりました。

2003年度後期に、本学赴任以来はじめての『経済学概論A』を担当することになった。 講義の対象は一年生。「必修」の授業である。年来「概論」のあり方について講座や課程 などの会議で経験交流や意見交換をしてきた経験が頭をはなれず、授業計画の立案には結 局最後まで悩み続け、恥ずかしながら半年前ものシラバスの執筆期限には結局間に合わな いという状況に至っていた。導入教育か基礎教育かという一般的な議論はともかく、私の 念頭にあって、私を最後まで悩ませつづけていた課題はおおよそ次のような諸点だった。

まず第一に一般的なことで言えば、我が国の大学で扱われているのは「経済学学」ではないか、という我が国経済学界のさる重鎮の発言の鮮烈な記憶があった。これには、いまや同業者となった自分自身の問題として今なお胸中を離れない呪縛となっている。「経済」を研究・教育しているのではなく、「経済学」を研究・教育しているだけではないのかという主旨である。これは、現実の経済事象に対して無縁のところで日本の「経済学」が存在しているのではないかというニュアンスも感じられる恐ろしい言葉である。

第二に、より具体的なところでいえば、学生の勉学習慣にかかわる問題が存在している。かつての「概論」では、極めて体系的な、いかにも最高学府にふさわしい厳密な講義が、綿密なレジュメを配付しつつ行われていたこともあった。大学生とはいえ、最初にこのような講義に接した学生たちは、多分に消化不良を起こしつつ、理解できない 面白くない勉強しない 理解できないという悪循環に陥ってしまうという危険性も存在した。大学進学率がまださほど高くなかった時代には、大学生には一種の「見栄」があったから、「知らない」・「わからない」は「恥」だという意識がどこかにあって、人に隠れてでも自分で勉強していたのである。現在、「わかりません」と公言してもそれは「恥ずかしい」ことではなくなっているように見える。教師の教え方が悪いと逆に非難されかねない。この現実にどう対応すべきか。what is to be done?

第三に、多くの学生が新聞を読んでいないという現状もしばしば耳にしてきていた。このことは、経済学の理論を説明する際に現実経済事象の具体例を提示しても、経済の現状それ自体についての予備知識がないところでは、例証という方法がまったく無力であることを意味する。従って、理論の解説は必然的に、学生にとっては堪え難く難解で理解不能という印象を与えるのみに終わるということになる。学年が進行しても同様である。

第四に、では具体的経済事象について、新聞記事などを資料として配付して説明すればいいかというと、そのままでは逆に、「別に授業に出なくても、新聞を読んだりテレビのニュースを見ているから出席しなくてもいいや」という学生の意識が生まれ、結局授業への出席動機自体が薄れるという結果をもたらしかねない。これは、出席が間遠くなってしまった身近の学生から聞いた感想であった。結局、本来の経済理論に行き着く前に思考停止がおこってしまうことになる。

さらに、これらとは別の側面での問題として、第五に、最初の「必修」の授業として「概論」に接するのは、高校までの十数年間にわたって「教科書」中心の「覚える」という勉強方法を叩き込まれた学生であるということ。「試験に出ない知識は覚える必要がない」と教えられた、という話すら耳にした経験もあるくらいである。そのうえさらに……等々。結局、悩みは尽きず、そのまま後期授業開始の週に突入してしまったというのが偽らざるところである。シラバスも実は白紙状態だった。

腹をくくった最初の講義で、「実験的」な試みをさせていただく旨を宣言し、「自分で考える」「自分で調べる」ことを学生諸君に要求した。この要求は、後にも何度か繰り返し強調した。また、テキスト(教科書)は使用しないこと、レジュメも配付しないこと、

教壇から問題を提起しても、すぐに「答え」を与えないこと、等々を説明した。最初に提起したのは「お金で買えないものはなにか」という素朴な質問。アンケートの結果、「時間」「命」など様々な回答が寄せられた。これらの代表的な回答に対し、次の時間に、「特急料金」「バイトの時間給」「医者や薬にかかる医療費」などの「反対事例」を出して説明し、もう少し考える様に促した。最も身近な「お金」について「掘り下げて考えてみる」ことを要求したのである。ロビンソン・クルーソーが無人島での生活基盤整備の際に難破船で発見した「お金」をどのように観たかというコピーの配付も行った。経済生活の根底には「労働」があることをこれによって示し、『国富論』から「分業」を説明して「交換」へと進み、「貨幣」の本質へと進んで「価値」および表象としての「価格」について説明した。このなかで、「お金」というものの見方が大きく変わったという感想が多く寄せられた。

これとは並行的に、「概論」の目標を、経済学部生!なんだから(1)新聞の経済記事くら いは読めるようになること、(2)経済学辞典が自分で引けるようになること、(3)経済学独 特の考え方を知ること、(4)経済事象に興味が持てるようになることの四項目で示して、授 業期間中に頻繁にこの目標を繰り返した。実は、最初の数回の時間に、新聞の経済欄と辞 典の「貨幣」の項目のコピーを配付して実際に読んでもらい、そこに書かれていることを 理解できるかどうかを体験させておいたのである。学生達は、自分がそれらの記述につい ての説明を求められて、本当は理解できていないことを知ってショックを受けていたので ある。調べるための辞典すら理解できないことはかなり深刻であることを実体験させたの だ。後に、『広辞苑』の経済用語から「参照項目」を連続的に引いて行くという方法を示 唆したり、同じ事項を異なる四紙の記事ではどのように違っているかを示したりした。最 も基本的な所は期間中なんどでも繰り返し説明したが、それ以上わからない部分は自分で 調べ・考えるべきことを繰り返し強調した。水辺までは連れて行くが、水を飲むのは君達 自身であることを繰り返したのである。実際、抜き打ち「テスト」を含め期間中四回ほど 求められた「感想」には、新聞やニュースに自ら接するようになった、自分で調べるよう になったと記す学生が徐々に出始めていた。「レジュメがないので理解しづらい」という 声はかなり多かったが、徐々に減っていった(あきらめた?)し、逆にその分授業に集中 しノートをとるように努力したという声も出始めてきた(数は多くなかったが)。

授業最終日に短時間で実施したFDアンケートの結果は、一般的な評価・理解度の水準が低くて落胆させられたのだが、出席率ではなく自習時間の長さを基準としてみた時、少人数だったが、これと理解度との間に明確な相関がでていることは希望であった。

最終試験では、「論理的説明能力」、「新聞記事の理解の仕方」を求めたのだが、どのような経済事象が重要と思うかという「問題意識」の調査と、学生自身の「自己評価」を求め、そこに一定の「ゲタをはかせた」(まあ、「マーケッティング」コストですな)。 先のFDアンケートの結果とは異なり、存外に「経済問題に興味を持つようになった」、「経済ニュースに目が行くようになった」などという感想が多く寄せられ、なかには、「受講を期に新聞を取りはじめた」というものすらあったのには、過大評価はできないものの、今回の「実験」は失敗ではなかったとの感触を得た思いであった。思わずこちらがガッツポーズを取りたくなるような感想もあったが、今は舞い上がらずに割り引いて受け止めることにしよう。だが、身近な新聞の経済ニュースですら、「わかるようになった・理解できるようになった」という楽しさを実感できさえすれば、そこからおのずから興味関心が湧き、自分でもっと調べてみようという動機が生まれ、その結果理解度が深まるのだ、という「ありきたりの」事実が多くの感想のなかで示されていたことは、「理解度はまだ不足」という「自己評価」と共に記されていたにもかかわらず、むしろ、自分がとりあえず専門へのスタートラインに立ったことを自覚させたという意味で楽観的に了解すべきことなのかもしれない。

1.はじめに

「講義はエンターテインメントである」というのが私の考えである。一人に与えられた90分の舞台に、お金を払って来ているたくさんの聴衆。その聴衆になるたけ満足してもらえるようにパフォーマンスをして、その評価を(FD アンケートのように)受ける。このような点からも、講義とエンターテインメントの「場」としての類似性は認められるだろう。もちろん、大学教育である以上、単なる楽しさだけでは成り立たない。"funny & interesting"、つまり「知的な面白さ」と「笑いのある楽しさ」とを併せ持った講義が、私が授業改善として目指しているものである。なにぶん、まだ福大3年目という中で、まだまだ試行錯誤の段階であるが、ここではその試みを記すこととしたい。

2.講義の概要

専門科目は「環境計画論」であり、行政社会学部3年次配当の2単位科目である。今年度は後期に週一回の開講であった。開講日が月曜だったため休日になることが多く、回数は計11回であった。今年度の登録者数は143名で、学部の内訳は行社115教育27経済1であった。今年は、特に教育の学生が多く受講しているのが特徴であった。教務担当の方の話では、他学部履修の受け皿25名を超える授業は行社では初めてで、受講調整を行う必要があるとのことであったが、超過人数が若干名であったため、調整は行わず全員を受け入れることとした。成績評価は、出席点50点、期末レポート50点の配分で行った。

3.授業改善の方法

分かりやすく、かつ funny & interesting な講義とするために行った方法は、大きく次の5つにまとめられる。すなわち、 講義目標と内容構成の明示、 理解促進のための資料や例の提示、 練習問題の実施、 感想等のフィードバック、 その他楽しさを増すためのネタの仕込み、である。これらについて順に概要を述べる。

(1)講義目標と内容構成の明示

講義の最初で、期末レポートで求める内容の提示を行った。最終的にレポートとして取り組んでもらいたい内容を、最初の講義から目標として提示することで、学生がそれを意識しながら受講できるようにした。また、全ての講義の構成を俯瞰し、各講義が全体のどこに位置しているかを確認する作業を、半期の間で3回程度行った。

(2)理解促進のための資料や例の提示

講義内容をより分かりやすく伝えるために、毎回レジュメと Power Point のスライドの二つを用意した。専門講義の性格上、計画の図面や現場の写真などの視覚的な情報が必要となるため、文字の情報だけでなく、図や写真、動画ファイル等を用いて資料を構成した。レジュメは、Power Point の配布資料ではなく、レジュメ形式で別途まとめたものを A4 用紙 5~12 ページ程度で毎回作成し、配布した。

また、難しい内容や重要な概念を理解してもらうために、様々な素材や例示を用いた。例えば、地球環境のイメージについては、宇宙から見た地球をプロジェクターで映し、1000万分の1としてみた場合の水や大気の量を理解してもらうために、バケツやペットボトル、スポイトなどを持ち込んで相対的な量を説明した。また、循環型社会のイメージについては、複数の主体が資源や廃棄物をお互いにやりとりして持続可能な社会を形成している状態をイメージしてもらうために、お手玉を使ったジャグリングを実際にやりながら説明し

た。野生生物の絶滅状況のイメージについては、 バルーンアートで動物をつくり、絶滅の危機に 瀕している割合がどのくらいであるかを視覚的 に示した。また、部分の最適化が必ずしも全体 の最適化にはつながらないことを実感してもら うために、図1のような顔のパーツの配置を例 に用いて説明した。

(3)練習問題の実施

授業の内容の理解と、関連した思考を深めるための練習問題を毎回行った。前半は分かりやすい問題から始め、後半の回では答えが一つとは限らない問題をつくり、意見を述べてもらうタイプとした。これは、環境問題はその人の立場によって捉え方が異なるため、様々な思考を経験してもらうことを意図したものである。2に示すように、架空の人物を登場させてその人と会話するような設定とした。練習問題の解説は次の講義の最初に行い、代表的な解答例をレジュメにのせるとともに、Power Point のスライド上でも映写して解説を行った。

(4)感想等のフィードバック

毎回の講義で、前回の練習問題の解説と、感想等の提示を行った。講義の中でも、「PDCA サ

部分最適化と全体の最適化

図1 概念の理解促進のために 用いた図(例)

エネルギーに関する練習問題

■前回ボコボコにツッこまれたA君。気を取り直して、興味をもっていてスコカーについてあるアイディアを考えた。 自動車が走っているときを考えた。 自動車が走っているときないが速にして16.7m/sであり、一般的に風力発電が薄を開始するのに必要とされる風速のサイン風速、か40m/sを超えている。とすれる、上では、車に風車をのっけて発電し、若えた電力でモーターを動かすハイブリッドにすれば、より指エネルギーになるはずだ。」
さて、今回のアイディアは「法く」くだろうか。 遠慮せずツッコミを入れてください。

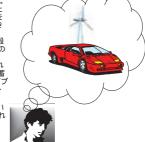


図2 架空人物と会話する設定の練習問題(例)

イクルにおける"評価"の重要性」について述べているため、学生の感想等の評価を重視し、できるだけ速やかに講義にフィードバックさせるようにした。「講義の感想等」というレジュメを講義のレジュメとは別に A4 用紙 3~5ページ程度で作成し、すべての学生の講義に対する感想や質問、意見などをカテゴリー別にまとめて配布した。資料の様式変更やマイクの使用など、学生の感想をもとにいくつか改善を行った。

(5)その他楽しさを増すためのネタの仕込み

講義内容に関する専門的な内容を深めた上で、楽しさを増すためのネタをなるたけ毎回 仕込むこととした。様々なネタを用意したが、代表的なものは"コスプレ"である。家畜 からの有機性廃棄物の循環について述べるときに牛の帽子をかぶったり、野生生物の交通 事故の話をするときにタヌキの着ぐるみを着たり、クリスマスの時期にサンタの格好をす るなどして講義を行った。

4.授業改善の方法に対する学生の評価

以上のような方法によって、果たしてどの程度授業を改善することができたのか。このことについて簡単に答えを出すことはできないが、ここでは、出席者数の推移と、半期の講義終了後の学生の感想(FD プロジェクトのアンケート、講義独自のアンケート、期末レポートの中で自主的に書かれた感想の3つ)を中心として、学生の評価について述べる。

(1)出席者数の推移

全11回のうち、初回を除く出席者数の推移を図3に示す。後期を通じて70~80名程度で比較的安定して推移した。登録者総数に近づくよう増えていくということはなかったが、

後半になると出席者数が減少していくといった傾向はあまり見られなかった。出席点の配分が高かったことも効いているだろうが、「出席したくなる授業」にすることがある程度できたことを示すものではないかと考えられる。なお、最終的にレポートを提出した学生は86名であった。

(2)学生の感想

講義終了後に得られた学生の感想について、先述した授業改善の方法に主に対応するものをまとめたのが表1である。一部否

定的な意見もあったが、 概ね好意的な感想が得ら れた。特に、エンターテ インメントとしての講義 の性格については、「今ま で受けてきた授業の中で 一番熱中した授業でし た!!」『楽しく学ぶ"と いう面でとても面白い講 義をしてくれたと思う。」 などの感想がよせられた。 また、教育学部の学生に も、講義で学んだことと して「生徒をひきつける 方法「具体的な量をイメ ージするための様々な工 夫」などをあげる人や、 「難しいこともわかりや すく!楽しく!というや り方に新鮮さを感じまし た。」などの感想を述べた 人もいて、将来の教育者 である学生にも参考にな る面があったと感じた。

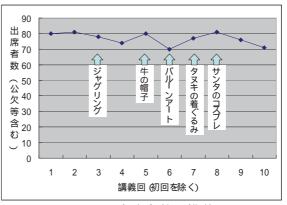


図3 出席者数の推移

表1 講義に対する学生の感想(例)

衣 一 調義に対する子王の恩忠(例)				
授業改善の方法	学生の感想 (例)			
講義全体の進め方	授業が終わってしまうのが本当にせつないです、、、。 今まで受けてきた授業			
(エンターテインメン	の中で一番熱中した授業でした!体当です!!今まで知らなかった手法やら考えや			
として)	ら知識、たくさん、本当に学べて良かったです。」			
	今まで受けた講義の中で一番面白かった講義でした。」			
	学生の集中力が切れないように工夫が色々となされていてとてもよいと思う。」			
	『楽し〈学ぶ"といる面でとても面白い講義をして〈れたと思る。」			
	教え方が、というか授業の進め方が上手い。楽し〈学べた。」			
	アメ(コスプレ)とムチ (マジメ)が絶妙な講義だったと思います。」			
	先生の授業の様子は前々から色々とウワサに聞いていましたが、期待以上の			
	講義(学生に配慮した授業形態、理解を助ける資料の効果的な配布、場の雰囲			
	気をやわらげる衣装・小ネタなどなど)で非常に満足しています。先生の講義			
	にかける情熱が十分すぎるほど伝わってきました。」			
理解促進のための	レジュメとかの量も多く 詳しく書かれているうえに、先生がさらにパワーポイン			
資料や例の提示	トを使ってわかりやすく説明してくれたのでよく勉強できたと思いました。たくさん			
	の工夫があり、とても楽しかったです。」			
	分かりやすいように身近な例を出してくれて助かったし興味がつきなかった。」			
	スライド+ レジュメですご〈分かりやすかったです。」			
	りパソコン使った映像が <i>と</i> てもよかった。」			
練習問題の実施	毎回の練習問題は集中力持続に効果的でした。」			
	練習問題を通じて、環境について理解を深めることができた。」			
	毎回講義の終わりに練習問題を解いたことも、かなり頭を悩ませはしました			
	が、環境を学ぶにあたってとても重要だったと思います。」			
感想等のフィードバ	レジュメが丁寧だった (先週の受講生の感想、意見などを毎回全部書き出して			
ック	いることに熱意が感じられた 他の人が何を考えているのか分かって大変良か			
	った!)」			
	他の方の意見や感想を読んで、もっと違う方面からの見方、考え方があるとい			
	うことを知りました」			
その他楽しさを増す	毎回色々な趣向が施されていて(着ぐるみとか…笑)、講義を受けるのが楽し			
ためのネタの仕込	みでした。」			
み	先生の芸人なみに体を張った姿には感動すら覚えました。」			
	「ユーモアにあふれた授業で、他学部履修でも苦にならずにすんだ。」			
	はじめのほう出席していなかった事がくやまれます。こんなおもしろいことする			
	授業だと分かってたら出席したのに・・・。」			
	ネタで学生を引きつける、いい手法だと思います。」			
	授業の内容が難しかったにも関わらず、環境計画論の授業が難しいという印			
	象があまりないのは、先生のパフォーマンスの影響が大きいみたいです。次回			
	もぜひ機会があったら先生の授業をとりたいと思います。」			

5.おわりに

授業改善は、第一に学生のために行うものである。この考え方に立てば、受講する学生は「お客さん」であり、お客さんに満足してもらうような授業にすることが求められる。もちろん、その過程で講義をする側も成長することができる。そこに必要なものを一言で表現するならば「もてなしの心」ということになるだろう。どのような講義にすればより学生に満足してもらえるものになるのか。「知的な面白さ」と「笑いのある楽しさ」を車の両輪として、"エンターテインメント"としての内容を高めていけるように、これからも授業改善を行っていきたい。

福島大学 第2回 FDワークショップ

「学ぶ力」をデザインする・- 学生の「学ぶ力」をデザインする・

報告 書

日時:2003年9月25-26日

会場 野地温泉ホテル

主催:福島大学 FDプロジェクト

(FDワークショップ実行委員会)

第2回FDワークショップ報告

FDワークショップ実行委員会委員長 白石 昌子

昨年に引き続き、今年度もFDワークショップを実施しました。今回は『学ぶ力 - 学生の「学ぶ力」をデザインする - 』をテーマに、9月25日、26日の日程で野地温泉ホテルを会場に、参加者30名(教員16名、学生11名、事務官3名)のワークショップとなりました。

第2回目ということで、実施計画も昨年度の輪郭をなぞりながらの立案ではありましたが、それでもテーマの決定に始まって具体的な進行計画など、実施するまでには長い道のりを辿ったのもまた事実であります。当日の内容はこの報告書の4頁以降に詳しく述べられていますので、ここでは実施に至るまでの経緯なども含めて報告することにします。

まず今回の大きな特徴は、学生参加型のワークショップであったことです。これに関わってテーマ設定のいきさつから述べることにします。今回のテーマに至ったきっかけは、FDプロジェクトとして実施されている「教育改善のための学生アンケート」の集計結果でした。この結果は、学生が望んでいる授業のあり方を、極めて漠然とではありますがわれわれに示唆してくれます。しかしその一方で、教員の側からの「大学でそのようなことを望まれても」との声を聞くこともあります。こうした教員の意見は主として、学生の講義を聞く姿勢や能力の欠如、あるいは衰弱を指摘することへとつながっていきます。しかしこのような「あるべき学生像」にしても、教員間で一致した見解があるわけではなく、教員集団での世代間ギャップも見られることに気づかされました。

そこで、まずわれわれ教員が今まで漠然と描いていた、学生の「学ぶ力」の内容を明確にすること、さらに現在の学生の持っている「学ぶ力」の実態を認識することの二点を出発点として、今回のテーマが設定されたわけです。そしてこの作業を進めていくにあたり、学生の生の声に耳を傾けることが不可欠であるとの理由で、学生参加型のワークショップが立案されました。学生の意見を受け止めながら、授業に対する教員と学生の考え方の「ずれ」を発見し、それを教員・学生双方で共有することをワークショップのねらいの一つとして掲げました。

さて、それでは「学ぶ力」とは何かということになります。さまざまな概念レベルで「学ぶ力」を設定することが可能です。また、専門分野の差異によっても、現象としての力は異なる形で現れます。それらのことを踏まえながら、大学で「学ぶ」ためにはどのような「力」が必要なのかを考えること、さらに大学での「学び」を学生が実践していくために必要なスタディ・スキルを具体化することを、もう一つのねらいとしました。

具体化にあたっては、教育重視の大学を目指すこれからの福島大学が、すべての学生に対して獲得を支援・保障すべき「学ぶ力」は何であるかという視点から考えました。その結果、「生徒」から「学生」に変わる大学1年生の時点で必要なスタディ・スキルに焦点化し、それを実際の授業として計画するために「教養演習 I」を設定して、半期分の計画と1コマの授業を作成することを作業目標においたわけです。

以上のことを目標にして、形式は昨年度のやり方を踏襲し、「はじめに」と3つのステップを設定して、グループに分かれて話し合いながら課題に向けて成果物を作成することを目指しました。グループは可能な限り、教員と学生を同数に、学部が偏らないように、学生の学年が偏らないようにという配慮をしながら構成しました。各グループには、ファシ

リテーターという進行役と記録係が配置されています。

グループの話し合いは、会場到着と同時に始められ、「はじめに」のパートでは雰囲気づくりをしながら、ワークショップの目標確認が行われました。今回のファシリテータには進行役という任務に加えて、学生の意見を引き出すという重要な役割がありましたが、どのグループもその課題を見事にクリアされ、十分に学生の意見を反映しながらの話し合いになっていたと思います。

ステップ1では、授業に対する教員と学生の考えを出し合い、「ずれ」を発見することを目指しました。学生は日ごろ授業や教員に対して思っていることを、また教員は学生に対して思っていることをそれぞれの立場から忌憚なく出し合い、最後にグループごとに結果を報告しステップ2へとつないでいきました。

ステップ2では、今回対象にした教養演習 I の具体的なプラン作りの作業に入ります。 半期 12 回分の計画と、その内の 1 回分の授業プログラムを作成するわけです。ワークショップの中で一番時間をさいてある、いわば山場のステップになります。しかしグループによっては深夜の話し合いが行われたり、このステップが次のステップの時間にずれ込んだりと、課題に対する時間不足が反省されるところでもありました。逆に言えば、それだけグループの話し合いが白熱していたとも言えるでしょう。

各グループのプランはステップ3で全体に向けて報告されました。今回はコンピュータを数台会場に持ち込み、その場で打ち込み印字して、各人に配付できるようにしました。この資料と発表者(学生が発表したグループが多かったのですが)の熱意とで、各グループの労作の内容が理解しやすかったように思います。残念ながら予定した時間が押してしまっており、全体として十分な討議を行うことができなかったのが心残りです。最後にちょっとした遊びとして、参加者全員で、各グループの成果物の中でよいと思うものに投票を行いました。

以上の各ステップのグループごとの詳細な内容は、ファシリテータのまとめに述べられています。時間がなくなり、今回初参加である学生のワークショップへの感想は、帰りの車中で聞くことになってしまいましたが、われわれの予想をはるかに超えて、すべての学生が好意的な受け止めをしてくれ、満足した、来年も参加したい、友達に勧めたいなどの感想を述べてくれました。このことは終了後のアンケートにも反映しており、今回のワークショップへの肯定的な反応が多かったのは、主として学生側の反応の影響であろうと思われます。このような学生の反応をみると、今回の学生参加型のワークショップは、授業改善へ向けてのワークショップを学生との協働で行う可能性を追求できたという意義があっただけでなく、学生がこのような場で教員と話し合うのを強く望んでいることもわかり、この点でも意味深いものであったと言えます。

次回に向けての反省点は多々ありますが、回を重ねるごとに充実した内容に発展し、授

業改善に向けての真価を発揮するように成してのしいと思います。 クショッと思います。 クッフや参加力のがさまでいます。 さって、おないまがそした。 で、お疲れ様でした。



報告書 3

目 次

1	. 日程概要・参加者名簿・班構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 4
2	. はじめに 学生の「学ぶ力」をデザインする	
	小島 定(FDワークショップ実行委員 全学教育主管) ・・・・・・	p. 6
3	. F D ワークショップのねらい ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p. 7
4	. プログラム内容	
	・はじめに このワークショップで目指すこと ・・・・・・・・・・	p. 8
	・ステップ1 授業における教員と学生の考え方の「ずれ」を明らかにする ・	p. 8
	・ステップ2 「ずれ」の克服を目指して授業プログラムをつくろう ・・・・	p. 9
	・ステップ3 全体ワークショップ - 「学ぶ力」 学生の学ぶ力をデザインする	p. 11
5	. 詳細タイムテープル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.12
6	. FDワークショップ資料	
	「教育改善のための学生アンケート」における授業評価ポイント平均値の推移(福島大学FDプロジェクト調	查)
	共通教育科目:科目群別平均値の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.14
	専門教育科目:学部別平均値の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.15
7	.各班成果報告及び成果物	
	・A班(ファシリテーター:小野原雅夫)・・・・・・・・・・・・・	p.16
	・B班(ファシリテーター:田村奈保子)・・・・・・・・・・・・・	p.20
	・C班(ファシリテーター:市 川 佳 宏)・・・・・・・・・・・・・	p.24
	・D班(ファシリテーター:飯 島 充 男)・・・・・・・・・・・・・	p.28
ጸ	第 2 向 F D ワークショップ 参加者アンケート 結里 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	n 32

1.日程概要 参加者名簿 班構成

日程概要

【9月25日(木)】	【9月26日(金)】
12:30 本部玄関集合・大学出	発 8:30 「ステップ2」再開
「はじめに」	10:00 「ステップ3」
1 3 : 1 5 │ 会場到着	11:30 閉会
13:30 開会 「はじめに」	1 2:00 会場出発
13:50 「ステップ1」	12:45 大学着・解散
15:20 休憩	
15:30「ステップ2」	
19:30 夕食・入浴等	
2 1:00 懇親会	

参加者名簿

多加日口 海		所属部局	氏 名	所属班
	W・S実行委員	副学長	今野順夫	A班
		全学教育主管	小島 定	B班
		委員長 教育学部	白石昌子	
		行政社会学部 ファシリテーター	田村奈保子	B班
		行政社会学部	北 村 寧	C 班
		経済学部	佐 野 孝 治	D班
教	テフトア	教育学部	小野原雅夫	A 班
	ーァ タシー リ	経済学部	市川佳宏	C 班
	lij	経済学部	飯 島 充 男	D班
員		教育学部	神長裕明	B 班
		教育学部	初澤 敏生	D班
	そ	教育学部	澁 澤 尚	C 班
	の ()	教育学部	天 形 健	A 班
	他	行政社会学部	高 瀬 雅 男	D班
		行政社会学部	中山庸子	C班
		経済学部	清水修二	B班
		教育学部 1 年生	Αさん	A 班
		教育学部 1 年生	Bさん	C 班
		教育学部 1 年生	Cさん	D班
l .	***	行政社会学部 2 年生	Dさん	D班
:	学	行政社会学部 2 年生	Εさん	B班
		行政社会学部 1 年生	Fさん	C班
生		行政社会学部 1 年生	Gさん	A 班
		経済学部 2 年生	Ηさん	A 班
		経済学部 2 年生	Ιさん	B班
		経済学部 2 年生	Jさん	C班
		経済学部1年生	Κさん	D班
]	職	教務課課長補佐	中川西	
	··· 員	教務課総務係長	今井賢司	
, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		教務課総務係主任	加藤千里	

班構成

		A 班	B班	C班	D班
ファシリテーター		小野原雅夫	田村奈保子	市川佳宏	飯島充男
教	育学部教員	天形 健	神長裕明	澁澤 尚	初澤敏生
行政社会学部教員		今野順夫(記錄)	小島 定(記錄)	北村 寧(記錄) 中山庸子	高瀬雅男
経済学部教員			清水修二		佐野孝治(記錄)
教育学部学生		A さん (1年)		Bさん(1年)	Cさん(1年)
行政社会学部学生		Gさん(1年)	E さん (2年)	Fさん(1年)	Dさん(2年)
経済学部学生		Hさん(2年)	Iさん(2年)	Jさん(2年)	Kさん(1年)
計		6 名	6名	7名	7名
作	ステップ 1		大 研	修室	
:業 会 場	ステップ 2	大研修室又は 2 1 1 号室	大研修室又は 2 1 0 号室	大研修室又は 208号室	大研修室又は 207号室
場	ステップ 3		大 研	修室	

2.はじめに

学生の「学ぶ力」をデザインする

福島大学 第2回 FDワークショップの開催にあたって

小島 定(FDワークショップ実行委員、全学教育主管)

昨年度からFDプロジェクトの企画で授業方法改善のためのワークショップを始めました。昨年は「福島大学の『学び』を新しくデザインする」というテーマを立てて、『キャリア形成論』という授業を例にとって、参加者みんなで知恵を出し合ってひとつの授業設計を試みました。これは大学での講義や授業を、教員が一方的に学生に知識を伝達する場としてのみとらえるのではなく、学生が自ら課題探求能力を持つ主体として成長いくことを助けるものと位置づけることから出発するものでした。一言で言えば、「『教え』から『学び』へ」という学習観(=教育観)の転換の道筋を発見しようという試みでした。この基本的な考えは、今年のワークショップのテーマ「学生の『学ぶ力』をデザインする」にも引き継がれています。学生が「学ぶ力」を身につけるような授業とするには、何が必要なのか、それを話し合いながら、具体的な授業プランを作ってみようというのが、今回のワークショップの狙いです。

授業改善のためのワークショップの意義は、何よりもまず、各ステップの共同作業を通じて、日ごろの各教員の授業についての考え方を知り、授業の工夫などについてもお互いに学ぶことができるという点にあります。私の経験からいっても、教員同士のこの交流から得られるものはとても大きい。同時に、教員同士で話していると、意外に学生像が似通っていることにも気づかされます。教員はそれぞれ抱く学生像を前提にして授業をしているわけで、自己の学生像が他の教員のそれと大きくかけ離れていないのであれば、それなりに工夫を施しながらも、「安心」して授業を行なっているのではないでしょうか。しかし、この前提となる学生像は果たして学生の実像に実際に近いものなのか、そして学生の実際に求めるものに切り結ぶような授業をしているかと自ら問うてみると、はなはだ心もとない。ここは一番、学生の生の声を聞いてみるほかはないでしょう。

今年のワークショップの最大の特徴は、学生の参加を求めたというところにあります。 学生の関心を掻き立てるような、そして少しでも自分が専門とする研究分野に学生が興味 を示してくれるようになる授業、それはどうしたらできるのか。これは教員が等しく持っ ている課題だと言っていいでしょう。そのためには、日ごろ学生が大学の授業にどんな姿 勢で臨んでいるか、学生が授業に何を期待しているのか、それをよく知ることが必要でしょう。学生の率直な声を聞きだすことによって、自己の学生像を再点検してみる。これも また今回のワークショップの課題です。

これからは「評価」の時代です。「教育重視・人材育成大学」を標榜する本学の場合、 とりわけ「教育の質」が問われることになります。その流れの中で、授業改善のためのひ とつの試みとして、今回のワークショップは位置づけられます。学生と教員の共同作業を 通じて、ひとつでも解決の道が見いだされればと期待しています。 FDワークショップのねらい - この2日間の目標・ねらい-

昨年度から授業改善にむけてワークショップを開催してきましたが、今回の大きな特徴は、学生の参加が得られたということです。授業は、教員が計画・実行するものに他なりませんが、教員の一方的な「思い」だけで成立するものでないことはいうまでもありません。しかし従来大学の授業とは講義という名称が示す通り、まさに大勢の学生を相手に、教員は前に立って自分の講義ノートを読み上げるという形式で行われることが通例でした。また、その条件の中で学び得る学生であることが前提とされていました。しかし、21世紀の社会情勢において、このような一方向伝達型の授業形態の見直しが要求されてきているのも周知の通りです。

そこで今回は、従来の一方向伝達型から双方向対話型の授業への転換を目指すという意味で、学生参加型ワークショップを計画しました。授業は受け手である学生との相互作用のもとに成り立つという考えのもとに、まさに教員・学生の協働作業で授業改善を考えていくことが、今回のねらいでもあります。

この2日間の作業目標は大きく2つあります。

1つは、授業に対する教員と学生の考え方の「ずれ」を発見し、それを双方で共有することです。福島大学では一昨年度から「教育改善のための学生アンケート」を実施していますが、その集計結果から極めて漠然とではありますが、学生がどのような授業を望んでいるのか推察される部分もあります。しかし一方では、教員の側からの「大学でそのようなことを望まれても」との声を耳にする場合もあります。まずは、大学の授業に対する考え方の「ずれ」を直視することから始めたいと思います。そしてその「ずれ」を起点にしながら、大学で「学ぶ」ためには、どのような「力」が必要なのか共に考えていきます。

2つめの目標は、「主体的に学ぶ」ことを願う大学が、その「学び」を実践するために、 学生にどのようなスタディ・スキルの獲得を支援・保障しなければならないかという問題 について考えることです。1つめの目標の中で挙げられた「力」の中には、具体的なスキ ルに裏打ちされてこそ発揮できるものもあると思います。そこで「生徒」から「学生」に 変わる大学1年生の時点で必要なスキルを考え構造化した上で、それを実際の授業として 計画することが2つめの目標です。

以上のような作業を通して、授業改善にかかわるさまざまな課題を自覚することができ、 それがまた自分の授業実践に役立っていければと願っています。

基本的には、授業について日ごろ考えていることを、教員も学生も忌憚なく出し合い、 楽しく共同作業をしながら何かを作り、その中から自分に役立つことを持って帰ろう、と いう姿勢で気楽に参加していただければ幸いです。

4.プログラム内容

プログラム内容

このワークショップは以下に示す、「はじめに」と3つのステップから成り立ちます。 それぞれのプログラム内容ごとに、「目標」「作業内容」を考えてあります。何のために、 どのような作業をするのか、ということを常に意識しながら話し合いに参加してください。 話し合いではファシリテーター(話し合いを進める司会者のことです)が説明をしながら プログラムを進めていきますので、心配することはありません。積極的に話し、聞き、グ ループごとにまとめをしながら、全員で「学ぶ力」について考えていきましょう。

はじめに このワークショップでめざすこと

9月25日(木)12:30~13:15 / 13:30~13:50

- 1このワークショップの位置づけの確認
- 2福島大学の教育理念の確認
- 3 ワークショップの目標確認
- ・このワークショップでは、授業における学生と教員の考え方のずれを認識し、そこを起点にしながら大学で「学ぶ力」とは何であるか、またそれを身につけてもらうためにどのように授業に具体化するか考えることが主な目標であることを確認します。
- ・この2日間を通して、何のためにどのような作業を行なうのかということを確認します。
- ・お互いを知るために「参加理由」や授業に関して感じていることなどをおりまぜながら 自己紹介をしていただきます。

ステップ1 授業における教員と学生の考え方の「ずれ」を明らかにする 9月25日(木)13:50~15:20

「ステップ1」の主な目標・作業内容

- 1授業についての教員・学生の考え方を知る
- ・学生はどんな授業を受けたいか、面白いまたはつまらないと思うのはどのような授業であるかなどの学生の意見から、学生の求める「よい授業」の要素を見出します。
- ・教員は学生にどのような問題を感じているかを挙げてもらいます。
- 2 授業における教員と学生の「ずれ」を見つける
- ・1における学生と教員の考え方の食い違いについて整理します。
- 3「ずれ」の生じる原因と対応を考える
- ・学生が興味を持って授業に臨むためには何が必要になるのかを、学生の実態についての 教員の側の認識のずれや、学生の側の授業に対する考え方のずれを通して意見を出し合 います。
- 4全体への報告
- ・グループで話し合った、学生と教員のギャップとその原因を全員に報告します。報告者 をグループで1名、決めておいて下さい。
- ・各グループから出された意見について、簡単に全体での意見交換も行います。

ステップ2 「ずれ」の克服を目指して授業プログラムをつくろう

9月25日(木)15:30~19:30 9月26日(金)8:30~10:00

ステップ1で討論した課題をふまえて、一つの授業づくりのプログラムをグループごとに考えます。この授業づくりのワークショップをとおして、福島大学の新しい「学び」を体験的に考えます。その際の基本コンセプトは「『ずれ』の克服を目指す」ということです。そして、具体的な作業対象とする授業は「教養演習」としました。

以下でまず、なぜ「教養演習 」を素材に選んだのかということと、そのなかで考えられる教育目標を提案します。

作業の対象に「教養演習」を選んだのは次の理由からです。

ワークショップでの作業の重点を、1コマの授業プログラムを集団で作ることにおき たいため、時間的制約を考え、あらかじめ一つの授業科目を設定しました。

「教養演習」は、学部や専門を超えて、大学教育を受けるまたは携わるものとして、 その授業設計を考えることができる科目ではないかと思います。

しかし、「教養演習」といっても、皆さんのこの授業に対するイメージはさまざま異なったものかもしれません。そこで、今回はその教育目標の一つを以下のように提案してみました。

「教養演習」の教育目標について(このワークショップ作業内での提案)

教養演習 は、今までの教養演習の意義や学習内容と同等のものを含む科目です。ここでは、従来も行われていた導入教育の中から、スタディ・スキルに焦点をおきます。 スタディ・スキルは導入教育にのみ関わるものではありませんが、それを早く身につけることは、その後の大学での学びのために有効であると考えられます。

設定された授業のテーマにそった教材を使用しつつ、そのテーマに関する理解を深めるために有効となる具体的なスタディ・スキルを習得・実践することを目指します。

また、今回考えていただく「教養演習」の設定は、以下のようにします。

授業期間:半期(12回)

クラス編成: 1クラス 20 名とする

担当体制:1名

使用教室:福島大学学内の教室であればどこを使用しても構わない

「ステップ2」の主な目標・作業内容

1 設定

・ファシリテータから「教養演習」を対象とした理由、また、その「教養演習」の授業の性格づけなどを説明します。

2 一連の目標を考える

- ・半期の「教養演習」の授業プログラムを作ることで、学生・教員ともに段階的な学びの必要性を自覚する機会とします。授業における目標設定の重要性を確認します。
- ・資料も参考にしながらグループ独自に半期で習得すべき内容の設定の話し合いを行いま す。

まず、ポストイットに各自が項目を書き出します。そして、学習の順序、優先順位などに留意しつつ、半期 12 回の授業を行うことを想定した上で、それらを整理し、グループごとに項目とその学習順序を設定します。

3 90 分授業プログラムの具体化

- ・2で考えた中からひとつを取り出し、一回分の授業として行う場合の授業プログラムの 作成を行います。
- ・そのためには半期の授業の流れやその順序、あるいは授業評価の方法などをふまえて、 整合性を持った 90 分にする必要があります。そこで、 学習目標 学習内容 教 材 評価 の四つの内容について検討を行い、授業プログラムを作ることにします。

4 学生のニーズに対応したプログラムづくりを考える

・ステップ1での討論を生かして、学生のニーズに応えながら、学生の「学ぶ力」、教員の「学ばせる力」を高めることを目指します。

5 教員側の発想を変える

・授業づくりの面白さを知る、学習意欲喚起の手だてを考える、自分の授業を改善するポイントをつかむ、等々、この授業づくりをとおして、皆さんの日常の教育活動に生かせるものがあると思います。積極的に作業に参加して、多くのことを吸収してください。

6 福島大学の教育全体を見直すきっかけにする

・さまざまな授業形態・教材を通してスタディ・スキルを意識的に身につけることが必要であることを再確認します。

7 報告への準備をする

- ・ステップ1での話し合い、特に学生の意見を取り上げたプランになっているか検討しま す。
- ・以上の作業を踏まえて、報告のための準備、資料作成(配布資料も可)などを行います。

ステップ3 全体ワークショップ

「学ぶ力」 - 学生の学ぶ力をデザインする -

9月26日(金)10:00~11:30

ステップ2でまとめた授業プログラムを、全員に向けて報告します。報告の後でそれぞれのグループの授業プログラムを自由に見て回り、最優秀プログラムの決定を投票で行います。その後でそれぞれのプログラムをふりかえりながら、全員での意見交換や感想の発表を行い、このワークショップのまとめをします。

「ステップ3」の主な目標・作業内容

- 1 成果の確認と今回のワークショップのまとめ
- ・各グループから、ステップ2でまとめた授業プログラムを報告していただきます。どのような工夫をしながら授業プログラムをまとめたのか発表してください。
- ・このワークショップの目標やステップ 1 の討論での課題をふまえて、全員での意見交換 や感想の発表を行います。
- 2 今後の各自の授業作りに向けた動機づけを行う
- ・各グループの授業プログラムは、報告の後で全員が自由に見て回れるようにします。よく各グループの内容を検討した上で、最優秀プログラムに投票してください。順位をつけること自体が目的ではありません。このワークショップの目標やステップ1で出された課題をふまえて、よく考えられているプログラムを評価することで、これからの授業づくりのヒントを得ましょう。
- ・今回のワークショップに参加して、みなさんの授業づくりがすぐに改善されるということはありません。この2日間の作業をふりかえりながら、今後の学生教育に何が必要なのか、それをどのように具体化したらよいのか、などについて何を獲得できたのかを確認し、これからの授業づくりにどのように生かしたらよいか話し合いましょう。

5.詳細タイムテーブル

はじめに このワークショップでめざすこと

時間	目標	作業内容	準備等	
		話し合いのポイント等	作業方法	十 開 寸
車中	1 . 大枠の位置づけ確認	主旨説明を聞く	(小島)	・参加資料
中	2.理念の確認	教育理念の確認を聞く	(小島)	・名札
		参加者どうしを知る	・自己紹介を行なう	
12:30	3 . 今回の目標確認	今回の目標・プログラム説明	(白石)	
	・授業における学生と		・参加資料は前以て	
ł	教員の考え方のずれ		渡しておく	
	を認識・共有すること			
13:15	・ずれを起点にしながら		・名札は当日渡す	
	「学ぶ力」とは何であ			
	るか考える			
	・「学ぶ力」の一つとし てのスタディ・スキル			
	の考え方を共有する			
	・スタディ・スキルを			
	身に付けるための			
	授業を作成する			
	・学生との協働作業を			
	通して互いを理解する			

会場到着・そのままホールへ移動

云场到	有・てのよよ小ールへ			
時間	目標	作業内容		
바퀴티		話し合いのポイント等	作業方法	準備等
朩	3 . 今回の目標確認	雰囲気づくり	(ファシリテータ)	
ı		・気軽に発言できる、溶け込める雰囲気	・学生がリラックスできる	
ル		づくり	よう、とくに考慮する	
13:30		自己紹介	・参加理由などを含め、	
₹			今回の目標に対する意見	
13:50			などを出してもらう	

ステップ1 授業における数員と学生の考え方の「ずれ」を明らかにする

ステップ1 授業における教員と学生の考え方の「ずれ」を明らかにする						
時間	作業内容 目標					
		話し合いのポイント等	作業方法	準備等		
	1.授業についての教員	学生はどんな授業を受けたいか		・ポストイット		
	・学生の考え方を知る	・面白いまたはつまらないと思うのは	・教員、学生共ポスト	・サインペン		
ル		どのような授業であるか	イットに意見を書く	・模造紙2~3枚		
		・学生の求める「よい授業」の要素は		・マーカー		
13:50		どのようなものであるか				
10.00		・授業評価のアンケートについて、学生				
1		はどのように考え回答しているか				
44.50		じのトミかに事を問しているのか				
14:50		・どのような板書を望んでいるのか				
		***************************************	#*/# <i>/// o th</i> m ** !			
		教員は学生にどのような問題を感じて	・模造紙を2枚用意し、			
		いるか	学生、教員の意見を それぞれに貼る			
		・授業者としての教員は学生の授業態度	てれてればいる			
		をどのように見ているか				
			これの描述がませれが			
	2 . 授業における教員と 学生の「ずれ」を	両者の意見の食い違いを見出す	・2枚の模造紙を見なが ら、整理したり加えたり			
	見つける	・学生の求める「よい授業」の要素	して、問題点をみつける			
		を見出す	して、同庭派をのうける			
	・学生と教員の食い違い	・この「よい授業」の要素について、				
	について整理する	教員はどう考えているか				
	3.「ずれ」の生じる原因	学生が興味を持って授業に臨むために				
	と対応を考える	は何が必要になるのか				
		・学生の実態についての教員の側の認識				
		のずれは何であるか				
		・学生の側の授業に対する考え方のずれ				
		は何であるか				
		・学生実態を認識したうえで、どのよう				
		な対応をすべきなのか				
14:50		全体への報告・意見交換	・課題を分類、整理した	・マグネット		
≀		・5分×4グループ	模造紙を掲げ、主要な	またはテープ		
15:20		・課題に対する意見を出し合い深化を図る	課題や対応を報告する	・ホワイトボード		
				等		
L	1		1	I		

ステップ2 「ずれ」の克服をめざして授業プログラムをつくろう

ステップ	2 ・9れ」の兄服をめるし	て授業プログラムをつくろう		
時間	目標	作業内容	/F- 3114 - \$- \$- \$- \$-	準備等
	1.設定	話し合いのポイント等	作業方法 ・ファシリテータが教養	
ホール	一. 設定	「教養演習I」半期 2 単位の授業の 性格づけの説明	・ファンリテータが教養 演習Iとスタディ・ス キルの概念を説明する	
ま た	2.一連の目標を考える	教養演習におけるスタディ・スキル について話し合う		・茶菓
各部に	・全体を見通すことで、 学生・教員ともに段階 的な学びの必要性を	・教養演習で盛り込んだ(学んだ) スタディ・スキルについて経験 を出し合う		
屋	自覚する機会とする	スタディ・スキルや教養演習の内容 の全体像と構造化 ・学生として、体験の中から必要と考え られる内容やスタディ・スキルを挙げる ・ステップ1で整理された課題について	・ポストイットに書いて 模造紙の上で分類 整理する	・ポストイット ・サインペン ・模造紙 1 枚 ・マーカー
		マステックー C 登壁された味趣について 深め、内容やスタディ・スキルの構造 化を図る ・半期12回分を想定して、一連の目標	・学習の順序や優先順位	
15:30		設定をする	などに留意しつつ整理し、学習順序を設定する	
10:20	3.90分授業プログラム の具体化	具体的展開としての授業内容を考える	~~ (+ ~~) + ~ (*=+ >	・ポストイット ・サインペン ・模造紙 1 ~ 3 枚
19:30	・目標・方法・評価の 整合性を図る	・構造化された内容やスキルのうち、 何を具体化するかを決定する ・学習目標の設定・・・評価可能な目標	・学生がいちばん望む ことなど意見を聞きな がら、選択できれば	・マーカー
翌朝		・学習内容の決定・・・選択したテーマに 必要な内容は何であるか。 教えたい(教わりたい)内容は何か ・教材選択・・・学習内容を具現した教材 であるか	望ましい	・参考資料
8:30	4 . 学生のニーズに対応 したプログラムづくり	・評価方法・・・目標が達成できたか ・ステップ1での話し合い、とくに学生 の意見を取り上げたプランになって	・授業づくりが教員だけの作業にならないよう	
10:00	を考える 5.教員側の発想を変える	いるかの検討	留意する	
10.00	・スタディ・スキルを授業 化する面白さを体験する ・自分の授業を改善するポ イントをつかむ(教員)			
	・スタディ・スキルの存在 を知り、自分の学習スタ イルの問題点を見出す (学生)			
	6.福島大学の教育全体を 見直すきっかけにする ・スタディ・スキルを身に 付けることが「教養演習」 の重要な一面であること を再確認する	・スタディ・スキルを対象とした授業を 受けることについての学生の意見を 出してもらう・・・受講姿勢の変化など		
	7.報告への準備をする	・プレゼンテーションの準備	・資料作成 (配付資料も可)	・コンピュータ ・プリンター ・コピー

ステップ3 全体ワークショップ 「学ぶ力」 - 「学ぶ力」をデザインする-

A 7 9 7		キャンプリー・ キャンプリをプラインタで- 作業内容		
時間	目標	話し合いのポイント等	作業方法	準備等
ホール	1.成果の確認と今回の ワークショップのまとめ	全体への報告 ・12分(質疑含む)×4グループ	・各グループ、ステップ 2 の成果について報告する	・マグネット、テープ ・ホワイトボード等
10:00		最優秀プログラム決定(決定) ・投票規準はステップ1の課題の解決	・貼りだされた成果品を 自由に見ながら一人	・投票用紙(ポストイット)
}		が図られているかなど	一票(自分の意見を書	
11:30			いて)を投じる(自分 のグループ以外)	
		・最優秀のグループは、一言	・投票された意見に対 して若干のコメントを する程度	
	2.今後の各自の授業づく	意見交換・感想		
	りに向けた動機づけを 行なう	・今回のワークショップで何を獲得する ことが出来たかということを出し合う		
		まとめ ・講評に近いかたちでのまとめを聞く	(北村)	
		・アンケートへの記入		・アンケート用紙

報告書 13

6.FDワークショップ資料

教育改善のための学生アンケート」における授業評価ポイント平均値の推移

1.共通教育科目 科目群別平均値の推移

	40 DD 1		人間。	坟化			社会。	埋史			自然と	技術			総合	科目		健	康運	動科			英	語	
	設問内容	14年 1月	14年 7月	15年 1月	15年 7月																				
	授業への熱意が感じられた	4.03	4.15	4 08	4 28	3.94	3.79	4 00	4.19	4 06	4.07	3 88	4 02	4.17	4 33	3.90	4.11	4 39	4.61	4 54	4.77	3 98	4.05	4.09	$\overline{}$
授	学生への対応は適切であった	3.86	3.95	3 82	3.87	3 54	3 53	3.76	3.70	3 55	3.77	3 53	3 55	3 83	4.06	3.66	3.76	4.18	4.43	4 33	4 53	3.73	3.80	3.91	
業	授業の準備がしっかりなされていた	4.05	421	4.12	4.19	3.96	3.97	3 95	4.11	3 89	4.17	3 89	4 05	4.17	4 47	4 06	4 08	4.16	4 38	4 29	4.60	3.88	4.00	4.01	
び	聞き取り易い話し方だった	3.73	3 90	3.66	3 83	3 37	3 31	3 21	3.43	3 33	3.75	3 33	3 36	3 83	4 08	3.62	3.64	4 D5	4 36	4 30	4.60	3 56	3.63	3.77	
担当	板書 OHPなどは見やすかった	3 53	3.63	3 50	3 5 1	3.01	3.15	3.17	3.09	2 99	3.37	3 25	3 24	3.61	3.96	3.40	3.64	3.64	3.70	3.75	4 07	3 33	3.45	3 52	$\overline{}$
教	教科書 参考書 資料などは適切であった	3.72	3.74	3 65	3.69	3.45	3 58	3 53	3 60	3.31	3 57	3.41	3.44	3.78	3.98	3 53	3.78	3.65	3 82	3.78	4 07	3.66	3.74	3.75	eg
官	シラバスに沿って授業が行われた	3.84	3 89	3 82	4.07	3.66	3.73	3.70	3 84	3.65	3.85	3.75	3 89	4.00	4.11	3 85	4.10	3 95	4.18	4.17	4 47	3.67	3.83	3 88	eg
	授業の内容はよく理解できた	3.61	3.60	3.69	3 58	3 08	3.13	3 33	3 21	2 94	3 35	3.06	3.03	3 56	3.71	3.31	3.60	4.19	4.41	4 28	4 53	3 58	3.63	3.73	eg
教	授業の場では学習する雰囲気は保たれた	3.73	3.65	3.76	3 68	3.78	3.70	3 84	4 03	3 86	3.96	4.01	3 94	3 86	3.97	3.94	3 95	4.13	4.45	4 36	4.67	3.81	4.04	4.17	eg
員員	授業の場の大きさや設備等は適切であった	3.87	3 98	3 97	4.17	3.77	3 85	4 02	4 20	3.72	3.95	3 89	3.93	3 86	4.07	3.97	3 92	4 03	4 29	4 24	4.68	3 87	4.05	4.17	eg
境	受講者数は適切であった	3.74	3 90	3.79	3 96	3.63	3.78	3 92	4.11	3.70	3.87	3 86	3 84	3 80	4.04	3 92	3 83	4.00	4 22	4 22	4 50	3.93	4.06	4.17	\leq
総合	総合的にみてこの授業に満足しましたか	3.79	3 87	3.90	3 95	3 39	3 36	3 63	3 54	3 39	3.70	3.45	3 52	3 86	3 88	3.66	3 94	4 22	4.46	4.46	4.71	3 64	3.74	3.92	eg

매.																										
讄		5.8 8 中央		- ドイ:	ツ語			フラン	ス語			中国	国語			ロシブ	ア語			ス٩°۲	ン語			合	計	
14		設問内容	14年 1月	14年 7月	15年 1月	15年 7月	14年 1月		15年 1 1月																	
		授業への熱意が感じられた	4 26	4 33	4 44		3 86	4.14	4.16		4 04	4 25	4.16		4.48	4.65	4 58		3 86	4.16	4.16	eg	4 08	4.16	4.16	4 20
	授	学生への対応は適切であった	4.04	4.12	4 25		3.75	3.91	4 04		3 84	4.04	3 99		4 26	4 39	4 33		3 51	4.02	4 08	abla	3.81	3.92	3.94	3.76
	業乃	授業の準備がしっかりなされていた	4 25	4 36	439		3.92	4.16	4.09		3 99	4 25	4.16		4 36	4 58	4.43		3 87	4 21	4 20	$ egthinspace{1.5em} olimits = 1.5em of the context of the contex$	4.01	4.16	4.10	4.14
	び	聞き取り易い話し方だった	3.87	3 98	4.11		3 85	4.16	4 23		3 91	4.02	3 93		4 23	4.42	4 29		3.75	4.10	4.11	$ egthinspace{1.5em} olimits = 1.5em of the context of the contex$	3.70	3 84	3.81	3 61
	担当	板書 OHPなどは見やすかった	3.60	3.76	3.81		3.49	3.77	3 89		3 69	3 84	3.77		3.72	3.88	3.79		3.41	3.95	3 85	$ egthinspace{1.5em} olimits = 1.5em of the content of the conten$	3.41	3 55	3 57	3 34
	教	教科書 参考書 資料などは適切であった	3.89	3 94	390		3 85	3.95	4 02		3 90	3.95	3 90		4.04	4 27	4.18		3.74	4.09	3.78	$ egthinspace{1.5em} olimits = 1.5em of the context of the contex$	3.68	3.77	3.74	3 62
	官	シラバスに沿って授業が行われた	3 85	3.91	4.06		3.77	3.78	3 95		3 84	3 93	4 01		3 82	4.17	4 24		3 89	4.05	4 04	abla	3.78	3 89	3 92	3 97
		授業の内容はよく理解できた	3.65	3.64	3.87		3 53	3.62	3.75		3.67	3.75	3.70		3.69	4 02	3.97		3.31	3.78	3.65		3 57	3.65	3.69	3 37
	教	授業の場では学習する雰囲気は保たれた	4.11	4.17	4.37		4.09	4.19	4 27		4.02	4 22	4 27		4 26	4.66	4 54		3 94	4 29	4.31	egthinspace = egt	3.91	4 03	4.14	3 92
	月環	授業の場の大きさや設備等は適切であった	4.08	4.14	4 25		4.11	4.13	4 31		3 99	4.02	4.15		4.10	4 58	4 32		3.60	4 23	4 35		3.91	4.06	4.13	4.12
	堷	受講者数け適切であった	4 10	121	132	/	4 04	111	132		3 05	4.02	1 NO		3 06	1 15	136		3 58	117	121	$\overline{}$	3 88	4.03	1 00	3 00

388 4.04 4.06

3.56 4.00 4.17

. 5段階評価ポイント(5.強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.まったくそう思わない)の平均値を記載した。

3.96 | 3.98 | 4.15

.受講者数が1桁の授業は集計から外した。

総合総合的にみてこの授業に満足しましたか

.平成 15年度より通年開講の外国語科目は後期に一括してアンケート集計するため,15年7月期は調査していない。.

3 93 | 4 04 | 4 25

.共通教育科目アンケー Hは、平成 14年 1月から半期毎に実施している。

教育改善のための学生アンケート」における授業評価ポイント平均値の推移

2.専門教育科目 学部別平均値の推移

	設問内容	教育	学部	行政社	会学部	経済	学部	合	計
	改同り社	15年1月	15年7月	15年1月	15年7月	15年1月	15年7月	15年1月	15年7月
	授業への熱意が感じられた	4.16	4 21	4 23	4.12	4.18	4.06	4.18	4.15
授	学生への対応は適切であった	3 92	3.91	3 84	3.74	3 95	3.77	3.91	3 84
業	授業の準備がしっかりなされていた	4 09	4.16	4.13	4 04	4 23	4.10	4.14	4.12
及 び	聞き取り易い話し方だった	3 89	3 88	3 59	3.61	3 89	3 53	3 82	3.72
担当	板書 OHPなどは見やすかった	3.49	3 53	3 35	3 20	3.47	3.48	3.46	3.46
教官	教科書 参考書 資料などは適切であった	3.77	3 81	3.67	3 66	3.74	3.69	3.74	3.75
	シラバスに沿って授業が行われた	3 83	3 89	3 80	3.76	3 98	3 93	3 86	3 88
	授業の内容はよく理解できた	83.68	88.6	3 50	3 30	3.49	3.37	3 59	3 51
教	授業の場では学習する雰囲気は保たれた	4 20	4.15	4.15	4 09	4.19	3.96	4.19	4 08
育環	授業の場の大きさや設備等は適切であった	4.07	4 06	4 09	3.98	4.14	4.01	4.09	4 03
境	受講者数は適切であった	4.13	4.10	4 D4	3.91	4.01	3.93	4.08	4 01
総合	総合的にみてこの授業に満足しましたか	3 97	3 95	3 85	3.69	3 92	3.74	3 93	3 84

- . 5段階評価ポイント(5強くそう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.まったくそう思わない)の平均値を記載した。
- .受講者数が1桁の授業は集計から外した。

報告書

.専門教育科目アンケー Hは,平成15年1月から半期毎に実施している。

A班成果報告

ファシリテーター:小野原雅夫

「ステップ1」では、ファシリテーターの不手際により、作業が大幅に遅れてしまった。ここでは、3つのテーマを取り上げる予定であったが、けっきょく「1.授業についての教員・学生の考え方を知る」しか話し合うことができなかった。残り2つのテーマが「ステップ2」へと持ち越され、順次あとの作業を圧迫していくこととなってしまった。またその「1.」に関しても、教員のグループと学生のグループに完全に分かれて作業をしたため、全体への報告に際してそれぞれが作成した作品を別々にプレゼンテーションするという形

式になってしまった。

しかしながら、こうした不手際にもかかわらず、グループの方々はとても活発に議論をしてくださり、大学の授業が抱えている様々な問題点を浮き彫りにすることができたように思われる。しかもそれらをただ列挙するだけでなく、相互に関連づけたりすることによって、教員と学生がそれぞれ何を問題としているのかをビジュアル化すること



ができ、相互理解を深めるのに大いに役立った。教員サイドからは、学生の学ぶ力をめぐる最大の問題点として知的関心の欠如が挙げられた。知的関心が低いがゆえに授業内容を理解したり、主体的・批判的な意見を形成したりすることができず、それゆえ学びが授業外へと広がっていくこともない、というのである。学生の側からは、授業の成否はひとえに教員の熱意や人間性にかかっているという提起がなされ、教員とのコミュニケーションが希薄であることに対する不満も出された。その他、出席をきちんと義務づけることが必要であることや、ディベートやフィールドワークのような体験型授業の方が学生にとって魅力的であると同時に学びも深いということなどが挙げられた。

「ステップ2」では「ステップ1」で積み残した、教員と学生の間の認識のズレを確認 することから議論を開始し、現代においては学生に知的関心がないことを嘆いていても仕



方がないので、学生の関心を喚起するように教員側が働きかけていかなくてはいけないこと、それこそが「学生の学ぶ力を育成する」ということの中心的課題であり、スタディ・スキルの育成はそのための補助的手段にすぎないということが合意された。

次に「ステップ2」の本題(「教養演習の授業をデザインする」)を確認した上で、まずは各自が担当、受講した「教養演習」がどのようなものであったかを披露しあった。残念ながらAグループには、

報告書 16

「教養演習」を一度も担当したことのない者を始めとして、全体に経験の浅い教員が集まってしまっており、モデルとなるような実践例は報告されなかった。学生サイドからは、現行の「教養演習」が演習型少人数教育の授業だからといって決してうまくいっているわけではない現状が明らかにされた。演習の授業とは思えないくらい教員が一方的にしゃべりまくる授業や、レポーターの報告そっちのけで無関係な議論に終始している例など、学生からの不満がいくつか寄せられた。

以上すべての議論を踏まえた上で、「教養演習」の授業を実際に構想するという作業に 移っていった。まずは、この授業でどんなことをしたらいいと思うか、各自、思いつく限 りのアイディアを出し合った。この段階で多くの魅力的なアイディアが出され、しかも教 員と学生の両者が同じようなことを考えていたりして驚かされた。それらをあれこれ整理 したり並べ替えたりしながら半期の授業全体の構想を練っていった。その際の主要な観点 学生の知的関心を引き出すことを第一の主眼とする、 体験学習の形式をできるだ け取り入れて面白おかしく学生をその気にさせるようにする、担当教員ばかりでなく、 大学にいるさまざまな教員と身近に接することができるような機会を提供する、 ィ・スキルの訓練のために毎回一定の時間を割くようにする、という4点であった。豊富 なアイディアをできるだけ多く取り入れられるように、半期の授業の中で7種類の活動を 行うという構成にし、福島大学の内外を探検しながら各自の知的関心の芽を見つけ、育て、 広げていくという意味で、「インテレクチャル・アドヴェンチャー」と命名した。最初の6 つの冒険は担当教員の専門性にかかわらず、どこの学部でも共通にできるような活動とし て設定してある。最後の4回分に関しては、教員の専門性に応じて、関連するフィールド に実地見学に行ったり、簡単なテクストを選んでレポートやディスカッションのイロハを 学んだりなど、自由に展開することが可能になっている。

「ステップ3」では結果的にAグループの作品が最優秀プログラムとして選ばれることになった。それには、第1ステップでの議論を授業案づくりの中に十分に活かすことができたこと、教員側に「教養演習」に対する思い入れがあまりなく、学生側から出された意

見をふんだんに取り込めたこと(それによって学生の票を集めることがでした。)をして学生3名が内容を熟知とで魅力的なプレゼンテーションを関してくれたことなど、いくつう。と学ではることができるだろう。と学ではおるワークショップとでは思いていまるの中で、誰も1で創り出しているはようなものを共同で創り出しみ、プロセスをグループ全員が楽しみ、



終的に、学生は「こんな授業があったら絶対出てみたい!」、教員は「今度自分が教養演習を担当するときはこれと同じことをする!」と心から思えるような授業案を自分たちの手で創り出すことができたことが、今回のワークショップの最大の成果だったと言えるのではないだろうか。最後に、それぞれの持ち味を活かしつつ貴重な意見や華麗な技を披露してくださった教員の皆さん、そして、ともすれば一方的に喋りまくろうとする教員からのプレッシャーにもひるむことなく批判的かつ建設的な意見を出し続けてくれた学生の皆さんに感謝申し上げます。

学習指導案

班名 A班

レポートの書き方

1. テーマ インテレクチャル・アドヴェンチャー

2.目標

自らの知的関心の芽を見つけ、育て、広げていく知的基礎体力(スタディスキル)を身につける福島大学の施設や教員などすべてのリソースを活用できるようになる学内外のさまざまな人々と関わる力を身につける 大学 4 年間や卒業後の自分をイメージする

ナヴィケ明め立番後の中ハナノノージオス	
大学4年間や卒業後の自分をイメージする	
3 . 指導計画	知的基礎体力養成
第 1 回 クラス・アドヴェンチャー	
・ 学生がこれまでの自らの「学び」体験を振り返る	聴き方・話し方
・ 教員の「学び」体験を聴く	
・ それぞれ大学4年間や卒業後の夢を語り合う	
第 2 回 福島大学施設アドヴェンチャー	
・ユニヴァーサル・パスポートの使い方をマスターする	
・グループに分かれ福島大学の施設の隅々まで探検に行	
き、どこでどんな遊びができるか、その使い方・借り	レジュメの書き方
方などを調べる	プレゼンの仕方
第3回 ・前回調べたことをグループごとにプレゼンテーション	
する	
フューチャー・アドブェンチャー	
・上級生や卒業生に来てもらい、大学4年間や卒業後に	話の聴き方
ついて話を聴き、ノートを取る	ノートの取り方
第4回 インテレクチャル・アドヴェンチャー	
・ウェビングなどの方法を用いて、自分がどういうこと	考えの整理の仕方
に関心を持っているのかを探る	
第 5 回 ライブラリー・アドヴェンチャー	
・図書館に行って蔵書検索をする	図書館の使い方
第 6 回 福島大学学術リソース・アドヴェンチャー	
・各自の専攻や関心にしたがって数人ずつのグループに	インターネットの使い方
分かれ、学部を超えてどこにどんな教員がいるか、ど	
んな授業をしているかをホームページや学習案内な	
どを使って調べる	
第7回 ・それぞれの教員にアポを取り、研究室を訪問し、どん	アポの取り方
な研究をし、どんな授業をしているのかをインタヴュ	インタヴューの仕方
ー してくる	レポートの書き方
第8回 ・「福島大学学術 MAP」の編集・報告・見直し	
第 9 回 フィールド・アドヴェンチャー (or テクスト・アドヴェンチャー)	
・実地見学に向けての話し合い	フィールドワークの仕方
第 10 回 ・実地見学	
第 11 回 ・実地見学を通した話し合い	ディスカッションの仕方

4. テキスト・教材

第 12 回 ・まとめレポート

学習技術研究会編「知へのステップ」くろしお出版

5.成績評価

相互評価活動を通して全体の学習活動について自己評価する 学習活動やその成果について相互評価し自らの学習姿勢を自己評価する

6.学習指導案

- (1)指導日時 第2回「福島大学施設アドベンチャー」
- (2)指導対象 福島大学全学部1学年 教養演習
- (3)本時の指導目標

福島大学の施設を活用できるようになる。

福島大学への愛着を高める。

協働・協力の体験を通じて仲間との親睦を深める。

プレゼンテーション能力を高める。

段階	時間	教師の働きかけ	学習活動	指導上の留意点	資料等
知的 基礎 体力 養成	10 分	ラジオのニュースを聞 かせる	要約をまとめる教員に提出		
· 净	10 分	課題の提示 「福島大学の『へぇ~』 な場所探し」 グループ分け ・あらかじめ教員がグル ープを決めておく ・各グループにデジタル カメラの貸与		安全への注意 業務が害のいい 時間内のの別のの 取り扱い注意 次週プレンス での でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる でいる	デル ラ タメ
展開	10 分		グループ内話し合い どんな『へぇ~』に するか決める グループごとに福島 大学内を探検し、デ ジタルカメラなどを		
			使って記録をとる		
まとめ	5分	次週までの課題の提示 「各グループ 2 分で自 分たちの見つけた『へ ぇ~』な場所をプレゼ ンできるように準備 してくる」			

ファシリテータ - : 田村奈保子

今回は学生の参加者があることから、学生も発言しやすい雰囲気を作ることを意識しながらのスタートとなった。

ステップ 1 での学生と教員との「ずれ」をめぐる話し合いでは、まずそれぞれがポスト イットに疑問点・問題点などを書き込み、分類、その後各意見に関してさらに意見を出し



あった。その作業や話し合いの中で 意外だったことは、少なくともグループ内で学生・教官間で大きな「すれ」が見られなかったことである。 双方からあげられた問題点・改言に認め、お互いへの苦言に認め、また反省・批判し、のとなる。 関を素直に認め、また反省・批判し、のと表している。 も、それぞれのもつ授業に対するとある。 は、の高さ、真摯さのあらわれによる

のであれば喜ばしい。こうして、ステップ1では、目的であった「ずれ」の確認には至らなかったものの、授業をめぐる教員・学生双方の様々な問題点をあげ、話し合うことが出来たという点ではやはり有意義であった。また学生は、自分が受けた授業の中で面白かった授業、教員の工夫によって効率的に学べた授業などを紹介した。教員はそれらを参考にし、さらに自分の授業での工夫や方法を互いに披露し、意見を求めることも出来た。

次のステップ2では、教養演習の具体的なテーマ選択から作業を始めることにした。学生にスタディ・スキルを身につけさせることを目的とした教養演習の授業計画をたてるわけだが、技術に終始するのではなく、内容も重要と考えたためである。

まず、各自がポストイットに学びた いテーマを書き出していった。学生か ら興味あるテーマを引き出し、そこか らさらに問題関心を深める、というの が理想であると考え、最初に彼らに意



見を求めたところ、彼らがなかなかテーマをあげられずにいたことが印象に残っている。 理由を聞くと、今まで数あるメニューの中から選択することしかしてこなかったので、自 分から積極的に何を学びたいか、と聞かれると戸惑う、ということだった。個人差はある だろうが、近年このような学生が多いことがうかがえる。そこで、さらに時間をとり、い くつかあがってきたテーマに広い意味で関わり、自らが関わる身近な問題といえる「教育」 を大きなテーマとすることにした。そして、さらに細かいテーマをいくつかあげ、検討し た。次に授業の組み立てや取り組みの姿勢などを考えた。高校までとはちがう大学での学 び すなわち、異なった意見を聞き、新しい知識を自ら得ることによって、自分の考え 方を作りあげるという学び をデザインできることを目指し、自主的に「聞く・調べる・ 考える」力が授業を通して養えることが重要である、ということになった。そこで、「教育



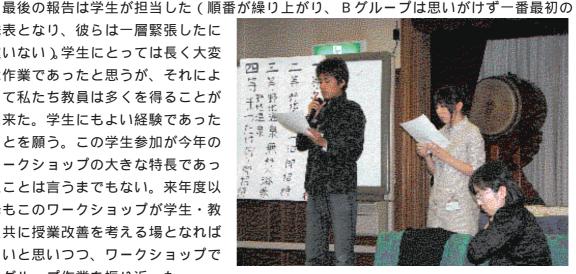
- 聞く・調べる・考える」を全 体のテーマとして設定し、具体 的な作業に入った。

教養演習には、授業を通して 学生同士が友人関係を作る目的 もある。また教員主導ではなく、 自主的な学習活動になることが 望ましい。それらに配慮し、ま ず第一回は全員によるワークシ ョップ形式で自由に意見を出し 合い、テーマ、授業の進め方な どに関して話し合うことにした。 そして、第二回の教員から以後

の授業に必要となるいくつかのスキルの紹介を経て、第三回以降は3コマを1クール(Act) とするグループ作業による発表形式をとることとした。この1クール×3の構成は、各回 文献購読、ゲストスピーチ、グループ発表と討論などを盛り込んだほぼ同内容の繰り返し である。この繰り返しが構成の規則性による授業の統一性をもたらすことを目指し、また、 その中で学生が協力し各自が必ず作業に加わるよう分担できることを心がけて、授業計画 を立てた。スタディ・スキルの面では、授業準備や授業中の学習・作業を通して、様々な スキル(レジュメ、プレゼンテーション、文献購読、レポート、ディスカッション、情報 収集・整理、etc.)が身につくように配慮し計画した。

最後に成績評価に関して学生に意見を求めたところ、出席点や学生同士の相互評価が必 要かつ(学生にとって)魅力ある評価としつつも、やはり教官による評価の割合を一定程 度多くしてほしい、という意向があった(その結果、出席20/学生評価30/教員50 とした)。個人的な感想に過ぎないかもしれないが、参加した学生の真面目さを再度感じた。

発表となり、彼らは一層緊張したに 違いない。学生にとっては長く大変 な作業であったと思うが、それによ って私たち教員は多くを得ることが 出来た。学生にもよい経験であった ことを願う。この学生参加が今年の ワークショップの大きな特長であっ たことは言うまでもない。来年度以 降もこのワークショップが学生・教 員共に授業改善を考える場となれば よいと思いつつ、ワークショップで のグループ作業を振り返った。



報告書 21

学習指導案

班名 B班

1.テーマ 教育 - 聞く・調べる・考える

2. 指導目標

Study Skill を身に付ける(読み、書き、聞き、話す)

- <教育>を考えることを通して自分を見つめる
- <教育>を通してく社会>を見つめる
- グループ活動を通じて豊かな人間関係を作る
- <学び>のプロセスを学生に自ら設計させる

3. 指導計画

- 第1回 学生とともに授業設計するワークショップ、 グループ分け
- 第2回 教員からテーマについての問題提起(レジュメ、│レジュメの書き方、プレゼ プレゼンテーションの見本)
- 第3回 Act1(日本の教育制度を考える)

Scene 文献講読(1)

- Scene ゲストスピーチ (留学生、院生) 第4回
- 第5回 Scene グループ発表と討論
- 第6回 Act2(教育の現場を知る)

Scene 文献講読(2)

- 第 7 回 Scene ゲストスピーチ(小関さん)
- 第8回 Scene グループ発表と討論
- 第9回 Act3(地域と教育)

Scene 文献講読(3)

- 第10回 Scene ゲストスピーチ (境野教官)
- 第11回 Scene グループ発表と討論
- 第12回 まとめ

< Study Skill >

ワークショップ

ンテーションの仕方

本の読み方

レポートの書き方 ノートのとり方

ディスカッションの仕方 情報の収集と整理の仕方

4.テキスト・教材

- (1)「受験学力の虚実」
- (2)「学級崩壊の現場から」
- (3)「地域と教育」

5.成績評価

- 1) 出席点20点
- 2) 学生の評価30点
- 3) 教官の評価50点

6.学習指導案

- (1)指導日時 第4回
- (2)指導対象 福島大学 学部1学年 教養演習
- (3)本時の指導目標

留学生をゲストスピーカに招き、国際比較の観点から日本の教育のあり方を考え させる。

Study Skill として「インタビュー」の仕方を通して、有効な話の引き出し方や板書の仕方などを学ばせる。

段階	時間	教師の働きかけ	学習活動	指導上の留意点	資料等
導入	15 分	本時のすすめ方、意義について説明する。	A グループが、前回の学習のまとめを述べ、問題を提起する。	ゲストスピーカ から聞き出すこ とを明確にさせ る。	A グループ のレポート (レジュメ)
展開	60 分	事前に留学生(ゲスピーカ)に 趣旨を説明して おく。質問スピーカ を、ゲストープ カ、A グループ ともに事 合わせ。	ゲストスピーカの話 (インタビュー形式で) A グループ 2 名 質疑・応答 (インタビュー) 討論 要点板書	司会・進行は学生に行わせる (Aグループ2名) インタビュー 形式を学ばせる B、Cグループ の発言す	制度の概略 図を用意す
まとめ	15 分	教官の講評 (スキル等)	討論のまとめ (A グループ 1 名)	学生自身に成果をまとめさせる	

ファシリテーター:市川佳宏

<第1ステップ>

ポストイットの手法で、全メンバーが学生と教員との「ズレ」と思われるものを書き出し、話し合いながら、付け足したり、グループ別に整理したりしていった。ただし、〈第2ステップ〉とのつながりがどの程度あったかはわからない。少なくとも、学生と教員とのズレを埋めよう、そのために、教員が学生の目線にたつ努力が大切だということはなんとか貫けたかなと思う。

<第2ステップ>

まず最初に、自分の受講した、あるいは自分が担当した教養演習の経験をもとに、形態・テーマ・目標(スキル)などに分けて、ポストイットに書き出し、整理した。なお付け加えれば、 整理した。なお付け加えれば、 満澤さんからは、本年度の教養演習で用いている「レポートの書き方」についての自作パンフレット(なかなかのものですぞ!ぜひみなさんにも見ていきが紹介され、教員はもとより学生も感銘(ショック!)を受けた。



次に、どんな形態の演習にするかを討議し、主としてディベート方式(その他の形態も一部取り入れて)で行うこととした。さらに、半年のテーマについて、各人が思いつくかぎりのテーマをポストイットに書き出し、ある程度グループ分けしながら、討議した。主として学生の意見を尊重した結果、「戦後史」と「美の探究」が競い合った。いろいろ議論した結果、"美を広げて考えよう""学生にとって美的センスの問題は身近なテーマではないか"という提案者である中山さんの考え方が決め手となって、「美の探究」を採り、



最終的には『THE 美學?あなたにとって「美」とはなんですか??』と告さいるたりが一番という。ここらあたりがったいったいったいったいったいったいったいったいったいったが近点なからいまとがである。にはまでの議論で出てきまるがら、半期の計画もある。それまでの議論で出てきまるとができた。もの目標に整理することができた。

その上で、「半期の指導計画」を検討し、おおよそ12回の流れを確認した。ここで、 一番の問題は、最初のディベート(学生を演習に乗せるウォームアップ)の段階から、第 2の段階、つまり自分たちでテーマを決め、それについて自分たちで調査・研究・まとめ・ 発表をする(ある程度授業時間外での活動も想定している)段階へ転換する第5回目の授業をどうするかであった。そこで、抽出する1回分の授業はこの第5回目にすることにし



つの問題群を決めた。こうして、1日目は終わった。





翌日の課題は、5回目の授業の「学習指導案」を作成することである。まず、「世界三大美女・美男」など4つを決めると、時間がないせいもあり、乗ってきたせいもあって、一方で2つの文書をパソコン入力しながら、一気呵成にすすんだ。

< 第 3 ステップ > & 若干の感想

「最優秀プログラム」の投票では、A 班に圧倒的勝利を許したが、班のみま さんから「おもしろかった」「また来 たい」と評価されたことは、ファシー としてとてもうれしかった。 とくに、最初は「借りてきた猫(?)」 のようであった学生の人たちも、く ステップ > の後半あたりになる乗っ であると、雰囲気に慣れたせいか、だんだん乗っ でし、2日目には、だれにいわれたり けでもないのに、パソコンのまわりに まり、文章を読み上げたりしていた がたいへん印象的だった。

学習指導案

班名 C班

1. テーマ THE **美學** ~ あなたにとって「美」とは何ですか? ~

2.指導目標

人間が誰しも持つ「美意識」を様々な事象を通して認識する 教える者、教えられる者という立場を超え「人と人」として互いに学びあう 他者の価値観をも受け入れつつ様々な角度から自らの考えを深め、新しい自分を 発見する

討論を通し自分の意見を積極的に展開できるようにする 参考文献・レジュメの作成を通して調べ、読解し、表現する力を養う

3.指導計画

第1回:ガイダンス

第2回:ディベート準備

テーマ「整形手術は是か非か」

第3回:作戦会議(仮班分け)

第4回:ディベート本番&ミニレクチャー

第5回:美について分ったこと、分りたいこと

教師による可能なテーマ提示 班分け、テーマ設定 調べ方説明、資料提示

- ・ 社会・文化と美 「世界三大美女・美男」
- ・ 仕事と美 「『ぽっぽや(鉄道員)』」
- ・ 老いの美・若さの美 「痴呆老人」
- ・ 勝者の美・敗者の美 「甲子園の敗者」

第6回:中間報告

第7回:発表(A・B 班) テーマは一つ選択

第8回:ディベート

第9回:発表(C・D班) テーマーつ選択

第10回:ディベート

第11回: A, B、 C、 D報告 第12回:総括 「美の相対性・絶対性」

4. 共通テキスト

市川寧『美の真実』、阿武隈川出版、2003

5.成績評価

レジュメによる発表とディベートによる評価

6.学習指導案 教養演習

(3)本時の指導目標

前回のディベートから「分ったこと」「知りたいこと」を発見し、整理する。 美に関する問題群を、具体的な事象と連関させて理解する。 グループごとの研究テーマを設定し、資料の調べ方を学ぶ。

段階	時間	教師の働きかけ	学習活動	指導上の留意点	資料等
導入	25 分	一日の作業についての 指示	班ごとに 前回のディベートで分っ たこと、知りたいこと		
		仮班分け(3つ)	班ごとの発表		
展	50 分	・教師による問題群の提示および例示	・グループ分け それぞれの学生が問題群	グループ間人数	
開		表のよいと美 心の美、音と美 社会・文化と美 自然と美 男性と美・女性と美 仕事と美 老いの美・若さの美 勝者の美・敗者の美	を一つ選択する 具体的テーマ設定 (例) 世界三大美女・美男 『ぽっぽや(鉄道員)』	ク 調整 テーマをより 体的にいまのに する	
まとめ	15 分	調べ方等の指示	調べ方等の確認		

ファシリテーター:飯島充男

<第1ステップ>

授業についての学生の感想、教員の思いを、ポストイットに書き出し、学生と教員との ズレ・ギャップを考えてみて、いくつかの興味深い回答を得た。



第1に、授業における問題関心・問題 意識・興味の持ち方について。教員から 学生に対しては、新聞などを読んで自分 なりの問題意識を持って授業に参加して 欲しいとの要望が出された。しかし学生 からは、「経済学部に不本意で入学した 学生にも興味を持てるような授業」「本 来その授業に興味が無くても、面白みを 持たせるような授業をして欲しい」し、 「自分の将来について考えさせてくれる ような授業であれば真面目に受ける気に

なる」との思いが表明された。手法としては、「話しよりも資料等で出してもらった方が興味が持てる」「たくさんの判例を資料として出してもらい興味を持てた」「ビデオ鑑賞などを用いたら良い」等が示唆された。

第2に、レポートや試験のあり方について。教員からは、レポートの水準についての不満が出されたが、学生からは「レポートは自分で深く考えるきっかけになった」「レポートの方が負担は小さい。筆記試験だと暗記になって面白くなく、疲れる」「テストは折角大学に来たので、論述的な方が面白い」「持ち込み可の方が難しい場合がある。授業で触れなかったことでも聞いてくる場合がある」といった学生ならではの感想も聞かれた。

第3に、「学生が高校時代に無習のため、低いところにレベルを合わせなければならない」との教師の感想に対して、「ただテキストを読み進めて行くだけの語学授業」「意味のない出席確認」「言葉の説明のみの授業」への学生の不満が出された。

第4に、学生からの授業についての もろもろの不満・要望事項。「ある授業 で先生が自分で書いた本を教科書にし ていたが、高額。その上にすべての内 容をやるわけでもないので、コピーし たプリントで進めて欲しかった」「教 科書を買わせてもほとんど使わないの は困る」「資料や参考書が多すぎて、授 業中にいろいろと指示されても混乱し て辛い」「教科書は本当に必要な授業 でのみ購入させて欲しい」と教科書に



ついて、「板書の文字はある程度大きく、見やすく書いて欲しい」「板書方法は問題のある 先生が多い」と板書について、「声が小さかったり声がこもっていたりすると、やる気が失せてくる」「声が一本調子でなく抑揚があると、わりと面白いしわかりやすいと思う」「テンポの良い、明るい感じの授業を受けたい」と話し方についての注文など、手厳しい。

全体として、なお教員からは、こちらの要求する水準についてこないことへのいらだちや要望が表明されたが、一方の学生側からは、明示的ではないものの「こちらがお客様、お客様にあった授業をして欲しい」「実際こういう良い授業もある」とアピールされたように感じた。

<第2ステップ>

次に教養演習において、どんな中身を盛り込み、どういうスタディ・スキルを身につけるべきかを、これまたポストイット方式で書き出した。本の読み方、資料探索の仕方、レジュメの作り方、レポートの書き方、現代社会への問題関心をどのように持つか、ディベ



ート能力、プレゼンテーション能力などの課題が出された。しかしこれらについては教員側からの指摘が多く、学生側からはかなりナイーブな意向が多く示され、考えさせられた。例えば、「学生にやる気を起こさせるきっかけを作る」「授業の前に一人から、授業に対して期待するもの希望を聞く」「大学で学ぶことの意味や将来性について考えさせる授業」「テーマをあまり特定化せず、どこの学部の人間にも有効な授業」「学生主体で

手抜きせず取り組む意志が持てる授業」など興味とやる気を起こさせる教養演習を強く望んでいる。また授業の中での教員と学生との関係についても「先生と学生との関係については、学生の側が先生に緊張感を持っている場合もあるのでなるべく気兼ねのない関係を作っていただきたい」という。そして教養演習における人間関係づくりも学生は重視している。

さてともあれ以上の検討の上で、全体 12 コマの教養演習で、とりわけどのスキルに焦点を置くべきかを議論した。ここでは教員側は世代間の格差がくっきり表れ、若い 2 人の教員の実践を踏まえた議論を、筆者を含めた 50 代教員の 2 人はただ感心して承った。結局この若手の議論から、プレゼンテーションを集約点とするスタディ・スキルの獲得というコンセプトが固まった。資料・情報収集法、資料・データの読み方、レジュメの纏め方、ディスカッションの仕方などを獲得しつつ、プレゼンテーション・コンテストに集約させていくのだが、その過程では学生の意見も積極的に出され、先輩のモデルプレゼンを最初の方に持って来ること、そしてそのモデルプレゼンを学習授業案として構想する等の形が決まった。この授業全体案をかなり厳密に議論し、オーソドックスに構成した。

最後に、学生の積極的で率直な意見が 聞けたことは貴重で、準備をいただいた 実行委員会の方々に感謝します。FD活 動としては学生の参加は大正解だと感じ た次第です(ただしここで述べるのは適 切ではないかもしれませんが、事務職員 の方々と別の問題をテーマとしながら、 こうしたワークショップ形式で議論する こともあって良いのではないかとも考え ます)。



学 習 授 業 案

班名 D班

1.テーマ ザ・プレゼン

2.目標

プレゼンテーションを集約点とするスタディ・スキルの獲得 参加型ワークショップによる主体的な「学ぶ力」の形成 ゼミ内外のコラボレーションによる人間関係・ネットワークの確立

3 . 計画

- 第1回 オリエンテーション(参加型ワークショップのねらい、グループ分け)
- 第2回 昨年度最優秀グループとのコラボレーション(モデルプレゼン)
- 第3回 グループディスカッション (テーマの具体的設定)
- 第4回 資料・情報収集法(図書館オリエンテーションほか)
- 第5回 資料・データの読み方
- 第6回 グループディスカッション (テーマの深化と具体化)
- 第7回 レジュメのまとめ方
- 第8回 中間発表会(グループ間での討議)
- 第9回 グループディスカッション (中間発表会を受けての修正・再検討)
- 第10回グループディスカッション (最終案の作成と予行演習)
- 第11回プレゼンテーション・コンテスト
- 第12回学部長杯争奪ゼミ間対抗プレゼンテーション・コンテスト

4. テキスト・教材

『プレゼンテーション入門』

教材レジュメ(プリント配布)「図書館利用法」「資料のまとめ方」など

5.成績評価

公正な成績評価について議論し、学生による相互評価や自己評価、教師による評価などを総合的に検討する。

6.学習授業案

- (1)日時 第2回 「モデルプレゼン」
- (2)対象 福島大学 学部1学年 教養演習
- (3)本時の目標

モデルプレゼンにより、プレゼンのイメージをつかむ。 プレゼンの意義を理解し、モチベーションを高める。 昨年度優秀チームとのコラボレーションをし、交流する。

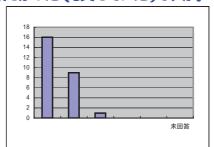
段階	時間	学習活動	資料等	
導入	5分	・学生がグループごとに着席する。 ・教師が本時の目標を説明し、昨年度最優秀チーム (2年生)を紹介する。		
展開	30分35分	モデルプレゼンテーション ・昨年度最優秀チームによるモデルプレゼンテーション ・質疑応答 2年生と1年生とのコラボレーション ・先輩の経験談やプレゼンテーションのやり方等 ・「しゃべり場」(今一番関心があること)	・レジュメ ・パワーポイント ・質問表	
	20 分	プレゼンテーション入門 ・プレゼンテーションの意義、アウトライン、 スケジュールについて教師が説明する	・パワーポイント	

8.第2回 福島大学 FDワークショップ参加者アンケート 集計結果

1.開催日及び会場	平成 15年 9月 25日 (木)~ 26日 (金) 於 野地温泉ホテル (1泊 2日)
2 .ワー クショップ参加者	教員 16名 ,学生 11名 ,職員 3名
3 .アンケート実施数	班別討論に参加した教員 15名と学生 11名にアンケートを実施し,26名全員から回答を回収した。
4.その他	設問 5~9については6人から回答が無かったため、朱回答』として集計した。

1.今回のワークショップに参加して、班別討論などの作業は楽しかった(充実していた)ですか。

非常によかった16 名よかった9 名どちらともいえない1 名つまらなかった0 名全くつまらなかった0 名未回答0 名



[一言欄]

・班別討論は、もう少し休憩が入ってもいいのではないか。

教授の方々と話す機会なんてめったにないので、とても充実して楽しかったです。

学生も含め力を合わせて、生みだす」ことの素晴らしさを味わった。

教官と一緒に身近に話せてよかった。

作業時間がながめだったのでコンスタン Hに休憩がほしかった。

・先生方の交流と授業について深く考えることができてよかった。

教授と親身になって話せました。

教師と学生では発言量に差があり、学生がどのように参加していくかが課題。

他学部の状況もわかり良かったです。

・普段あまり考えないことを強く考えた良い機会だった。

学生も意見を言うことができたが、どちらかというと教官主導になってしまったのが残念。

教官と学生が意見交換する機会はなかなかないので、こういう企画は貴重だと思う

学生からうまく話を聞き出せたかが疑問。教員の体験談が先行しすぎた

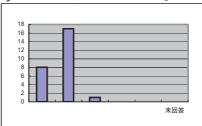
・自由な雰囲気の中で学生や他の先生から意見や考えを聞くことができ、大変よかった。

学生の思いも考えもつき合わすことができて、有意義であった。

学生が参加したのが非常によかった。彼らが何を求めているのかの話を聞けて大変参考になった。

2.ワークショップに参加して、今後あなたの授業に活用、参考に)できることがありましたか。

おおいに活用できる 8名 活用できる 17名 普通 1名 活用できない 0名 全ぐ活用できない 0名 未回答 0名



[一言欄]

学生と教官が交わるところが発見できてよかった。

教授の本音が聞けました。

授業計画の立て方の一例を学んだ。

学生としての授業に対する姿勢について。

学ぶ力というものは、様々な論理を元にして身に付けるものであると実感した。

授業のデザインというものの大変さがよく分かった。

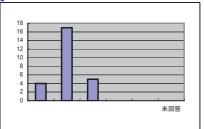
・専門は異なっていても参考になるスキルや手法があり、活用できそうなことも多かった。

・スタディスキルを意識的につけることが参考になった。

今度教養演習を担当するときは、今回作ったものを絶対にやる。

3.授業テーマ 学ぶカ』でしたが、テーマ設定はよかったですか。

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
非常によかった	4 名
よかった	17 名
どちらともいえない	5 名
悪かった	0 名
非常に悪かった	0 名
未回答	0 名



[一言欄]

学生と教官の学び以外での接点についての討論があってもいい。

授業計画、テーマを決めることに話し合いが集中し、 学ぶ」方の側の力つけは、従来の方法を越えるものは出せなかった。 学生として身近だった。

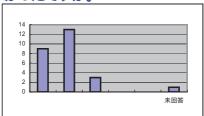
学生の目からではなかなか難しい内容であったが、学生の 学ぶ力」を引き出すためには、かなりの努力が必要であることがわかって、勉強になった。

問題設定はよかった。必要だった。)

・学ぶ力をデザインする」というテーマは、若干一方的なので、せっかく学生を招いているのに、その力を全部引き出すのが難い、テーマで、ファシリテータとして苦労した。

4.今回のワークショップで,主催者側の準備や当日の運営はよかったですか。

非常によかった	9 名
よかった	13 名
どちらともいえない	3 名
悪かった	0 名
非常に悪かった	0 名
未回答	1 名



[一言欄]

•模造紙に大き〈書いたり、作業も楽しかったし、みんなが見やすい感じでよかった。

·スケジュールをきちんと教えてほしい。

特に不満なし

・お疲れ様でした。

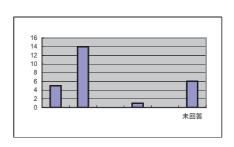
・このような活動はやはり時間がかかってしまうので、時間がつまってしまうということが問題になると思う。

やや疲れた。スタッフはよく頑張っていた。ご苦労様です。

・当日の運営は良かった。ただし、主催者側の準備は非常に悪かった。委員会の問題ではなく当局の問題だと思うが、参加者が少なすぎる。教員の一般参加がたった6名(うち学部長1名)というのは、福島大学のFDへのやる気のなさを見事に露呈している。

5.班の参加人数はいかがでしたか。

とても適切である	5 名
適切である	14 名
どちらともいえない	0 名
不適切	1 名
全不適切	0 名
未回答	6 名



一言欄】

教官と生徒の人数が適切で、発言しやすかった。

・ただし発言が一部の人に偏っていた。

教官と学生が1:1の割合のほうが、意見が出しやすいのではないだろうかと思った。

教官だけでなく学生も意見が言える雰囲気ができていて良かった。

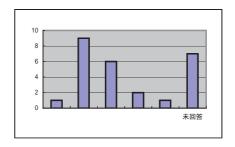
・多少の増員 (1班につきプラス2~3人)は可能ではないか。

今回のテーマであれば、学生がもう1~2名多くてもよかった。

学生が2名であったが、もう少し多いとさらに様々な意見が聞けてよかったかも知れない。

6.当日のタイムスケジュールはいかがでしたか。

とても適切である	1 名
適切である	9 名
どちらともいえない	6 名
不適切	2 名
全个適切	1 名
未回答	7 名



(一) (一) (一) (一) (一)

少しハードスケジュールだった。

少しハードでした。

作っておいた枠にこだわらないところが非常によかった。

課題の内容に比べて時間が短すぎる。

・思ったよりやることが多く時間が足りなかった。

最後に時間が足りなくなったことは残念だが、次回は、あらかじめ時間の厳守をしっかりと促せばよいと思うややきついスケジュールであった。

時間のないのはどうしようもないですが、班員の相互理解の時間があれば良かった。

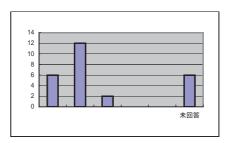
・step1の時間がやや短かった。

班での議論やまとめにもう少し余裕があるとよかった。

・無理がなかった。

7.会場はいかがでしたか。

非常によかった	6 名
よかった	12 名
普通	2 名
悪かった	0 名
非常に悪かった	0 名
未回答	6 名



一言欄 】

温泉よかったです。

・ちょっと机が低かった。

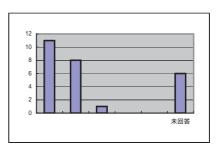
温泉がいい。広間も適当。

温泉はとても良い。

静かに集中できた。

8.今回のワークショップの総合的な評価はいかがでしたか。

非常によかった	11 名
よかった	8 名
普通	1名
悪かった	0 名
非常に悪かった	0 名
三回答	6 名



[一言欄]

・ちょっと腐卵臭がきつかった。

他学部、学生の人の意見を聞け勉強になりました。

一番、教官と学生の間にズレが生じるのは、ゼミではなく講義だと思うので、今回の授業プランの対象がゼミなのは ちょっと合わないと思った。

教官とも様々な話をすることができ、ワークショップも経験することができ、とても勉強になったし、とても良かった。 ・このような生きた活動、エキスを出し合う話し合いの場が他には少ないので貴重な体験でした。

9.その他 自由意見欄

いろいろなやり方があることが分かり、勉強になりました。

・スキルだけか、テーマとスキルか、方法を決めた方がよい。

学生の参加がよかった。

・とても貴重で充実した時間を過ごせました。こう、1つ機会は、もっと増やしても良いのではないか。教授と学生が、ある種の壁を飛び越えて、互いの素直な意見が言い合えて、とてもよかったです。この会がこれから教授、学生のどちらにとっても良いものになっていけばいいなと思います。

·初めて参加し、大いに勉強になった。

・ズバリ、来年も参加したいです。

学生が参加したことはとてもよかった。ただし、どんなふうにしたら意味をもたせられるか、よく検討する必要がある。

最後の全体集会は、他チームの検討仕上がり状況がよくわかった。

(準備も含めて時間がかかったが、昨年より数段よかった。)

・若手職員の教養演習の経験を聞くと、スゴイの一言!

・日頃、言えなかったことが単刀直入に言えた。来年も開催してほしい。

・夏休みに入る前に、このような企画があるという連絡があるとよかった。もっと早めに知らせてほしい。

・日程がハードでした。

教員の参加者(特に経済と行社)を実行委員が人を集めるのではなく学部長指名でやるべきである。

・委員長さんの交替が心配です。できれば、永年委員長さんでお願いできれば・・・。

・馬には乗ってみよ。人には添ってみよ。 ワークショップには参加してみよ。 来年また別のテーマであれば参加してみたい。 今後、今回の成果をどう生かすか、それが問題です。

平成15年度前期 教育改善のための学生アンケート実施状況 (分類毎)

共通教育科目

			分類コート・			件数		人数(受	講者1桁科目	目を除く)	人数(受詞	講者1桁科目	を含む)	偉	#考
分野	;	科目		科目数	対象数	実施数	実施率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	1桁 受講者	1桁 回答者
	人間と文化		111	12	12	12	100.0%	1,771	1,071	60.5%	1,771	1,071	60.5%	無し	無し
	社会と歴史		121	12	12	12	100.0%	1,758	927	52.7%	1,758	927	52.7%	無し	無し
	自然と技術	数学・自然	131	9	9	8	88.9%	1,243	657	52.9%	1,243	657	52.9%	無し	無し
教養科目	基礎 ¹ 情報	基礎理学	132	3	3	3	100.0%	69	47	68.1%	69	47	68.1%	無し	無し
		情報	133	5	5	2	40.0%	427	123	28.8%	427	123	28.8%	無し	無し
		その他	134	1	1	1	100.0%	169	105	62.1%	169	105	62.1%	無し	無し
							小計	1,908	932	48.8%	1,908	932	48.8%	無し	無し
総合科目	211			4	4	3	75.0%	369	156	42.3%	369	156	42.3%	無し	無し
健康・運動科目	重動科目 スポーツ実習 32		321	12	12	11	91.7%	247	167	67.6%	265	183	69.1%	3科目 18人	3科目 16人
	計			58	58	52	89.7%	6,053	3,253	53.7%	6,071	3,269	53.8%		

3学部専門教育科目

43.55	科目	分類コート・	科目数	件数		人数(受講者1桁科目を除く)		人数(受講者1桁科目を含む)			備考			
分野				対象数	実施数	実施率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	1桁 受講者	1桁 回答者
教育学部専門科目			164	164	143	87.2%	7,383	4,790	64.9%	7,383	4,790	64.9%	無し	無し
行政社会学部専門科目			26	26	24	92.3%	3,479	1,610	46.3%	3,479	1,610	46.3%	無し	無し
経済学部専門科目			42	42	37	88.1%	6,180	3,085	49.9%	6,180	3,085	49.9%	無し	無し
	計		232	232	204	87.9%	17,042	9,485	55.7%	17,042	9,485	55.7%		



の範囲の科目群で集計した。

【共通教育科目】

				_
 1		i	•	
アンケート				
, , ,		i		
_ I»	•		•	
			•	
	•	•		

教育改善のための学生アンケート 平成15年7月実施

福島大学FDプロジェクト

- 該当する番号を に記入してください。
- 自由記載欄には思っていることを率直に述べてください。

I. あなた自身についてお答え [*]	下さ	いし
------------------------------	----	----

1	1	١١	/ 学郊
- 1	ı	Ι.	ノーチョル

- 1. 教育学部(学校教育教員養成課程) 2. 教育学部(生涯教育課程)
- 3. 行政社会学部(昼間主コース)
- 5. 経済学部(昼間主コース)
- 4. 行政社会学部(夜間主コース)
- 6. 経済学部(夜間主コース)

(1)	
-----	--

(2) 学年(入学してからの年数)

- 1.1年 2.2年
- 3.3年
- 4.4年 5.5年以上

(2)		
(2)		

- 11. この授業についてのあなた自身の取り組みについておたずねします。
 - (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んでください。
 - 1. 勉学面で関心があったから
- 2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから
- 3. 単位がとり易そうだったから
- 4. 受講し易い時間帯にあったから
- 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定だったから



7. その他

1. 90%以上

- (4) この授業にどのくらい出席しましたか。 2.89~70%
 - 3.69~50% 4.49~30% 5.29%以下

- (4)

)

- (5) 授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。
 - 1. 非常によく勉強した
- 2. よく勉強した
- 3. 多少はした
- (5)

- 4. ほとんどしなかった
- 5. まったくしなかった
- (6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。
 - 1. 非常に意欲的
- 2. ある程度意欲的
- 3. どちらともいえない
- (6)

- 4. あまり意欲的でない
- 5. まったく意欲的でない

【以下の各設問については,次の区分により評価をし、該当する評価ポイント(数字)を に記入してください。】

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
ポイント	5	4	3	2	1

Ш.	この授業及び担当教員に関して	,次の項目について評価をし	, 評価ポイント5~	1のいずれかの数字でお答え
	ください。			

- (7) 授業への熱意が感じられた。
- (8) 学生への対応は適切であった。
- (9) 授業の準備がしっかりなされていた。
- (10) 聞き取り易い話し方だった。
- (11) 板書・OHPなどは見やすかった。
- (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。
- (13) シラバスに沿って授業が行われた。
- (14) 授業の内容はよく理解できた。

(7)	
(8)	

(8)	

(9)	

(10)	
(11)	

(12)	
(13)	

(14)

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない		
ホイント	ポイント 5 4			2	1		
(15) その他担当教員の授業方法について思ったことを自由に書いてください。							

٧.	教育	環境について評価をし,評価ポイント5~1のいずれか数字でお答えください。	
	(16) ‡	受業の場では学習する雰囲気は保たれた。	(16)
	(17) ‡	受業の場の大きさや設備等は適切であった。	(17)
	(18)	受講者数は適切であった。	(18)
	(19)	その他教育環境について感じたことを自由に書いてください。	
	総合さい。	的にみてこの授業内容に満足しましたか。評価ポイント 5 ~ 1 のいずれかの数字でお答えくだ。	٧.
l <u>.</u>	その	他この授業の感想を自由に書いてください。	

このアンケートは,本学の教育改善のため,学生のみなさんにご協力をいただいて実施するものです。 このアンケートの集計結果の取り扱いについては,次のとおりです。

各科目ごとの集計結果は,それぞれの授業担当教官にフィードバックされます。 各科目をいくつかのグループに分類し,グループ単位の集計結果を報告書等において公表すること にしています。また,その内容は学生のみなさんにも掲示等でお知らせします。 61

平成 15年 7月実施分 教育改善のための学生アンケート実施状況 (前期 計工通教育科目)

科目群毎の学生アンケート実施率	人間と文化	社会と歴史	自然と技術	総合科目	健康 運動 科目	英語	トイツ語	フランス語	中国語	ロシア語	スペイン語	日本語	合計
/仕 学生アンケー F対象科目数(a)	12	12	18	4	9	-	-	-	-	-	-		55
大 学生アンケート実施科目数(b)	12	12	14	3	8	-	-	-	-	-	-		49
ダメ 学生アンケート実施率(p/a:%)	100 Ω%	100 0%	77.8%	75 .0%	88 9%	-	-	-	-	-	-		89.1%
メ 学生アンケート受講者数(c)	1,771	1,758	1,908	369	247	-	-	-	-	-	-		6,053
大 学生アンケー I回答者数(d)	1,071	927	932	156	167	-	-	-	-	-	-		3,253
ダメ 学生アンケー I回答率(d/c :%)	60.5%	52.7%	48.8%	42 3%	67.6%	-	-	-	-	-	-		53.7%

教育改善のための学生アンケー Hにおける授業評価項目別 評価ポイント平均値 (科目群毎)

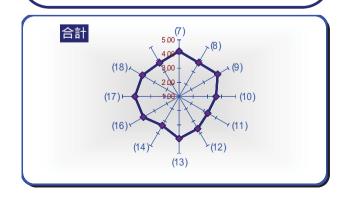
	番号	設 問	人間と文化	社会と歴史	自然と技術	総合科目	健康 運動科目	英語	トイツ語	フランス語	中国語	ロシア語	スペイン語	日本語	合計
	(7)	授業への熱意が感じられた	4 28	4.19	4.02	4.11	4.77	-	-	-	-	-	-		4 20
授	(8)	学生への対応は適切であった	3.87	3.70	3 55	3.76	4 53	1	-	-	1	-	-		3.76
業及	(9)	授業の準備がしっかりなされていた	4.19	4.11	4.05	4 08	4.60	1	-	-	1	-	-		4.14
び	(10)	話は聞き取り易かった	3 83	3.43	3.36	3.64	4.60	-	-	-	-	-	-		3.61
担当	(11)	板書 OHPなどは見やすかった	3.51	3.09	3 24	3.64	4.07	1	-	-	1	-	-		3.34
教	(12)	教科書 参考書 資料などは適切であった	3.69	3.60	3.44	3.78	4.07	1	-	-	1	-	-		3.62
官	(13)	シラバスに沿って授業が行われた	4.07	3.84	3 89	4.10	4.47	-	-	-	-	-	-		3.97
	(14)	授業の内容はよく理解できた	3 58	3 21	3 03	3.60	4 53	-	-	-	-	-	-		3.37
教	(16)	授業の場では学習する雰囲気は保たれたか	3.68	4.03	3.94	3 95	4.67	-	-	-	-	-	-		3 92
育環	(17)	授業の場の大きさや設備等は適切であったか	4.17	4 20	3 93	3 92	4.68	ı	-	-	ı	-	-		4.12
境	(18)	受講者数は適切であったか	3 96	4.11	3 84	3 83	4 50	-	-	-	-	-	-		3.99
総合		総合的にみてこの授業に満足しましたか	3 95	3 54	3 52	3.94	4.71	-	-	-	-	-	-		3.75

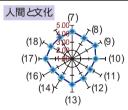
評価ポイント

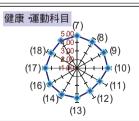
- 5 強くそう思う(非常に良い)
- 4 ややそう思う(良い)
- 3 どちらとも言いえない(普通)
- 2 あまりそう思わない(あまり良くない)
- 1まったくそう思わない(良くない)

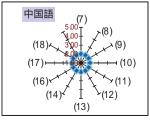
日本語」はクラスが特定されるので公表から外す。 外国語科目は後期に一括調査するため今回実施せず。

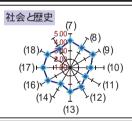
受講者数が一桁の授業は集計から外す。

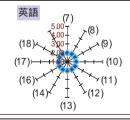


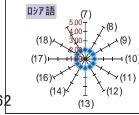


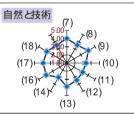


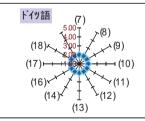


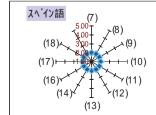


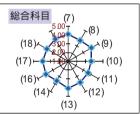


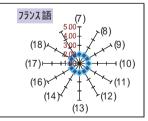












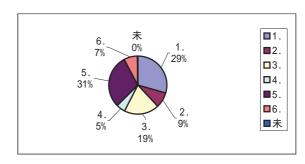
分野	科目
教養科目	人間と文化

科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
人間と文化」分野 合計			1771	1071	60 5%

.あなた自身についてお答え下さい。

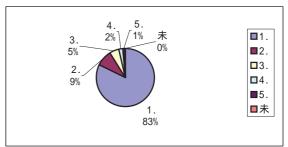
(1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	315名
2.教育学部 (生涯教育)	94名
3.行政社会学部 (昼間)	208名
4.行政社会学部(夜間)	53名
5.経済学部 (昼間)	319名
6.経済学部 (夜間)	80名
未 未記入	2名



(2) 学年 (入学してからの年数)

1. 1年	880名
2.2年	96名
3.3年	56名
4.4年	24名
5.5年以上	13名
未 未記入	2名

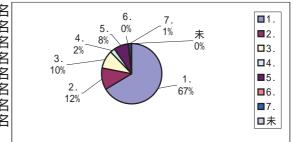


.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉子田で関心かめつたから	
2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから	
3.単位がとり易そうだったから	
4.受講し易い時間帯にあったから	
5.友人や先輩に勧められたから	
6. クラス指定だったから	
7. その他	

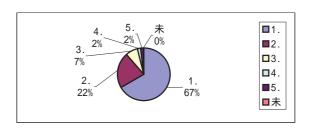
711名 124名 106名 25名 84名 16名 3名



(4) この授業にどの くらい出席しましたか。

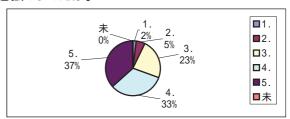
未 未記入

, ,	
1. 90%以上	714名
2.89% ~ 70%	235名
3.69% ~ 50%	80名
4.49% ~ 30%	21名
5. 29%以下	18名
未 未記入	3名



(5)授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

1. 非常によく勉強した	22名
2.よ√勉強した	54名
3.多少はした	251名
4. ほとんどしなかった	352名
5.まったくしなかった	389名
未 未記入	3名

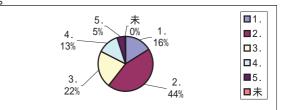


分野	科目
教養科目	人間と文化

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
人間と文化」分野 合計			1771	1071	60 5%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

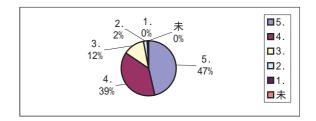
_の技術ににいるののなにの	多加忠敬 le
1. 非常に意欲的	172名
2. ある程度意欲的	476名
3. どちらともいえない	235名
4.あまり意欲的でない	134名
5.まった〈意欲的でない	51名
未 未記入	3名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

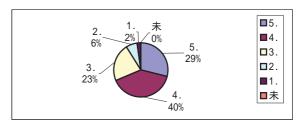
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	497名
4. ややそう思う	408名
3. どちらともいえない	132名
2.あまりそう思わない	24名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	5名



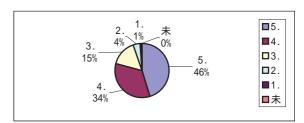
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	309名
4. ややそう思う	426名
3. どちらともいえない	242名
2.あまりそう思わない	69名
1.まったくそう思わない	21名
未 未記入	4名



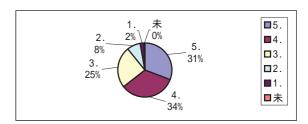
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

221	
5.強くそう思う	485名
4. ややそう思う	364名
3. どちらともいえない	164名
2. あまりそう思わない	46名
1.まったくそう思わない	9名
未 未記入	3名



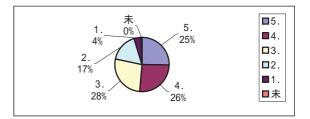
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	330名
4. ややそう思う	359名
3. どちらともいえない	267名
2. あまりそう思わない	86名
1.まった〈そう思わない	24名
未 未記入	5名



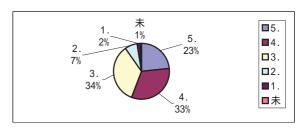
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	270名
4. ややそ う 思う	281名
3. どちらともいえない	288名
2.あまりそう思わない	180名
1.まったくそう思わない	47名
未 未記入	5名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

	(
5.強くそう思う	249名
4. ややそう思う	349名
3. どちらともいえない	368名
2.あまりそう思わない	78名
1.まったくそう思わない	17名
未 未記入	10名



分野	
教養科目	人間と文化

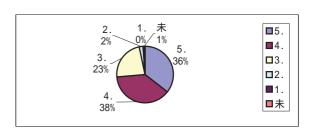
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
人間と文化」分野 合計			1771	1071	60 5%

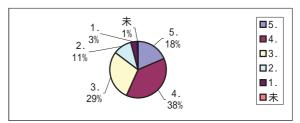
(13) シラバスに沿って授業が行われた。

5.強くそう思う	382名
4. ややそう思う	406名
3. どちらともいえない	248名
2. あまりそう思わない	23名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	8名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	198名
4. ややそう思う	408名
3. どちらともいえない	307名
2.あまりそう思わない	114名
1.まったくそう思わない	37名
未 未記入	7名

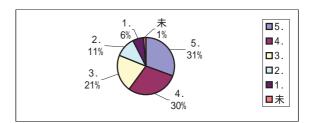




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

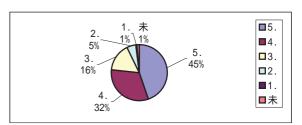
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	326名
4. ややそう思う	316名
3. どちらともいえない	228名
2. あまりそう思わない	121名
1.まったくそう思わない	65名
未 未記入	15名



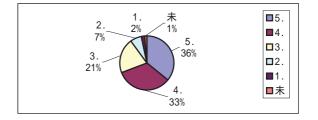
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

スポックックへにこれ間もり	
5.強くそう思う	480名
4. ややそう思う	342名
3. どちらともいえない	173名
2.あまりそう思わない	55名
1. まったくそう思わない	6名
未 未記入	15名



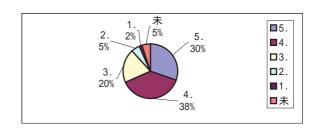
(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	383名
4. ややそう思う	357名
3. どちらともいえない	223名
2. あまりそう思わない	72名
1.まったくそう思わない	21名
未 未記入	15名



.総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

5.強くそう思う	323名
4. ややそう思う	409名
3. どちらともいえない	213名
2. あまりそう思わない	56名
1.まったくそう思わない	17名
未 未記入	53名



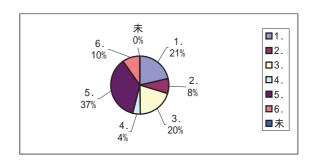
分野	科目
教養科目	社会と歴史

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
社会と歴史」分野 合計			1758	927	52.7%

.あなた自身についてお答え下さい。

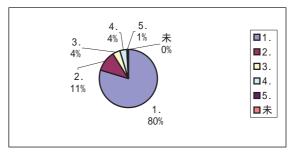
(1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	199名
2. 教育学部 <i>(</i> 生涯教育)	76名
3.行政社会学部 (昼間)	187名
4.行政社会学部(夜間)	38名
5.経済学部 (昼間)	338名
6.経済学部 (夜間)	89名
未 未記入	0名



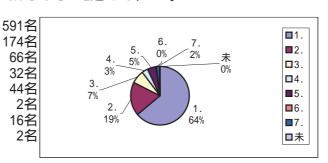
(2)学年(入学してからの年数)

1. 1年	740名
2.2年	105名
3.3年	39名
4.4年	35名
5.5年以上	8名
未 未記入	0名



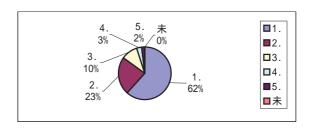
.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。



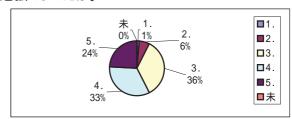
(4) この授業にどの くらい出席しましたか。

1/2/(1	- Щир остолеть о
1. 90%以上	572名
2.89%~70%	215名
3.69% ~ 50%	94名
4.49% ~ 30%	27名
5. 29%以下	19名
未 未記入	0名



(5)授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

1. 非常によく勉強した	12名
2.よ√勉強した	58名
3.多少はした	324名
4.ほとんどしなかった	310名
5.まったくしなかった	223名
未 未記入	0名

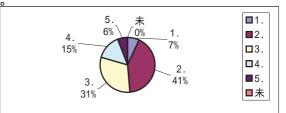


分野	科目
教養科目	社会と歴史

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
社会と歴史」分野 合計			1758	927	52.7%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

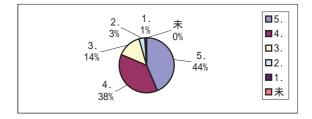
_の技术ににいりるのはにい	/学川忠弘16
1.非常に意欲的	65名
2. ある程度意欲的	386名
3. どちらともいえない	285名
4. あまり意欲的でない	138名
5.まった〈意欲的でない	53名
未 未記入	0名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

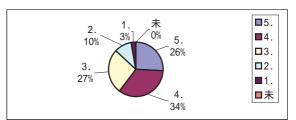
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	403名
4. ややそう思う	351名
3. どちらともいえない	133名
2.あまりそう思わない	29名
1.まったくそう思わない	11名
未 未記入	0名



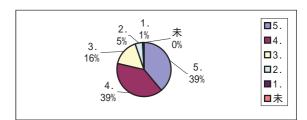
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	240名
4. ややそう思う	319名
3. どちらともいえない	247名
2. あまりそう思わない	96名
1.まったくそう思わない	25名
未 未記入	0名



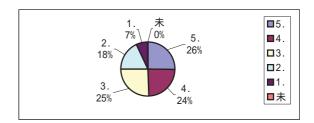
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

360名
368名
150名
42名
7名
0名



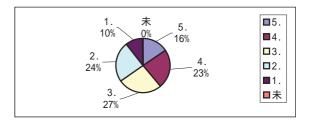
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	234名
4. ややそう思う	225名
3. どちらともいえない	235名
2. あまりそう思わない	168名
1.まったくそう思わない	65名
未 未記入	0名



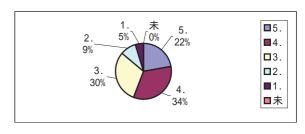
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	144名
4. ややそう思う	216名
3. どちらともいえない	244名
2.あまりそう思わない	224名
1.まったくそう思わない	97名
未 未記入	2名



(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	_ //3
5.強くそう思う	206名
4. ややそう思う	312名
3. どちらともいえない	281名
2.あまりそう思わない	85名
1.まったくそう思わない	42名
未 未記入	1名



平成 15年度前期実施分

分野	科目
教養科目	社会と歴史

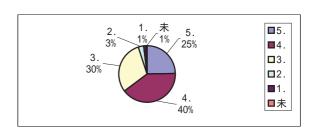
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
社会と歴史」分野 合計			1758	927	52.7%

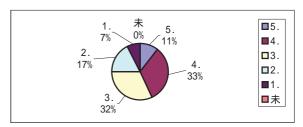
(13) シラバスに沿って授業が行われた。

5.強くそう思う	228名
4. ややそう思う	373名
3. どちらともいえない	279名
2. あまりそう思わない	29名
1.まったくそう思わない	13名
未 未記入	5名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	99名
4. ややそう思う	300名
3. どちらともいえない	296名
2.あまりそう思わない	162名
1.まったくそう思わない	69名
未 未記入	1名

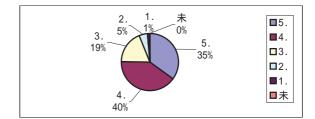




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

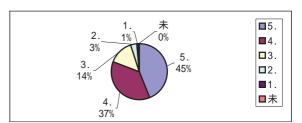
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	325名
4. ややそう思う	372名
3. どちらともいえない	173名
2. あまりそう思わない	44名
1. まったくそう思わない	11名
未 未記入	2名



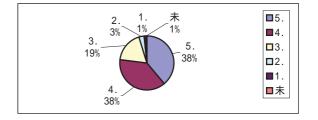
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

5.強くそう思う	406名
4. ややそう思う	343名
3. どちらともいえない	132名
2. あまりそう思わない	32名
1.まったくそう思わない	10名
未 未記入	4名



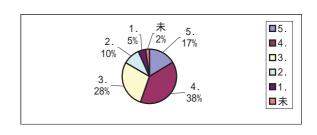
(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	360名
4. ややそう思う	352名
3. どちらともいえない	172名
2.あまりそう思わない	28名
1.まったくそう思わない	10名
未 未記入	5名



.総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

	11 CO C/C/
5.強くそう思う	153名
4. ややそう思う	360名
3. どちらともいえない	260名
2. あまりそう思わない	91名
1. まったくそう思わない	43名
未 未記入	20名



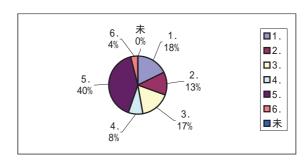
分野	科目
教養科目	自然と技術

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
自然と技術」分野 合計			1908	932	48.8%

.あなた自身についてお答え下さい。

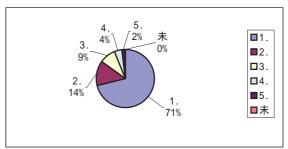
(1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	165名
2.教育学部 (生涯教育)	121名
3.行政社会学部 (昼間)	154名
4.行政社会学部(夜間)	76名
5.経済学部 (昼間)	381名
6.経済学部 (夜間)	34名
未 未記入	1名



(2)学年(入学してからの年数)

1. 1年	662名
2.2年	129名
3.3年	84名
4.4年	39名
5.5年以上	16名
未 未記入	2名



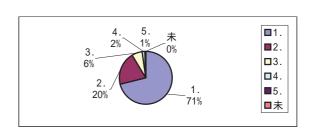
.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから 2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから 3. 単位がとリ易そうだったから 4. 受講し易い時間帯にあったから 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定だったから 7. その他 未 未記入	401名 288名 47名 24名 49名 66名 52名 5名	6. 7. 未 7% 1% 3. 5% 3. 2. 31%	□1. □2. □3. □4. ■5. □6. □7. □未
---	---	--	---

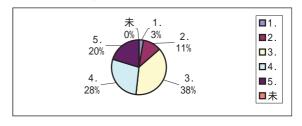
(4) この授業にどのくらい出席しましたか。

1221 12-1	
1.90%以上	664名
2.89% ~ 70%	187名
3.69% ~ 50%	60名
4.49% ~ 30%	15名
5.29%以下	5名
未 未記入	1名



(5)授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

1. 非常によく勉強した	27名
2.よく勉強した	101名
3.多少はした	353名
4. ほとんどしなかった	261名
5. まったくしなかった	189名
未 未記入	1名

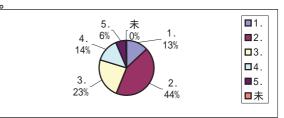


/\ m=	
分野	科目
## # TO CO	<u>∸ ₩ 1.4+</u> .4-
教養科日	日然と技術

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
自然と技術」分野 合計			1908	932	48 8%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

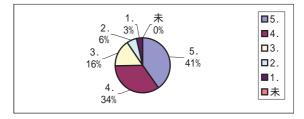
1. 非常に意欲的	122名
2. ある程度意欲的	402名
3. どちらともいえない	219名
4.あまり意欲的でない	129名
5.まった〈意欲的でない	57名
未 未記入	3名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

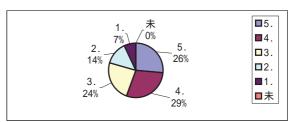
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	375名
4. ややそう思う	321名
3. どちらともいえない	147名
2. あまりそう思わない	56名
1.まったくそう思わない	32名
未 未記入	1名



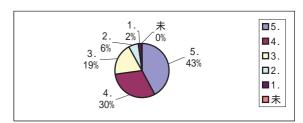
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	246名
4. ややそう思う	272名
3. どちらともいえない	223名
2.あまりそう思わない	126名
1.まったくそう思わない	64名
未 未記入	1名



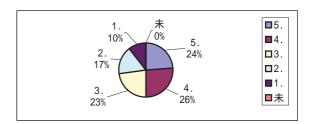
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

~>\	
5.強くそう思う	394名
4. ややそう思う	284名
3. どちらともいえない	178名
2.あまりそう思わない	55名
1.まったくそう思わない	19名
未 未記入	2名



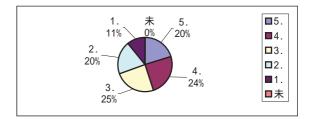
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	222名
4. ややそう思う	244名
3. どちらともいえない	212名
2.あまりそう思わない	156名
1.まったくそう思わない	97名
未 未記入	1名



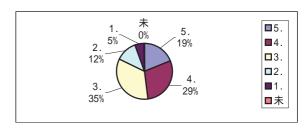
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	189名
4. ややそ う 思う	230名
3. どちらともいえない	229名
2.あまりそう思わない	183名
1.まったくそう思わない	100名
未 未記入	1名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

3X11D 2 3D 34110 C.C.	_ ,,, , _ , _
5.強 <i>くそう</i> 思う	175名
4. ややそう思う	272名
3. どちらともいえない	319名
2.あまりそう思わない	113名
1.まったくそう思わない	50名
未 未記入	3名



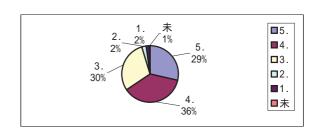
分野	科目
教養科目	自然 と 技術

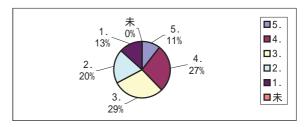
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
自然と技術」分野 合計			1908	932	48 8%

5.強くそう思う	266名
4. ややそう思う	344名
3. どちらともいえない	279名
2.あまりそう思わない	22名
1.まったくそう思わない	16名
未 未記入	5名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

27/27 1 3 H 10/01 4 T 1/1 H 1/1/20	
5.強くそう思う	99名
4. ややそう思う	254名
3. どちらともいえない	273名
2. あまりそう思わない	182名
1.まったくそう思わない	123名
未 未記入	1名

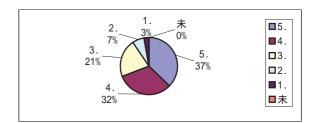




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

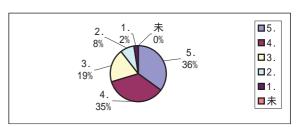
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	346名
4. ややそう思う	298名
3. どちらともいえない	200名
2. あまりそう思わない	63名
1.まったくそう思わない	24名
未 未記入	1名



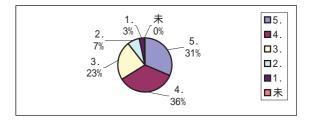
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

スポッツッパにここは間よる	
5.強くそう思う	326名
4. ややそう思う	329名
3. どちらともいえない	179名
2.あまりそう思わない	75名
1.まった〈そう思わない	22名
未 未記入	1名

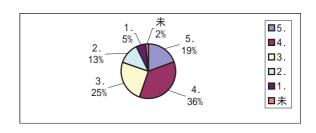


(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	293名
4. ややそう思う	323名
3. どちらともいえない	217名
2. あまりそう思わない	69名
1.まったくそう思わない	28名
未 未記入	2名



5.強くそう思う	181名
4. ややそう思う	334名
3. どちらともいえない	233名
2. あまりそう思わない	117名
1.まった〈そう思わない	51名
未 未記入	16名



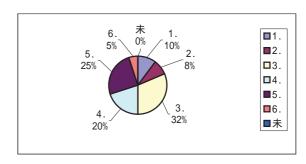
分野	科目
総合科目	

I	科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
١	総合科目。合計			369	156	42 3%

.あなた自身についてお答え下さい。

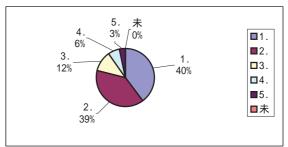
(1)学部

1.教育学部(学校教育)	16名
2.教育学部 (生涯教育)	13名
3.行政社会学部 (昼間)	49名
4. 行政社会学部 (夜間)	31名
5.経済学部(昼間)	39名
6.経済学部 (夜間)	8名
未 未記入	0名



(2)学年(入学してからの年数)

1. 1年 2. 2年	62名 61名
3.3年	18名
4.4年	10名
5.5年以上	5名
未 未記入	0名

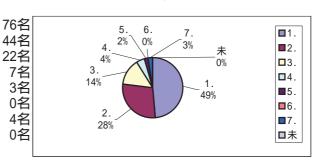


.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

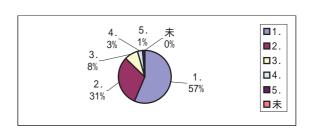
1. 勉学面で関心があったから
2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから
3.単位がとり易そうだったから
4 受講 易い時間帯にあったから

- 4. 受講し易い時間帯にあったから5. 友人や先輩に勧められたから
- 6. クラス指定だったから
- 7. その他 キ キョ λ
- 未 未記入

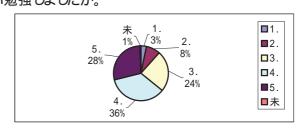


(4) この授業にどの くらい出席しましたか。

12261	Till 001 01 010
1. 90%以上	88名
2.89% ~ 70%	48名
3.69% ~ 50%	13名
4.49% ~ 30%	5名
5. 29%以下	2名
未 未記入	0名



1. 非常によく勉強した	5名
2.よ√勉強した	13名
3.多少はした	38名
4.ほとんどしなかった	55名
5.まったくしなかった	44名
未 未記入	1名

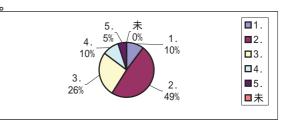


分野	科目
総合科目	

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
谿合科目 』合計			369	156	42.3%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

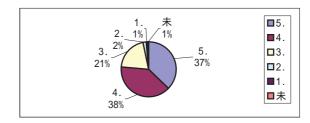
_0/12未ににいりるのはに0/3	グ川忠弘は
1. 非常に意欲的	16名
2. ある程度意欲的	76名
3. どちらともいえない	41名
4. あまり意欲的でない	15名
5.まった〈意欲的でない	8名
未 未記入	0名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

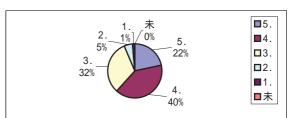
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	58名
4. ややそう思う	61名
3. どちらともいえない	32名
2.あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	1名



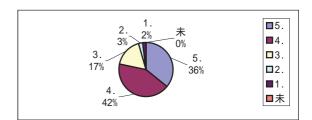
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	34名
4. ややそう思う	62名
3. どちらともいえない	50名
2.あまりそう思わない	8名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	0名



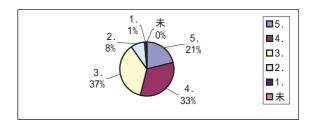
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	56名
4. ややそう思う	66名
3. どちらともいえない	27名
2.あまりそう思わない	4名
1.まったくそう思わない	3名
未 未記入	0名



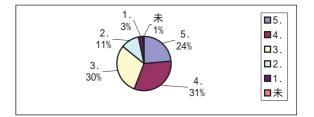
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	33名
4. ややそう思う	51名
3. どちらともいえない	57名
2.あまりそう思わない	13名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	0名



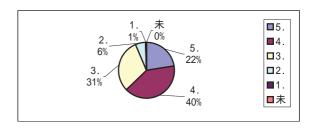
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	37名
4. ややそう思う	50名
3. どちらともいえない	47名
2.あまりそう思わない	17名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	1名



(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

大竹目 グラ目 具作はこは起め	
5.強くそう思う	35名
4. ややそ う 思う	63名
3. どちらともいえない	48名
2.あまりそう思わない	9名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



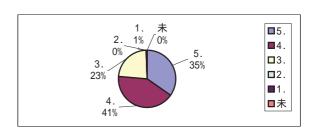
ノト田マ	利口
刀钳	
7323	
纵 合和日	
総ロが出	

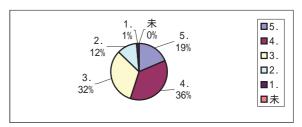
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
総合科目 』合計			369	156	42 3%

5.強くそう思う	54名
4. ややそう思う	65名
3. どちらともいえない	36名
2. あまりそう思わない	0名
1. まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



XXVIIIIOO VEIHUNIC。	
5.強くそう思う	29名
4. ややそう思う	57名
3. どちらともいえない	50名
2. あまりそう思わない	18名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	0名

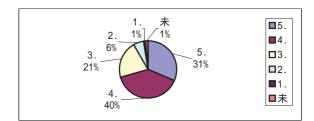




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

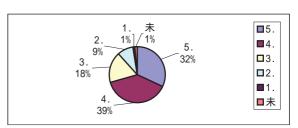
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	49名
4. ややそう思う	61名
3. どちらともいえない	33名
2. あまりそう思わない	9名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	2名



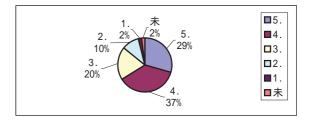
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

スポックックへして、以前もに	
5.強くそう思う	50名
4. ややそう思う	60名
3. どちらともいえない	28名
2. あまりそう思わない	14名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	2名

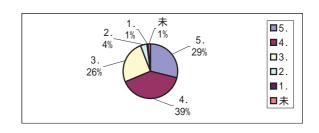


(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	46名
4. ややそう思う	57名
3. どちらともいえない	31名
2. あまりそう思わない	16名
1.まったくそう思わない	3名
未 未記入	3名



	000 0101
5.強くそう思う	45名
4. ややそう思う	62名
3. どちらともいえない	40名
2.あまりそう思わない	6名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	2名



分野	科目
健康 運動科目	スポーツ実習

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
スポーツ実習 」合計			247	167	67.6%

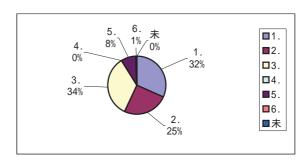
受講者数10名未満を除く)

□1. □2. □3. □4. □5. □6. □7.

.あなた自身についてお答え下さい。

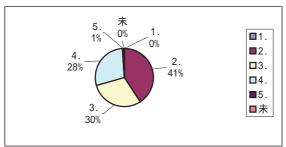
(1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	53名
2.教育学部 (生涯教育)	42名
3.行政社会学部 (昼間)	57名
4. 行政社会学部 (夜間)	0名
5.経済学部(昼間)	14名
6. 経済学部 (夜間)	1名
未 未記入	0名



(2)学年(入学してからの年数)

1. 1年	0名
2. 2年	68名
3. 3年	50名
4. 4年	47名
5. 5年以上	2名
未 未記入	0名

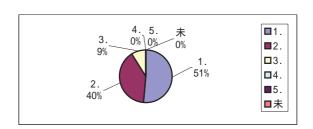


.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

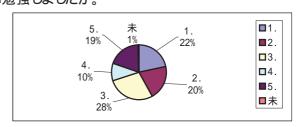
(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。



86名
~ ~ H
66名
15名
0名
0名
0名



1. 非常によく勉強した	36名
2.よ√勉強した	34名
3.多少はした	47名
4.ほとんどしなかった	17名
5.まったくしなかった	32名
未 未記入	1名

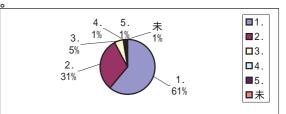


77 477	科目
健康·運動科目	スポーツ実習

科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
「スポーツ実習」 合計			247	167	67.6%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

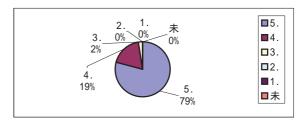
_0//文末ににいりるのはにりご	多川 忠 いる
1. 非常に意欲的	102名
2. ある程度意欲的	52名
3. どちらともいえない	9名
4. あまり意欲的でない	1名
5.まった〈意欲的でない	2名
未 未記入	1名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

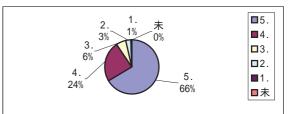
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	132名
4. ややそう思う	31名
3. どちらともいえない	4名
2.あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



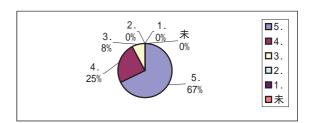
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	111名
4. ややそう思う	40名
3. どちらともいえない	10名
2. あまりそう思わない	5名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



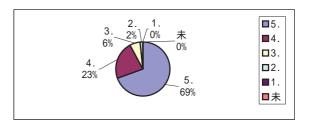
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	113名
4. ややそう思う	41名
3. どちらともいえない	13名
2. あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



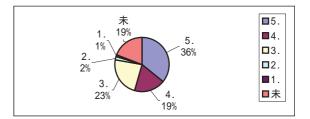
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	116名
4. ややそう思う	38名
3. どちらともいえない	10名
2.あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



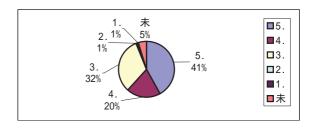
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

次日 0.11 GCIG/D//// 2/Co	
5.強くそう思う	60名
4. ややそう思う	31名
3. どちらともいえない	39名
2.あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	32名



(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

以科者 多ち者 負科などは週り	」でのつに。
5.強くそう思う	70名
4. ややそう思う	33名
3. どちらともいえない	54名
2. あまりそう思わない	1名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	8名



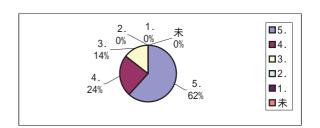
分野	科目
健康 運動科目	スポーツ実習

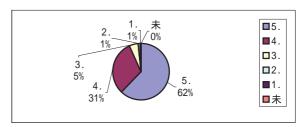
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
スポーツ実習 」合計			247	167	67.6%

5.強くそう思う	103名
4. ややそう思う	40名
3. どちらともいえない	24名
2. あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	104名
4. ややそう思う	52名
3. どちらともいえない	8名
2. あまりそう思わない	2名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名

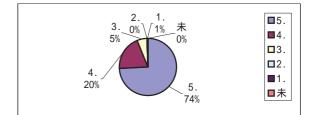




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

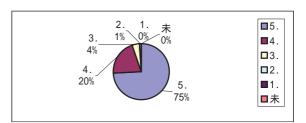
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	124名
4. ややそう思う	33名
3. どちらともいえない	9名
2. あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



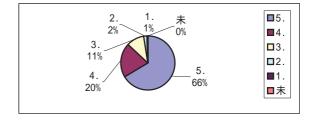
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

5.強くそう思う	124名
4. ややそう思う	34名
3. どちらともいえない	7名
2.あまりそう思わない	2名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名

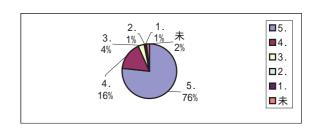


(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	111名
4. ややそう思う	34名
3. どちらともいえない	18名
2. あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



	. 000 0,0,
5.強くそう思う	128名
4. ややそう思う	28名
3. どちらともいえない	6名
2. あまりそう思わない	1名
1.まった〈そう思わない	1名
未 未記入	3名



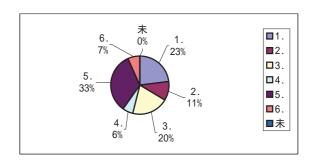
分野	科目
総合計	共通教育科目総合計

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共通教育科目総合計			6053	3253	53.7%

.あなた自身についてお答え下さい。

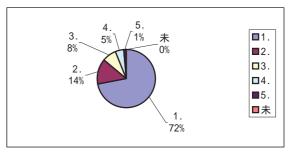
(1) 学部

1.教育学部(学校教育)	748名
2.教育学部 (生涯教育)	346名
3.行政社会学部 (昼間)	655名
4. 行政社会学部 (夜間)	198名
5.経済学部(昼間)	1091名
6.経済学部 (夜間)	212名
未 未記入	3名



(2) 学年 (入学してからの年数)

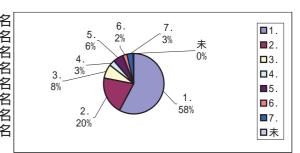
1. 1年	2344名
2.2年	459名
3.3年	247名
4.4年	155名
5.5年以上	44名
未 未記入	4名



.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

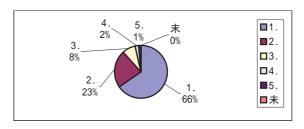
(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから 2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから 3. 単位がとり易そうだったから 4. 受講し易い時間帯にあったから 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定だったから 7. その他 未 未記入	1878名 659名 250名 93名 186名 70名 107名

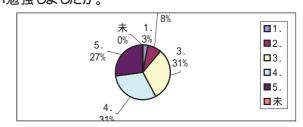


(4) この授業にどの くらい出席しましたか。

1221	
1. 90%以上	2124名
2.89% ~ 70%	751名
3.69% ~ 50%	262名
4.49% ~ 30%	68名
5. 29%以下	44名
未 未記入	4名



1. 非常によく勉強した	102名
2.よく勉強した	260名
3.多少はした	1013名
4.ほとんどしなかった	995名
5.まったくしなかった	877名
未 未記入	6名

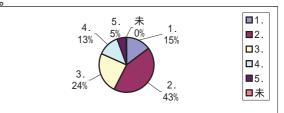


分野	科目
総合計	共通教育科目総合計

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共诵教育科日総合計			6053	3253	53.7%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

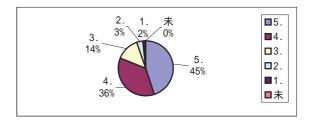
ニリス未ににいうるのなだり	1000 DE TOTAL OF THE TOTAL OF
1.非常に意欲的	477名
2. ある程度意欲的	1392名
3. どちらともいえない	789名
4. あまり意欲的でない	417名
5.まった〈意欲的でない	171名
未 未記入	7名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

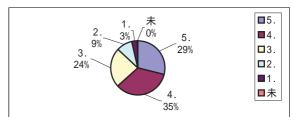
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	1465名
4. ややそう思う	1172名
3. どちらともいえない	448名
2.あまりそう思わない	112名
1.まったくそう思わない	49名
未 未記入	7名



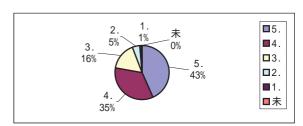
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	940名
4. ややそう思う	1119名
3. どちらともいえない	772名
2. あまりそう思わない	304名
1.まったくそう思わない	113名
未 未記入	5名



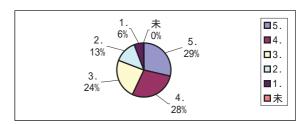
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

~>\	
5.強くそう思う	1408名
4. ややそう思う	1123名
3. どちらともいえない	532名
2. あまりそう思わない	147名
1.まったくそう思わない	38名
未 未記入	5名



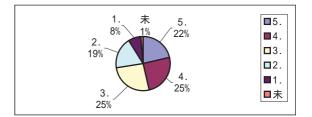
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	935名
4. ややそう思う	917名
3. どちらともいえない	781名
2.あまりそう思わない	426名
1.まったくそう思わない	188名
未 未記入	6名



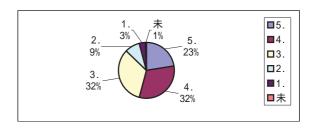
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	700名
4. ややそ う 思う	808名
3. どちらともいえない	847名
2.あまりそう思わない	607名
1.まったくそう思わない	250名
未 未記入	41名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

5.強くそう思う	735名
4. ややそう思う	1029名
3. どちらともいえない	1070名
2.あまりそう思わない	286名
1.まったくそう思わない	111名
未 未記入	22名



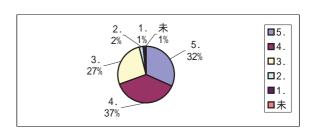
小 邸	彩目
クリ±ゾ 4公◆⇒↓	
総ロ計	1 共进教目科日総合司

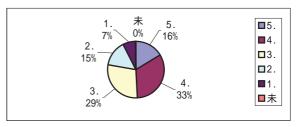
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共通教育科目総合計			6053	3253	53.7%

5.強くそう思う	1033名
4. ややそう思う	1228名
3. どちらともいえない	866名
2. あまりそう思わない	74名
1. まったくそう思わない	34名
未 未記入	18名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	529名
4. ややそう思う	1071名
3. どちらともいえない	934名
2.あまりそう思わない	478名
1.まったくそう思わない	232名
未 未記入	9名

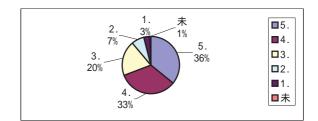




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

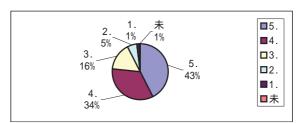
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	1170名
4. ややそう思う	1080名
3. どちらともいえない	643名
2. あまりそう思わない	237名
1.まったくそう思わない	103名
未 未記入	20名



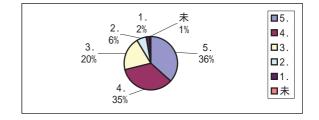
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

5.強くそう思う	1386名
4. ややそ う 思う	1108名
3. どちらともいえない	519名
2.あまりそう思わない	178名
1.まったくそう思わない	40名
未 未記入	22名

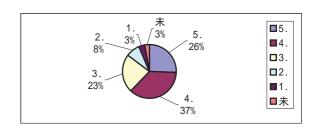


(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	1193名
4. ややそう思う	1123名
3. どちらともいえない	661名
2. あまりそう思わない	188名
1.まったくそう思わない	63名
未 未記入	25名



5.強くそう思う	830名
4. ややそう思う	1193名
3. どちらともいえない	752名
2. あまりそう思わない	271名
1.まった〈そう思わない	113名
未 未記入	94名



平成 15年度前期実施分

公 邸	181 FI
刀到'	
Ⅰ 総合計	l 共通教育科目総合計

	科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
Γ	共诵教育科日総合計			6053	3253	53.7%

【専門教育科目】

			:	
		i	:	
授業コード		•		
1×*-1		!	•	
			•	
		•	•	

教育改善のための学生アンケート 平成15年7月実施

福島大学FDプロジェクト

- 該当する番号を に記入してください。
- 自由記載欄には思っていることを率直に述べてください。

	あなた自身し	こついてお	3答え下さい	١,
--	--------	-------	--------	----

1	۱١	、
	Ι.) ← ਜਹ

- 1. 教育学部(学校教育教員養成課程)
- 3. 行政社会学部(昼間主コース)
- 5. 経済学部(昼間主コース)

2. 教育学部(生涯教育課程	₹ '		,
----------------	-----	--	---

4. 行政社会学部(夜間主コース)

6. 経済学部(夜間主コース	.)
----------------	-----

(1)

(2) 学年(入学してからの年数)

- 1.1年
- 2.2年
- 3.3年
- 4.4年
- 5.5年以上

(2)

- 11. この授業についてのあなた自身の取り組みについておたずねします。
 - (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んでください。
 - 1. 勉学面で関心があったから
- 2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから
- 3. 単位がとり易そうだったから
- 4. 受講し易い時間帯にあったから
- 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定だったから

(3)

7. その他

(4) この授業にどのくらい出席しましたか。

- 1. 90%以上
- 2.89~70%
- 3.69~50% 4.49~30% 5.29%以下
- (4)

)

- (5) 授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。
 - 1. 非常によく勉強した 4. ほとんどしなかった
- 2. よく勉強した
- 3. 多少はした
- (5)

- - 1. 非常に意欲的
- (6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。 2. ある程度意欲的
- 3. どちらともいえない
- (6)

- 4. あまり意欲的でない
- 5. まったく意欲的でない

5. まったくしなかった

【以下の各設問については,次の区分により評価をし、該当する評価ポイント(数字)を に記入してください。】

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
ポイント	5	4	3	2	1

III. この授業及び担当教員に関して,次の項目について評価をし,評価ポイント5~1のいずれかの数字でお答え ください。

(7) 授業への熱意が感じられた。

(8) 学生への対応は適切であった。

(9) 授業の準備がしっかりなされていた。

(10) 聞き取り易い話し方だった。

(11) 板書・OHPなどは見やすかった。

(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

(13) シラバスに沿って授業が行われた。

(14) 授業の内容はよく理解できた。

(7)	
(8)	

(9)

(10)	

(11)

(12)	
(13)	

(14)

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない		
ポイント	5	4	3	2	1		
(15) その他担当教員の授業方法について思ったことを自由に書いてください							

	(15) その他担当教員の授業方法について思ったことを目田に書いてください。	
٧.	教育環境について評価をし,評価ポイント5~1のいずれか数字でお答えください。	
	(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。	(16)
	(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。	(17)
	(18) 受講者数は適切であった。	(18)
	(19) その他教育環境について感じたことを自由に書いてください。	
	総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。評価ポイント 5 ~ 1 のいずれかの数字でお答えくさい。	(だ v.
I <u>.</u>	その他この授業の感想を自由に書いてください。	

このアンケートは,本学の教育改善のため,学生のみなさんにご協力をいただいて実施するものです。

このアンケートの集計結果の取り扱いについては,次のとおりです。

各科目ごとの集計結果は,それぞれの授業担当教官にフィードバックされます。

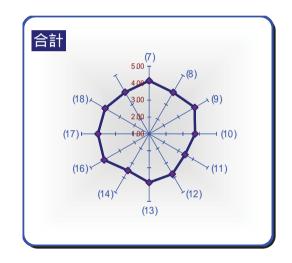
各科目ごとの集計結果を各学部ごとに再集計し,報告書等において公表することにしています。また, その内容は学生のみなさんにも掲示等でお知らせします。 83

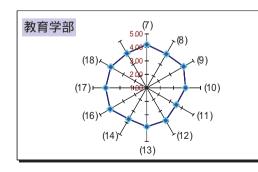
平成 15年 7月実施分 教育改善のための学生アンケート実施状況 (前期 1専門教育科目)

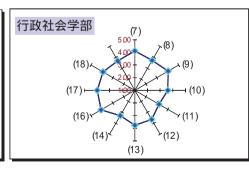
	学部毎の学生アンケー l実施率		行政社会学部	経済学部	合計
/ / -	学生アンケー ト対象科目数(a)	164	26	42	232
件数	学生アンケー l実施科目数(b)	143	24	37	204
	学生アンケー l実施率(b/a:%)	87 2%	92 3%	88.1%	87 9%
1	学生アンケー ト受講者数(c)	7,383	3,479	6,180	17,042
数数	学生アンケー F回答者数(d)	4,790	1,610	3,085	9,485
	学生アンケー h回答率(d/c:%)	64 9%	46 3%	49 9%	55.7%

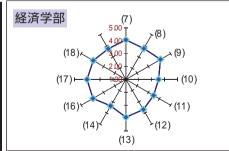
教育改善のための学生アンケー トにおける授業評価項目別 評価ポイント平均値 (学部毎)

	3 000		- TOTO IN	7 77 7 700 AT		<u> </u>
	番号	設 問	教育学部	行政社会学部	経済学部	合計
	(7)	授業への熱意が感じられた	4 21	4.12	4.06	4.15
+177	(8)	学生への対応は適切であった	3.91	3.74	3.77	3 84
授業及	(9)	授業の準備がしっかりなされていた	4.16	4.04	4.10	4.12
び	(10)	聞き取り易い話し方だった	3.88	3.61	3 53	3.72
担当	(11)	板書 OHPなどは見やすかった	3 53	3 20	3.48	3 46
担当教官	(12)	教科書 参考書 資料などは適切であった	3.81	3.66	3.69	3.75
	(13)	シラバスに沿って授業が行われた	3.89	3.76	3 93	3 88
	(14)	授業の内容はよく理解できた	3.68	3 30	3 37	3 5 1
教	(16)	授業の場では学習する雰囲気は保たれた	4.15	4.09	3 96	4 08
育環	(17)	授業の場の大きさや設備等は適切であった	4.06	3.98	4.01	4 03
境	(18)	受講者数は適切であった	4.10	3.91	3 93	4.01
総合		総合的にみてこの授業に満足しましたか	3.95	3.69	3.74	3 84









評価ポイント 5強くそう思う 4ややそう思う 3どちらともいえない 2あまりそう思わない 1まったくそう思わない

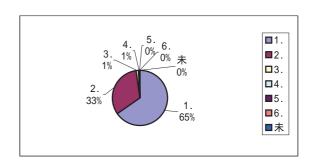
学部 教育学部

	科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
Г	教育学部 総合計			7383	4790	64 9%

.あなた自身についてお答え下さい。

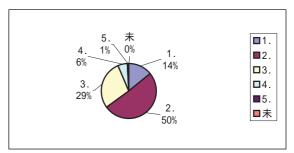
(1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	3129名
2.教育学部 (生涯教育)	1560名
3.行政社会学部(昼間)	62名
4. 行政社会学部 (夜間)	27名
5.経済学部 (昼間)	5名
6.経済学部 (夜間)	0名
未 未記入	7名



(2) 学年 (入学してからの年数)

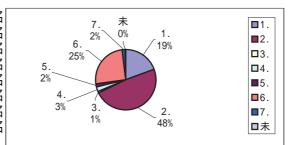
1. 1年	682名
2.2年	2431名
3.3年	1368名
4.4 年	272名
5.5年以上	32名
未 未記入	5名



.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

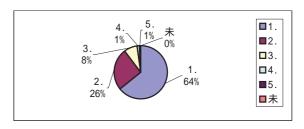
(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから 2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから 3. 単位がとリ易そうだったから 4. 受講し易い時間帯にあったから 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定だったから 7. その他	42名 126名 75名 1218名 80名
7. その他 未 未記入	80名 7名

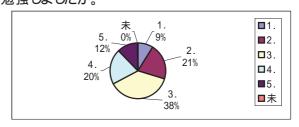


(4) この授業にどのくらい出席しましたか。

1221	
1.90%以上	3071名
2.89% ~ 70%	1233名
3.69% ~ 50%	381名
4.49% ~ 30%	62名
5. 29%以下	39名
未 未記入	4名



1. 非常によく勉強した	420名
2.よく勉強した	1009名
3.多少はした	1795名
4. ほとんどしなかった	975名
5.まったくしなかった	579名
未 未記入	12名

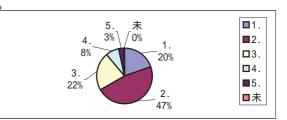


学部 教育学部

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
教育学部 総合計			7383	4790	64.9%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

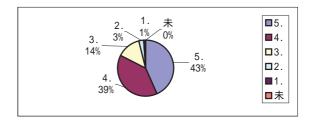
ニックス未にたいうるのかんたい	/多加志的18
1.非常に意欲的	948名
2. ある程度意欲的	2242名
3. どちらともいえない	1069名
4. あまり意欲的でない	376名
5.まった〈意欲的でない	145名
未 未記入	10名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

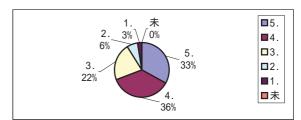
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	2076名
4. ややそう思う	1872名
3. どちらともいえない	653名
2.あまりそう思わない	140名
1.まったくそう思わない	44名
未 未記入	5名



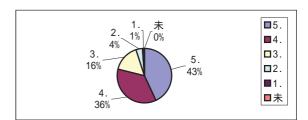
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	1583名
4. ややそう思う	1733名
3. どちらともいえない	1044名
2.あまりそう思わない	305名
1.まったくそう思わない	120名
未 未記入	5名



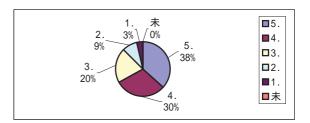
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	2069名
4. ややそう思う	1711名
3. どちらともいえない	769名
2.あまりそう思わない	182名
1.まったくそう思わない	54名
未 未記入	5名



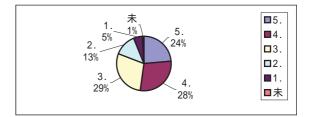
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	1750名
4. ややそう思う	1458名
3. どちらともいえない	978名
2. あまりそう思わない	434名
1.まったくそう思わない	165名
未 未記入	5名



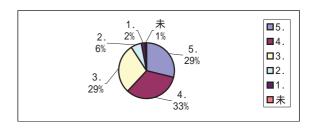
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	1131名
4. ややそう思う	1369名
3. どちらともいえない	1371名
2.あまりそう思わない	623名
1.まったくそう思わない	250名
未 未記入	46名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

5.強くそう思う	1379名
4. ややそう思う	1587名
3. どちらともいえない	1382名
2. あまりそう思わない	294名
1.まったくそう思わない	110名
未 未記入	38名



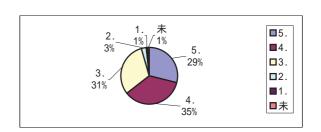
一一一

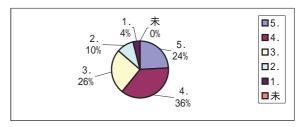
科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
教育学部 総合計			7383	4790	64 9%

5.強くそう思う	1387名
4. ややそう思う	1694名
3. どちらともいえない	1497名
2.あまりそう思わない	130名
1.まったくそう思わない	45名
未 未記入	37名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	1152名
4. ややそう思う	1756名
3. どちらともいえない	1233名
2. あまりそう思わない	462名
1.まったくそう思わない	181名
未 未記入	6名

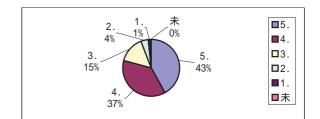




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

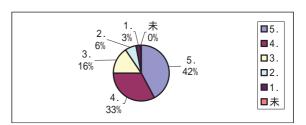
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	2012名
4. ややそう思う	1778名
3. どちらともいえない	727名
2.あまりそう思わない	191名
1.まったくそう思わない	62名
未 未記入	20名



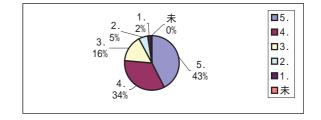
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

女米の多の人でこと 欧州 5	
5.強くそう思う	2020名
4. ややそう思う	1569名
3. どちらともいえない	745名
2. あまりそう思わない	308名
1.まったくそう思わない	129名
未 未記入	19名

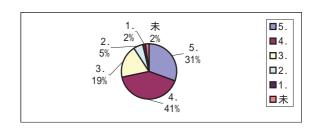


(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	2038名
4. ややそう思う	1619名
3. どちらともいえない	763名
2. あまりそう思わない	249名
1.まったくそう思わない	99名
未 未記入	22名



5.強くそう思う	1465名
4. ややそう思う	1965名
3. どちらともいえない	922名
2.あまりそう思わない	262名
1.まったくそう思わない	80名
未 未記入	96名



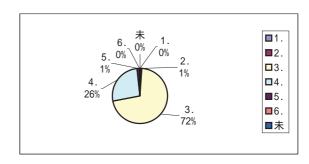
学部 行政社会学部

科目名	7 	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
行政社会学部	総合計			3479	1610	46.3%

.あなた自身についてお答え下さい。

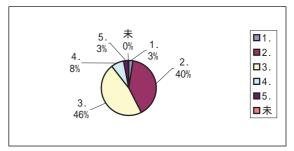
(1) 学部

·	
1.教育学部 (学校教育)	6名
2.教育学部 (生涯教育)	14名
3.行政社会学部(昼間)	1140名
4.行政社会学部(夜間)	424名
5.経済学部 (昼間)	20名
6.経済学部 (夜間)	4名
未 未記入	2名



(2)学年(入学してからの年数)

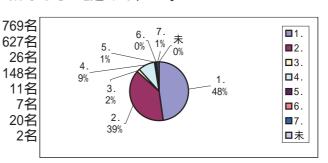
1. 1年	42名
2.2年	642名
3.3年	756名
4.4 年	122名
5.5年以上	44名
未 未記入	3名



.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

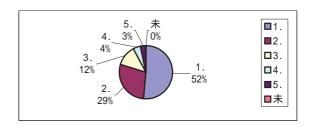
(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

6.クラス指定だったから 7.その他 未 未記入

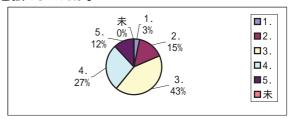


(4) この授業にどのくらい出席しましたか。

, ,	- Hills GO1 G1 G13 0
1. 90%以上	829名
2.89% ~ 70%	456名
3.69% ~ 50%	199名
4.49% ~ 30%	72名
5. 29%以下	53名
未 未記入	1名



1. 非常によく勉強した	52名
2.よ√勉強した	247名
3.多少はした	681名
4.ほとんどしなかった	437名
5.まったくしなかった	190名
未 未記入	3名

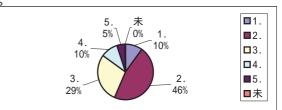


_____学部 行政社会学部

	1=: 11/- 13				
科目名	Ⅰ 授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
行政社会学家 松合計	72213 .	3==3×=	0.470	1610	46.20/
1			3479	1610	46.3%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

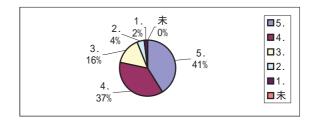
しり技术ににいり るのはにの	沙川忠弘Ic
1. 非常に意欲的	160名
2. ある程度意欲的	750名
3. どちらともいえない	460名
4. あまり意欲的でない	160名
5.まった〈意欲的でない	76名
未 未記入	4名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

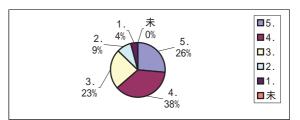
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	660名
4. ややそう思う	601名
3. どちらともいえない	250名
2.あまりそう思わない	68名
1.まったくそう思わない	29名
未 未記入	2名



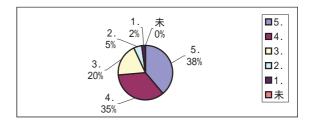
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	426名
4. ややそう思う	599名
3. どちらともいえない	378名
2.あまりそう思わない	142名
1.まったくそう思わない	63名
未 未記入	2名



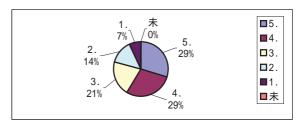
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	627名
4. ややそう思う	558名
3. どちらともいえない	315名
2. あまりそう思わない	73名
1.まったくそう思わない	35名
未 未記入	2名



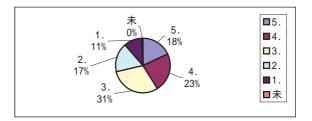
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	478名
4. ややそう思う	466名
3. どちらともいえない	332名
2.あまりそう思わない	220名
1.まったくそう思わない	112名
未 未記入	2名



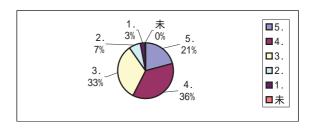
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

以目 しこころにはんのん かん	
5.強くそう思う	290名
4. ややそ う 思う	372名
3. どちらともいえない	489名
2.あまりそう思わない	277名
1.まった <i>く</i> そう思わない	175名
未 未記入	7名



(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

	(- 0) - 1 - (
5.強くそう思う	337名
4. ややそう思う	589名
3. どちらともいえない	526名
2.あまりそう思わない	107名
1.まったくそう思わない	46名
未 未記入	5名



学部 行政社会学部

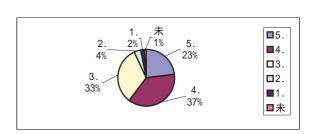
科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
行政社会学部 総合計			3479	1610	46 3%

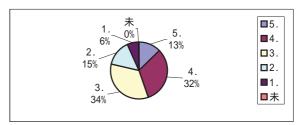
(13) シラバスに沿って授業が行われた。

369名
600名
531名
61名
33名
16名

(14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	205名
4. ややそう思う	514名
3. どちらともいえない	545名
2.あまりそう思わない	240名
1.まったくそう思わない	102名
未 未記入	4名

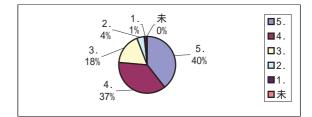




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

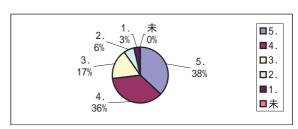
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	633名
4. ややそう思う	599名
3. どちらともいえない	282名
2.あまりそう思わない	71名
1.まったくそう思わない	20名
未 未記入	5名



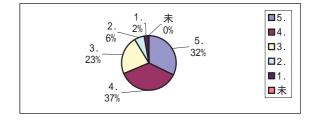
(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

5.強くそう思う	596名
4. ややそう思う	578名
3. どちらともいえない	281名
2. あまりそう思わない	98名
1. まったくそう思わない	51名
未 未記入	6名

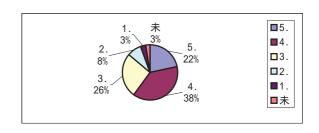


(18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	521名
4. ややそう思う	585名
3. どちらともいえない	367名
2. あまりそう思わない	93名
1.まったくそう思わない	39名
未 未記入	5名



5.強くそう思う	351名
4. ややそう思う	614名
3. どちらともいえない	420名
2. あまりそう思わない	136名
1. まったくそう思わない	48名
未 未記入	41名



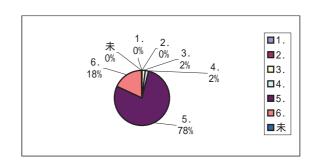
学部 経済学部

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
経済学部 総合計			6180	3085	49.9%

.あなた自身についてお答え下さい。

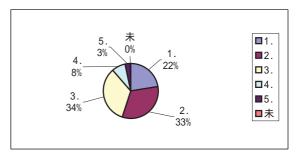
(1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	2名
2.教育学部 (生涯教育)	1名
3.行政社会学部 (昼間)	60名
4.行政社会学部(夜間)	61名
5.経済学部 (昼間)	2406名
6.経済学部 (夜間)	547名
未 未記入	8名



(2) 学年 (入学してからの年数)

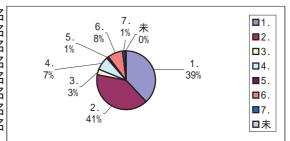
1. 1年	692名
2.2年	1003名
3.3年	1037名
4.4年	253名
5.5年以上	93名
未 未記入	7名



.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

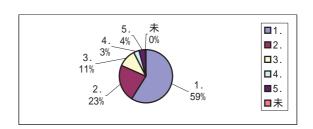
(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから1172. 卒業までに必要な取得単位のパランスから1233. 単位がとり易そうだったから234. 受講し易い時間帯にあったから235. 友人や先輩に勧められたから46. クラス指定だったから257. その他4未 未記入1

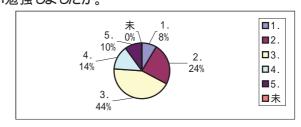


(4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	· — — (1)
1. 90%以上	1815名
2.89% ~ 70%	707名
3.69% ~ 50%	330名
4.49% ~ 30%	107名
5. 29%以下	117名
未 未記入	9名



1. 非常によく勉強した	262名
2.よく勉強した	747名
3.多少はした	1338名
4.ほとんどしなかった	428名
5.まったくしなかった	303名
未 未記入	7名

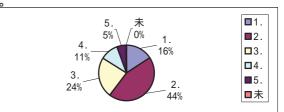


学部 経済学部

科目名	授業]-ド	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
経済学部 総合計	32284 1	3374	6180	3085	49.9%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

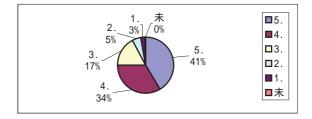
-V/1X ** IC/CV 1 9 000/06/0	_V/ 多加心(NIO
1. 非常に意欲的	485名
2. ある程度意欲的	1372名
3. どちらともいえない	731名
4. あまり意欲的でない	326名
5.まった〈意欲的でない	161名
未 未記入	10名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

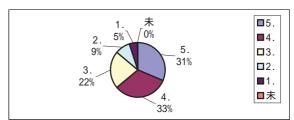
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	1275名
4. ややそう思う	1036名
3. どちらともいえない	533名
2.あまりそう思わない	153名
1.まったくそう思わない	79名
未 未記入	9名



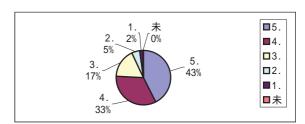
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	971名
4. ややそう思う	1001名
3. どちらともいえない	686名
2. あまりそう思わない	277名
1.まったくそう思わない	143名
未 未記入	7名



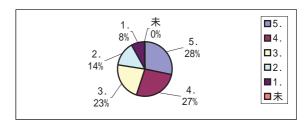
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

5.強 <i>くそう</i> 思う	1307名
4. ややそう思う	1031名
3. どちらともいえない	537名
2.あまりそう思わない	140名
1.まったくそう思わない	63名
未 未記入	7名



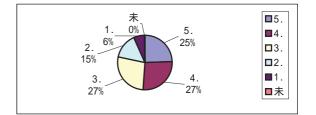
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	874名
4. ややそう思う	821名
3. どちらともいえない	696名
2. あまりそう思わない	443名
1.まったくそう思わない	243名
未 未記入	8名



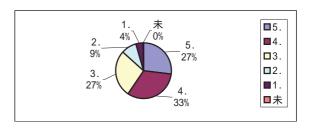
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	756名
4. ややそ う 思う	820名
3. どちらともいえない	838名
2.あまりそう思わない	465名
1.まったくそう思わない	195名
未 未記入	11名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

_
3
3
3
3
3
3



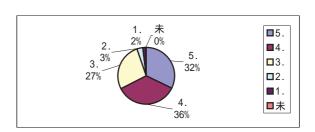
	7	<u></u>		
4X	· ·	⇒	피	

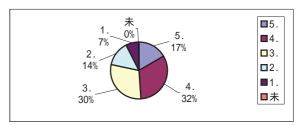
科目名	授業]-ド	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
経済学部 総合計	32284 1	3374	6180	3085	49.9%

~~~
992名
1092名
836名
102名
51名
12名

# (14) 授業の内容はよく理解出来た。

27/27 3 H 10/01 4 T 1/1 H 1/1/00	
5.強くそう思う	510名
4. ややそう思う	994名
3. どちらともいえない	911名
2.あまりそう思わない	440名
1.まったくそう思わない	221名
未 未記入	9名

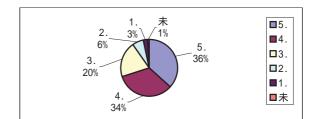




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

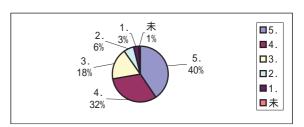
# (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	1129名
4. ややそう思う	1034名
3. どちらともいえない	622名
2. あまりそう思わない	194名
1.まったくそう思わない	81名
未 未記入	25名



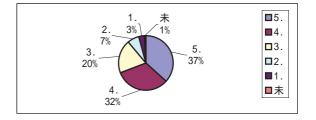
# (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

スポップップしてに以間で	
5.強くそう思う	1249名
4. ややそう思う	981名
3. どちらともいえない	551名
2.あまりそう思わない	186名
1.まったくそう思わない	94名
未 未記入	24名

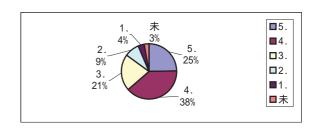


# (18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	1131名
4. ややそう思う	999名
3. どちらともいえない	614名
2. あまりそう思わない	211名
1.まった〈そう思わない	104名
未 未記入	26名



5.強くそう思う	766名
4. ややそう思う	1198名
3. どちらともいえない	654名
2. あまりそう思わない	270名
1.まったくそう思わない	113名
未 未記入	84名



# 

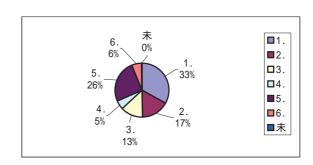
# 学部 専門教育科目

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
専門教育科目 総合計			17042	9485	55.7%

# .あなた自身についてお答え下さい。

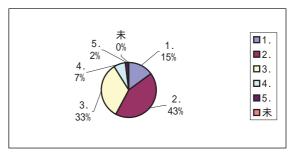
# (1) 学部

1.教育学部(学校教育)	3137名
2.教育学部 (生涯教育)	1575名
3.行政社会学部 (昼間)	1262名
4. 行政社会学部 (夜間)	512名
5.経済学部(昼間)	2431名
6. 経済学部 (夜間)	551名
未未記入	17名



# (2) 学年 (入学してからの年数)

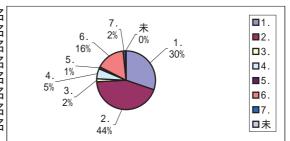
1. 1年	1416名
2.2年	4076名
3.3年	3161名
4.4 <del>年</del>	647名
5.5年以上	169名
未 未記入	15名



.この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

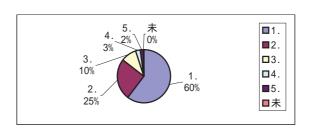
# (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから 2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから 3. 単位がとり易そうだったから 4. 受講し易い時間帯にあったから 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定だったから 7. その他 未 未記入	2871名 4175名 159名 505名 128名 1482名 143名 22名
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------

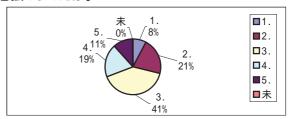


# (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

1. 90%以上	5715名
2.89% ~ 70%	2396名
3.69% ~ 50%	910名
4.49% ~ 30%	241名
5. 29%以下	209名
未 未記入	14名



	-1/3 O C H /3 C
1. 非常によく勉強した	734名
2.よ√勉強した	2003名
3.多少はした	3814名
4.ほとんどしなかった	1840名
5.まったくしなかった	1072名
未 未記入	22名

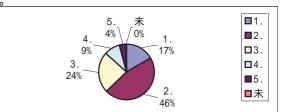


#### 学部 専門教育科目

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
専門教育科目 総合計			17042	9485	55.7%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

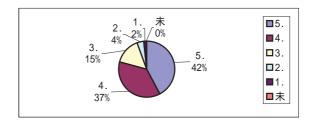
-V/1文米にたいり 200/3/CV/	≫ル1100円110
1. 非常に意欲的	1593名
2. ある程度意欲的	4364名
3. どちらともいえない	2260名
4.あまり意欲的でない	862名
5.まった〈意欲的でない	382名
未 未記入	24名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

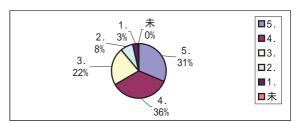
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	4011名
4. ややそう思う	3509名
3. どちらともいえない	1436名
2. あまりそう思わない	361名
1.まった〈そう思わない	152名
未 未記入	16名



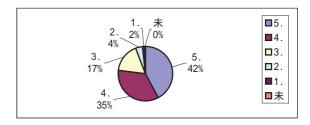
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	2980名
4. ややそう思う	3333名
3. どちらともいえない	2108名
2.あまりそう思わない	724名
1.まったくそう思わない	326名
未 未記入	14名



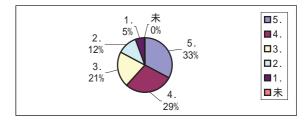
(9) 授業への準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	4003名
4. ややそう思う	3300名
3. どちらともいえない	1621名
2.あまりそう思わない	395名
1.まったくそう思わない	152名
未 未記入	14名



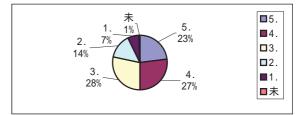
(10) 話は聞き取り易かった。

5.強くそう思う	3102名
4. ややそう思う	2745名
3. どちらともいえない	2006名
2.あまりそう思わない	1097名
1.まった〈そう思わない	520名
未 未記入	15名



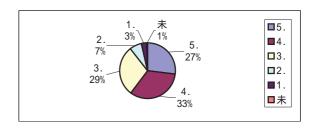
(11) 板書 ·OHPなどは見易かった。

5.強くそう思う	2177名
4. ややそう思う	2561名
3. どちらともいえない	2698名
2.あまりそう思わない	1365名
1.まったくそう思わない	620名
未 未記入	64名



(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

5.強くそう思う	2543名
4. ややそう思う	3184名
3. どちらともいえない	2746名
2.あまりそう思わない	676名
1.まったくそう思わない	283名
未 未記入	53名



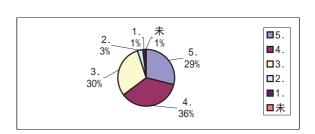
	≐	部		
車	門孝	育	科	

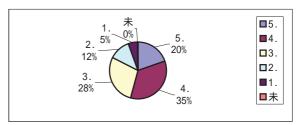
科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
専門教育科目 総合計			17042	9485	55.7%

5.強くそう思う	2748名
4. ややそう思う	3386名
3. どちらともいえない	2864名
2. あまりそう思わない	293名
1.まった〈そう思わない	129名
未 未記入	65名

# (14) 授業の内容はよく理解出来た。

5.強くそう思う	1867名
4. ややそう思う	3264名
3. どちらともいえない	2689名
2.あまりそう思わない	1142名
1.まった <i>く</i> そう思わない	504名
未 未記入	19名

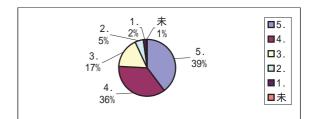




.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

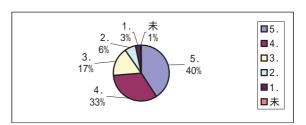
# (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれたか。

5.強くそう思う	3774名
4. ややそう思う	3411名
3. どちらともいえない	1631名
2.あまりそう思わない	456名
1.まったくそう思わない	163名
未 未記入	50名



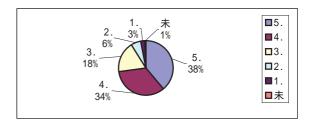
# (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であったか。

スポッツッハして「以間で」	
5.強くそう思う	3865名
4. ややそう思う	3128名
3. どちらともいえない	1577名
2.あまりそう思わない	592名
1.まったくそう思わない	274名
未 未記入	49名

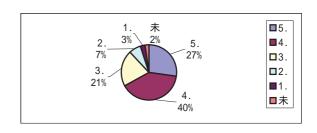


# (18) 受講者数は適切であったか。

5.強くそう思う	3690名
4. ややそう思う	3203名
3. どちらともいえない	1744名
2.あまりそう思わない	553名
1.まった〈そう思わない	242名
未 未記入	53名



5.強くそう思う	2582名
4. ややそう思う	3777名
3. どちらともいえない	1996名
2. あまりそう思わない	668名
1. まったくそう思わない	241名
未 未記入	221名



# 平成15年度後期 教育改善のための学生アンケート実施状況 分類毎)

# 共通教育科目

<u> </u>			1		件数		人数(受講者 1 桁科目を除く)		人数(受講者1桁科目を含む)			備考			
分野			分類コード	科目数	対象数	実施数	実施率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	1桁 受講者	1桁 •回答者
	人向と又化		111	10	10	9	90.0%	1,578	780	49.4%	1,578	780	49.4%	無し	無し
	社会と歴史		121	8	8	7	87.5%	1,460	562	38.5%	1,460	562	38.5%	無し	無し
	自然と技術	数字・自然	131	10	10	8	80.0%	1,213	514	42.4%	1,213	514	42.4%	無し	無し
教養科目		基礎理学	132	3	3	3	100.0%	110	48	43.6%	110	48	43.6%	無し	無し
		情報	133	3	3	2	66.7%	209	52	24.9%	209	52	24.9%	無し	無し
		その他	134	0	-	-	0.0%	-	-	0.0%	-	-	0.0%	無し	無し
				and the same of th			小計	1,532	614	40.1%	1,532	614	40.1%	無し	無し
総合科目			211	5	5	5	100.0%	539	266	49.4%	539	266	49.4%	無し	無し
	健康・連動科	字実習	311	23	23	21	91.3%	1,042	856	82.1%	1,042	856	82.1%	無し	無し
姓/宋 / 建到作4日 	スポーツ実習		321	6	6	1	16.7%	136	15	11.0%	136	15	11.0%	無し	無し
	央部		411	52	52	47	90.4%	2,140	1,607	75.1%	2,157	1,621	75.2%	2科目17人	2科目14人
英語	英語		421	27	27	25	92.6%	965	639	66.2%	965	639	66.2%	無し	無し
<b>火</b> 品	英語		431	3	3	3	100.0%	11	7	63.6%	27	15	55.6%	2科目16人	2科目8人
	<b>、特設英語</b>		441	4	4	4	100.0%	29	21	72.4%	40	27	67.5%	2科目11人	2科目6人
	ドイツ語	划級	511	15	15	15	100.0%	726	619	85.3%	726	619	85.3%	無し	無し
		中級	512	5	5	5	100.0%	155	116	74.8%	164	123	75.0%	1科目9人	1科目7人
		上級	513	1	1	1	100.0%	11	11	100.0%	11	11	100.0%	無し	無し
		外国語・外国文化	514	1	1	1	100.0%	-	-	0.0%	7	7	100.0%	1科目7人	1科目7人
	フランス語	利赦	521	11	11	11	100.0%	458	356	77.7%	458	356	77.7%	無し	無し
		中級	522	4	4	4	100.0%	106	74	69.8%	106	74	69.8%	無し	無し
		上級	523		1	1	100.0%	-	-	0.0%	5	4	80.0%	1科目5人	1科目4人
		刮級	531	16	16	16	100.0%	696	577	82.9%	696	577	82.9%	無し	無し
非英外国語	中国語	中級	532	6	6	6	100.0%	229	158	69.0%	229	158	69.0%	無し	無し
1. <del>火</del> 八国品	中国品	上級	533	1	1	-	0.0%	15	-	0.0%	15	-	0.0%	無し	無し
		外国語・外国文化	534	1_	1	1	100.0%	15	11	73.3%	15	11	73.3%	無し	無し
		划級	541	4	4	4	100.0%	136	112	82.4%	136	112	82.4%	無し	無し
	ロシア語	中級	542	2	2	2	100.0%	38	30	78.9%	38	30	78.9%	無し	無し
		上級	543		1	1	100.0%	-	-	0.0%	5	5	100.0%	1科目5人	1科目5人
	フ ペ ノ ハ キョ	刮紋	551	2	2	2	100.0%	110	75	68.2%	110	75	68.2%	無し	無し
	スペイン語	中級	552	2	2	2	100.0%	29	24	82.8%	29	24	82.8%	無し	無し
	□≠≐∓	 日本語	561	1	1	1	100.0%	22	22	100.0%	22	22	100.0%	無し	無し
	日本語	日本語	562	1	1	1	100.0%	15	15	100.0%	15	15	100.0%	無し	無し
	計	****	•	229	229	209	91.3%	12,193	7,567	62.1%	12,263	7,618	62.1%		

の範囲の科目群で集計した。ただし、日本語は担当者が特定されるため集計しない。

# 3学部専門教育科目

3子部等门教育科目														
٠, ==					件数		人数(受講者 1 桁科目を除く)		人数(受講者1桁科目を含む)			備考		
分野	科目	分類コード	科目数	対象数	実施数	実施率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	受講者数 (延べ数)	回答者数 (延べ数)	回答率	1桁 受講者	1桁 回答者
教育学部専門科目			227	227	194	85.5%	8,672	5,549	64.0%	8,672	5,549	64.0%	無し	無し
行政社会学部専門科目			38	38	33	86.8%	5,011	2,262	45.1%	5,011	2,262	45.1%	無し	無し
経済学部専門科目			31	31	25	80.6%	4,820	1,981	41.1%	4,820	1,981	41.1%	無し	無し
	計		296	296	252	85.1%	18,503	9,792	52.9%	18,503	9,792	52.9%		

の範囲の科目群で集計した。

# 【共通教育科目】

72.4	•	•		
アンケート	•	•	•	
		!	•	!
<b>コード</b>				

# 教育改善のための学生アンケート 平成16年1月実施

福島大学FDプロジェクト

•	自由記載欄には思	ていることを率直に述べて	ください。
---	----------	--------------	-------

. ;	あなた	自身につい	1てお答え	下さい。
-----	-----	-------	-------	------

1	1	١	学邹
١		•	소마

1. 教育学部(学校教育教員養成課程)

3. 行政社会学部(昼間主コース)

5. 経済学部(昼間主コース)

2	数容学部	(生涯教育課程)	
۷.	双目子司	(土)() (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	1

4. 行政社会学部(夜間主コース)

6. 経済学部(夜間主コース)

(1)
-----

(2) 学年(入学してからの年数)

1. 1年

2.2年

3.3年

4.4年

5.5年以上

(2)	
-----	--

. この授業についてのあなた自身の取り組みについておたずねします。

(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んでください。

1. 勉学面で関心があったから

2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから

3. 単位がとり易そうだったから

4. 受講し易い時間帯にあったから

5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定又は必修だったから



7. その他

(4) この授業にどのくらい出席しましたか。

1. 90%以上

2. 89~70%

3.69~50% 4.49~30% 5.29%以下

(4)

)

(5) 授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

1. 非常によく勉強した 4. ほとんどしなかった

2. よく勉強した

3. 多少はした

(5)	

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

1. 非常に意欲的

2. ある程度意欲的

3. どちらともいえない

(6)	
(0)	

4. あまり意欲的でない

5. まったく意欲的でない

5. まったくしなかった

#### 【以下の各設問については,次の区分により評価をし、該当する評価ポイント(数字)を に記入してください。】

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
ポイント	5	4	3	2	1

. この授業及び担当教員に関して,次の項目について評価をし,評価ポイント5~1のいずれかの数字でお答え ください。(担当教員が複数の場合は総合的に判断してお答えください。)

(7) 授業への熱意が感じられた。

(8) 学生への対応は適切であった。

(9) 授業の準備がしっかりなされていた。

(10) 聞き取り易い話し方だった。

(11) 板書・OHPなどは見やすかった。(使用していない授業の場合は空欄にしてください。)

(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

(13) シラバスに沿って授業が行われた。

(14) 授業の内容はよく理解できた。

(7)	
(0)	

(9)	
40)	

(11)	
,	

(12)	
(13)	

(13)	
(14)	

評価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない				
ポイント	5	4	3 2		1				
3   4   3   2   1   1   1   1   1   1   1   1   1									

. 総合的	Dにみてこの授業に満足しましたか。評価ポイント5~1のいずれかの数字でお答えください。	
. 教育環	環境について評価をし,評価ポイント5~1のいずれか数字でお答えください。	
(16) }	授業の場では学習する雰囲気は保たれた。	(16)
(17) ‡	授業の場の大きさや設備等は適切であった。	(17)
(18)	受講者数は適切であった。	(18)
(19)	その他教育環境について感じたことを自由に書いてください。	
. その他	ねこの授業の感想を自由に書いてください。	

このアンケートは,本学の教育改善のため,学生のみなさんにご協力をいただいて実施するものです。 このアンケートの集計結果の取り扱いについては,次のとおりです。

各科目ごとの集計結果は、それぞれの授業担当教官にフィードバックされます。 各科目をいくつかのグループに分類し、グループ単位の集計結果を報告書等において公表すること にしています。また、その内容は学生のみなまんにも掲示等でお知らせします。

# 平成 16年 1月実施分 教育改善のための学生アンケート実施状況 (碩年 後期)共通教育科目)

	科目群毎の学生アンケーl実施率	人間と文化	社会と歴史	自然と技術	総合科目	健康 運動科目	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	ロシア語	スペイン語	日本語	合計
件	学生アンケー l対象科目数(a)	10	8	16	5	29	86	22	16	24	7	4		227
数	学生アンケー l実施科目数(b)	9	7	13	5	22	79	22	16	23	7	4		207
女义	学生アンケー l実施率(b/a:%)	90.0%	87.5%	81 3%	100 0%	75 9%	91 9%	100 D%	100 Ω%	95.8%	100 0%	100 0%		91 2%
1	学生アンケート受講者数(c)	1,578	1,460	1,532	539	1,178	3,145	892	564	955	174	139		12,156
数	学生アンケー l回答者数(d)	780	562	614	266	871	2 274	746	430	746	142	99		7,530
ØΧ	学生アンケー ト回答率(d/c:%)	49.4%	38 5%	40.1%	49.4%	73 9%	72 3%	83.6%	76 2%	78.1%	81.6%	71 2%		61 9%

# 教育改善のための学生アンケー トにおける授業評価項目別 評価ポイント平均値 (科目群毎)

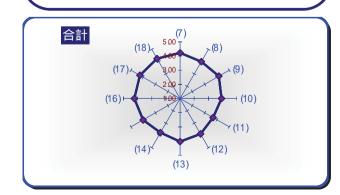
			1 7 T T 7 T T												
	番号	設問	人間と文化	社会と歴史	自然と技術	総合科目	健康 運動科目	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	ロシア語	スペイン語	日本語	合計
	(7)	授業への熱意が感じられた	4.30	4.07	4.07	4.12	4.52	4.10	4.39	4 27	4.15	4.61	4.00		4 22
授	(8)	学生への対応は適切であった	4.07	3.74	3 55	3 82	4.31	4.01	4.18	4.11	4.00	4 27	3 53		4.01
<b>美</b> 及	(9)	授業の準備がしっかりなされていた	4.38	4.02	3 95	4.19	4 25	4 08	4.33	4 20	4.11	4.56	4.01		4.16
゙゙゙゙゙゙゙゙	(10)	話は聞き取り易かった	4.09	3.40	3 39	3.69	4 29	3 91	4.03	4.15	4.06	4 25	3.90		3 93
担当	(11)	板書 OHPなどは見やすかった	3.86	3 36	3.13	3 52	3.90	3.72	3 88	3 90	3.75	3.72	3 53		3.69
到	(12)	教科書 参考書 資料などは適切であった	3 93	3 55	3.44	3.77	3.87	3 89	4.16	4.10	4.00	4 22	3.62		3 88
官	(13)	シラバスに沿って授業が行われた	4.10	3.97	3.82	4.13	4.19	3 98	4.19	4.09	4.02	4 24	3.84		4.04
	(14)	授業の内容はよく理解できた	3 88	3.46	3 03	3.41	4 22	3 89	3.97	3.74	3.78	3.91	3.16		3.78
総合		総合的にみてこの授業に満足しましたか	4.18	3.68	3.45	3.71	4.39	4.00	4 21	4.12	4.04	4 24	3.55		4.02
教	(16)	授業の場では学習する雰囲気は保たれたか	3 89	4.01	4.10	3 96	4.38	4 25	4.39	4.33	4.40	4.67	4.17		4 23
育環	(17)	授業の場の大きさや設備等は適切であったか	4.14	4.16	4.11	4.13	4 27	4 33	4.43	4 38	4.31	4.43	4 26	·	4 28
境	(18)	受講者数は適切であったか	4.01	4.07	4.03	4.02	4.30	4.35	4.40	4.40	4 25	4.46	4.07		4 25

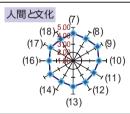
#### 評価ポイント

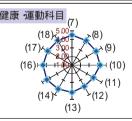
- 5 強くそう思う(非常に良い)
- 4 ややそう思う(良い)
- 3 どちらとも言いえない(普通)
- 2 あまりそう思わない(あまり良くない)
- 1 まったくそう思わない(良くない)

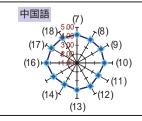
日本語はクラスが特定されるので公表から外す。

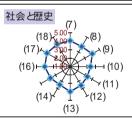
受講者数が一桁の授業は集計から外す。

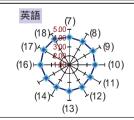


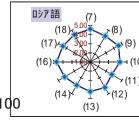


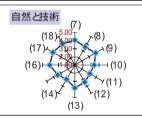


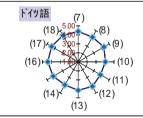


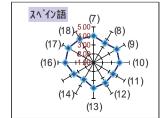


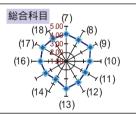












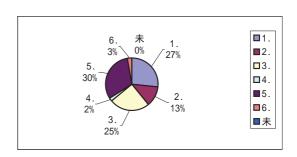


科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1578	780	49 4%

# .あなた自身についてお答え下さい。

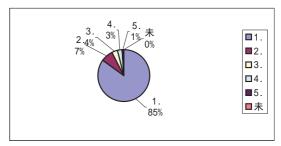
# (1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	208名
2.教育学部(生涯教育)	98名
3. 行政社会学部 (昼間)	193名
4. 行政社会学部 (夜間)	16名
5. 経済学部 (昼間)	244名
6. 経済学部 (夜間)	20名
未 未記入	1名



# (2) 学年 (入学してからの年数)

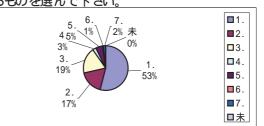
1. 1年	664名
2. 2年	57名
3.3年	28名
4. 4年	23名
5.5年以上	8名
未 未記入	0名



# .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

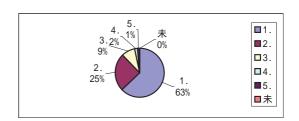
# (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

こうしてこの技術で送がためてすが。こうこと	コ くしゅみ
1. 勉学面で関心があったから	421名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	135名
3.単位がとり易そうだったから	148名
4.受講し易い時間帯にあったから	20名
5.友人や先輩に勧められたから	38名
6. クラス指定又は必修だったから	5名
7. その他	12名
未 未記入	1名

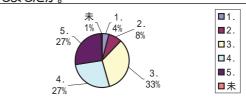


# (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Щ л р оох олслэ о
1. 90%以上	489名
2.89% ~ 70%	195名
3.69% ~ 50%	70名
4.49% ~ 30%	15名
5. 29%以下	11名
未 未記入	0名



1. 非常によく勉強した	32名
2.よく勉強した	64名
3.多少はした	259名
4.ほとんどしなかった	211名
5.まったくしなかった	210名
未 未記入	4名

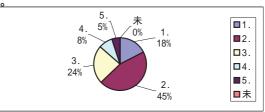


力野 数差科日	1 目 レヤル
乙八田又	<b>1</b> () □

科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1578	780	49.4%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

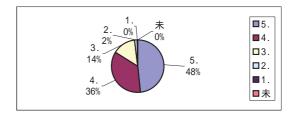
-V/1文 <del>本</del> にたいり るいかるたい。	ᄼᄱᇒᇄ
1. 非常に意欲的	137名
2. ある程度意欲的	353名
3. どちらともいえない	184名
4. あまり意欲的でない	66名
5.まった〈意欲的でない	39名
未 未記入	1名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

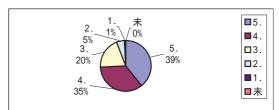
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	376名
4. ややそう思う	279名
3. どちらともいえない	109名
2.あまりそう思わない	14名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	0名

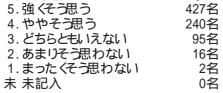


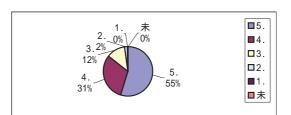
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強 <i>くそう</i> 思う	305名
4. ややそう思う	274名
3. どちらともいえない	155名
2. あまりそう思わない	39名
1.まった〈そう思わない	7名
未 未記入	0名



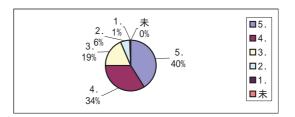
# (9)授業の準備がしっかりなされていた。





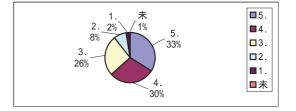
# (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	321名
4. ややそう思う	264名
3. どちらともいえない	146名
2.あまりそう思わない	45名
1.まった〈そう思わない	4名
未 未記入	0名



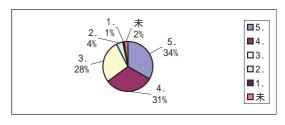
# (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	264名
4. ややそう思う	231名
3. どちらともいえない	202名
2.あまりそう思わない	64名
1.まった〈そう思わない	14名
未 未記入	5名



#### (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

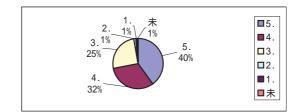
	,,, -,-
5.強くそう思う	261名
4. ややそ <b>う</b> 思う	243名
3. どちらともいえない	217名
2.あまりそう思わない	32名
1.まったくそう思わない	10名
未 未記入	17名



力到' 数差针日	17日 1日
ノト田マ	製口

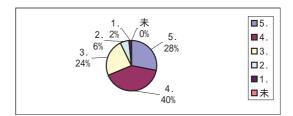
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
_	-	_	1578	780	49.4%

	_0
5.強くそう思う	311名
4. ややそう思う	251名
3. どちらともいえない	196名
2. あまりそう思わない	11名
1.まったくそう思わない	6名
未 未記入	5名



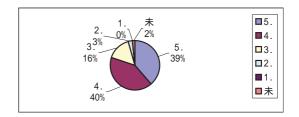
# (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	219名
4. ややそう思う	317名
3. どちらともいえない	187名
2.あまりそう思わない	44名
1.まったくそう思わない	13名
未 未記入	0名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

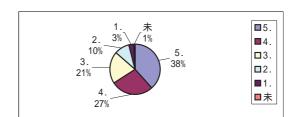
5.強くそう思う	302名
4. ややそう思う	322名
3. どちらともいえない	122名
2. あまりそう思わない	21名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	12名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

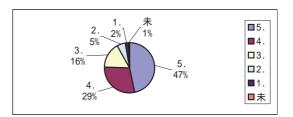
# (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	300名
4. ややそう思う	213名
3. どちらともいえない	161名
2. あまりそう思わない	75名
1.まったくそう思わない	25名
未 未記入	6名



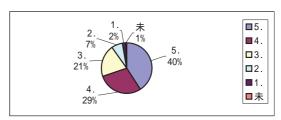
#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	363名
4. ややそう思う	227名
3. どちらともいえない	128名
2.あまりそう思わない	40名
1.まった〈そう思わない	16名
未 未記入	6名



# (18) 受講者数は適切であった。

5.強くそう思う	318名
4. ややそう思う	226名
3. どちらともいえない	161名
2. あまりそう思わない	54名
1.まったくそう思わない	15名
未 未記入	6名



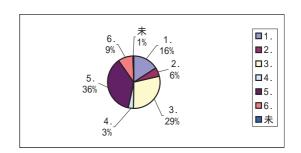
刀打	사수 사수 나타마
/\mz	<b>€</b> \ □

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1460	562	38 5%

# .あなた自身についてお答え下さい。

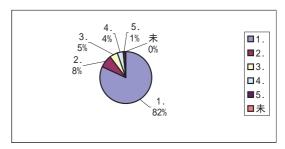
#### (1) 学部

1 Hr	
1.教育学部(学校教育)	89名
2.教育学部 (生涯教育)	31名
3.行政社会学部 (昼間)	162名
4.行政社会学部(夜間)	17名
5.経済学部 昼間)	209名
6.経済学部 (夜間 )	51名
未 未記入	3名



# (2) 学年 (入学してからの年数)

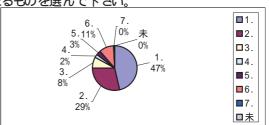
1. 1年	460名
2.2年	44名
3.3年	29名
4.4年	20名
5.5年以上	7名
未 未記入	2名



# .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

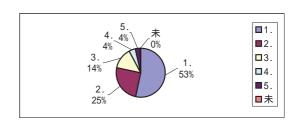
# (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

- DOCCONX来已经707C97C973。0DCO二	C1000
1. 勉学面で関心があったから	260名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	161名
3.単位がとり易そうだったから	45名
4.受講し易い時間帯にあったから	13名
5. 友人や先輩に勧められたから	19名
6. クラス指定又は必修だったから	60名
7. その他	2名
未 未記入	2名

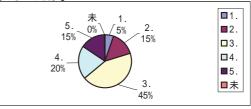


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	12 001 01012
1. 90%以上	299名
2.89% ~ 70%	142名
3.69% ~ 50%	78名
4.49% ~ 30%	22名
5. 29%以下	20名
未 未記入	1名



又未时  切り  にこり  又未には	
1.非常によ√勉強した	30名
2.よく勉強した	84名
3.多少はした	245名
4. ほとんどしなかった	115名
5. まったくしなかった	86名
未 未記入	2名

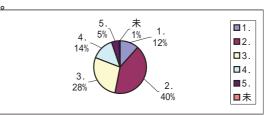


分野	科目
l 教養科目	社会と歴史

科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1460	562	38 5%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

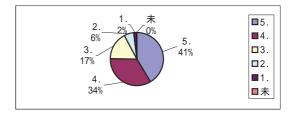
1.非常に意欲的	65名
2. ある程度意欲的	233名
3. どちらともいえない	157名
4. あまり意欲的でない	77名
5.まった〈意欲的でない	27名
未 未記入	3名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

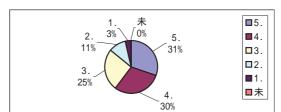
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	233名
4. ややそう思う	190名
3. どちらともいえない	95名
2. あまりそう思わない	33名
1.まったくそう思わない	10名
未 未記入	1名



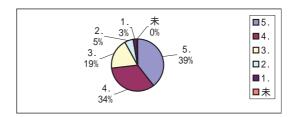
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	170名
4. ややそう思う	169名
3. どちらともいえない	143名
2.あまりそう思わない	60名
1.まった〈そう思わない	18名
未 未記入	2名



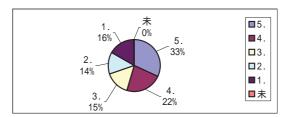
#### (9)授業の準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	221名
4. ややそう思う	189名
3. どちらともいえない	107名
2. あまりそう思わない	29名
1.まったくそう思わない	15名
未 未記入	1名



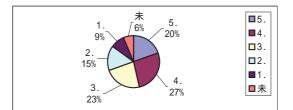
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	180名
4. ややそう思う	126名
3. どちらともいえない	86名
2.あまりそう思わない	77名
1.まったくそう思わない	92名
未 未記入	1名



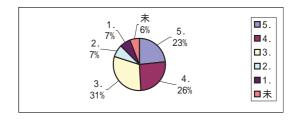
# (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

名
名
名
名
名
名



# (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

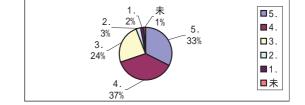
5.強くそう思う	131名
4. ややそう思う	146名
3. どちらともいえない	173名
2.あまりそう思わない	42名
1.まったくそう思わない	37名
未 未記入	33名



	力野	사건 상소 LEE D
分野   科目	71 51	71H

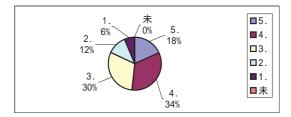
I	科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	-	1460	562	38.5%

5.強くそう思う	183名
4. ややそう思う	209名
3. どちらともいえない	137名
2.あまりそう思わない	16名
1.まったくそう思わない	11名
未 未記入	6名



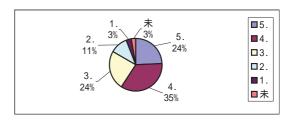
# (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	103名
4. ややそう思う	187名
3. どちらともいえない	171名
2. あまりそう思わない	65名
1.まったくそう思わない	34名
未 未記入	2名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

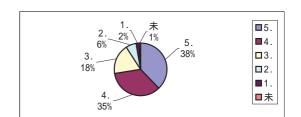
	~ ~ ~ ~ ~ ~ ~
5.強くそう思う	137名
4. ややそう思う	196名
3. どちらともいえない	136名
2. あまりそう思わない	60名
1.まったくそう思わない	18名
未 未記入	15名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

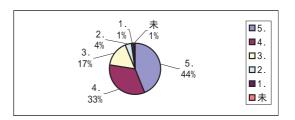
# (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	212名
4. ややそう思う	196名
3. どちらともいえない	103名
2. あまりそう思わない	35名
1.まったくそう思わない	11名
未 未記入	5名



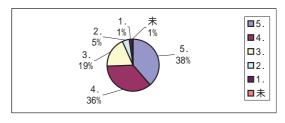
#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	247名
4. ややそう思う	188名
3. どちらともいえない	93名
2.あまりそう思わない	21名
1.まったくそう思わない	8名
未 未記入	5名



# (18) 受講者数は適切であった。

5.強くそう思う	217名
4. ややそう思う	202名
3. どちらともいえない	105名
2. あまりそう思わない	26名
1.まったくそう思わない	7名
未 未記入	5名

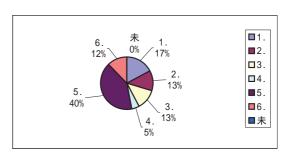


カ美利口 白砂 いま		科目
------------	--	----

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1532	614	40.1%

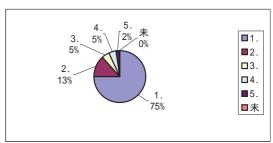
#### (1) 学部

1 Hb	
1.教育学部 (学校教育)	106名
2.教育学部 (生涯教育)	77名
3.行政社会学部 (昼間)	77名
4.行政社会学部(夜間)	29名
5.経済学部 (昼間 )	250名
6.経済学部(夜間)	75名
未 未記入	0名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

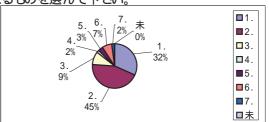
1. 1年	461名
2.2年	81名
3.3年	30名
4.4年	28名
5.5年以上	13名
未 未記入	1名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

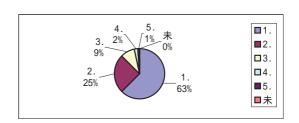
### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

こうしてこの技業を選んだのですか。もうこむ	コ いみす
1. 勉学面で関心があったから	194名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	273名
3.単位がとり易そうだったから	58名
4.受講し易い時間帯にあったから	11名
5. 友人や先輩に勧められたから	21名
6. クラス指定又は必修だったから	44名
7. その他	12名
未 未記入	1名

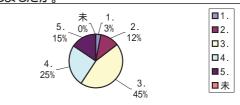


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	C/3 0
1. 90%以上	384名
2.89% ~ 70%	153名
3.69% ~ 50%	56名
4.49% ~ 30%	15名
5. 29%以下	6名
未 未記入	0名



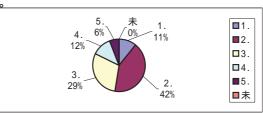
1.非常によく勉強した	19名
2.よく勉強した	72名
3. 多少はした	273名
4. ほとんどしなかった	155名
5. まったくしなかった	94名
未 未記入	1名



(一) (里)	科目
教養科目 自然と技術	

NEA		キロ ハン サルデュ	元 4井 十/ 北上	□ <i>kk</i> +/ 4/L	<i>kk</i> →-
科目名	<b>パンケートコート</b>	担当教官		四合首数	四答率
_	_	_	1532	614	40.1%

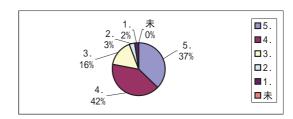
-071X <del>X</del> 1C1C0 · 7 G07.G1C07	
1.非常に意欲的	66名
2. ある程度意欲的	257名
3. どちらともいえない	181名
4. あまり意欲的でない	74名
5.まった〈意欲的でない	36名
未 未記入	0名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

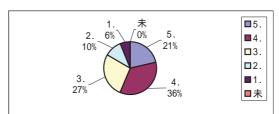
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	229名
4. ややそう思う	251名
3. どちらともいえない	98名
2. あまりそう思わない	21名
1.まった〈そう思わない	15名
未 未記入	0名

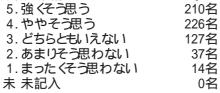


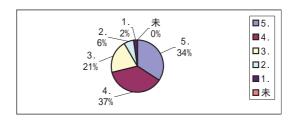
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	131名
4. ややそう思う	215名
3. どちらともいえない	166名
2. あまりそう思わない	64名
1.まったくそう思わない	38名
未 未記入	0名



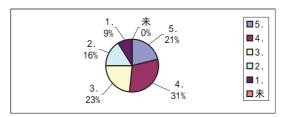
### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





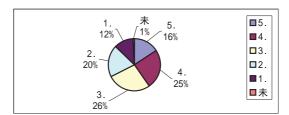
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	129名
4. ややそ <b>う</b> 思う	189名
3. どちらともいえない	143名
2.あまりそう思わない	98名
1.まった <i>く</i> そう思わない	55名
未 未記入	0名



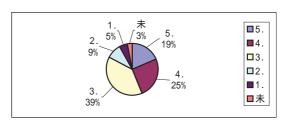
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	97名
4. ややそう思う	151名
3. どちらともいえない	166名
2.あまりそう思わない	122名
1.まったくそう思わない	73名
未 未記入	5名



#### (12) 教科書 参考書・資料などは適切であった。

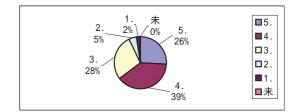
5.強くそう思う	114名
4. ややそう思う	155名
3. どちらともいえない	239名
2.あまりそう思わない	56名
1.まったくそう思わない	32名
未 未記入	18名



分野	科目
教養科目	目然と技術

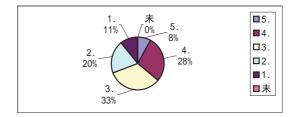
I	科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	-	1532	614	40.1%

5.強くそう思う	159名
4. ややそう思う	238名
3. どちらともいえない	173名
2. あまりそう思わない	28名
1.まった〈そう思わない	14名
未 未記入	2名



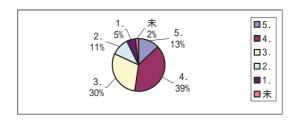
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	49名
4. ややそう思う	173名
3. どちらともいえない	203名
2. あまりそう思わない	123名
1.まったくそう思わない	66名
未 未記入	0名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

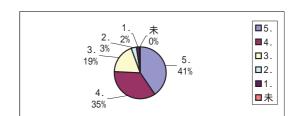
, _ , _ ,
81名
239名
183名
67名
32名
12名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

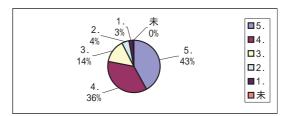
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	249名
4. ややそう思う	216名
3. どちらともいえない	115名
2.あまりそう思わない	21名
1.まったくそう思わない	10名
未 未記入	3名

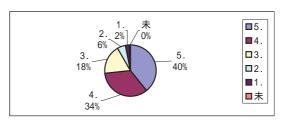


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	258名
4. ややそう思う	221名
3. どちらともいえない	89名
2.あまりそう思わない	27名
1.まったくそう思わない	16名
未 未記入	3名



5.強くそう思う	240名
4. ややそう思う	211名
3. どちらともいえない	111名
2.あまりそう思わない	34名
1.まったくそう思わない	15名
未 未記入	3名

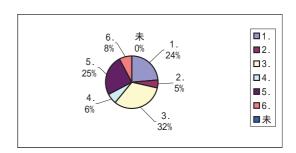


分野	科目
総合科目	

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	539	266	49 4%

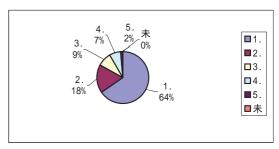
#### (1) 学部

TUP	
1.教育学部 (学校教育)	63名
2.教育学部 (生涯教育)	13名
3.行政社会学部 (昼間)	86名
4.行政社会学部(夜間)	17名
5.経済学部 (昼間 )	66名
6.経済学部(夜間)	21名
未 未記入	0名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

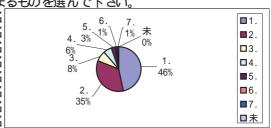
1. 1年	174名
2.2年	47名
3.3年	23名
4.4年	18名
5.5年以上	4名
未 未記入	0名



#### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

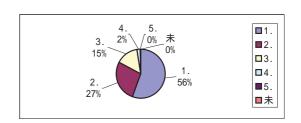
## (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

- プレビビの技未を選んだのですが。でプロロニ	1 (199
1. 勉学面で関心があったから	124名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	92名
3.単位がとり易そうだったから	20名
4.受講し易い時間帯にあったから	16名
5. 友人や先輩に勧められたから	8名
6. クラス指定又は必修だったから	3名
7. その他	3名
未 未記入	0名

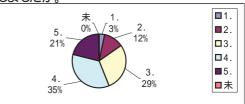


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Щир оог огсиз в
1. 90%以上	148名
2.89% ~ 70%	72名
3.69% ~ 50%	39名
4.49% ~ 30%	6名
5. 29%以下	1名
未 未記入	0名



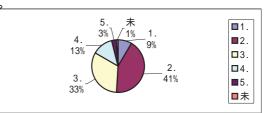
1.非常によく勉強した	9名
2.よく勉強した	32名
3.多少はした	76名
4. ほとんどしなかった	93名
5. まったくしなかった	55名
未 未記入	1名



分野	
総合科目	

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	539	266	49.4%

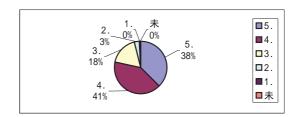
1. 非常に意欲的	23名
2. ある程度意欲的	112名
3. どちらともいえない	87名
4. あまり意欲的でない	34名
5.まった〈意欲的でない	7名
未 未記入	3名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

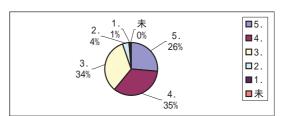
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	100名
4. ややそう思う	108名
3. どちらともいえない	48名
2.あまりそう思わない	8名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	1名

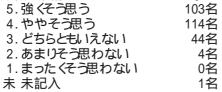


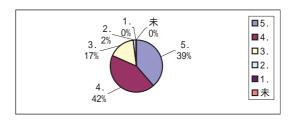
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	70名
4. ややそう思う	92名
3. どちらともいえない	90名
2.あまりそう思わない	10名
1.まった〈そう思わない	3名
未 未記入	1名



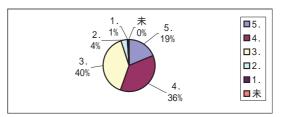
## (9)授業の準備がしっかりなされていた。





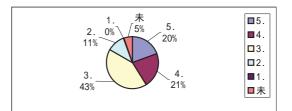
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	50名
4. ややそう思う	97名
3. どちらともいえない	106名
2.あまりそう思わない	10名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	1名



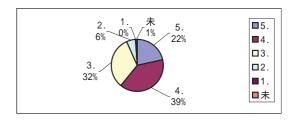
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	52名
4. ややそう思う	57名
3. どちらともいえない	113名
2. あまりそう思わない	29名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	14名



#### (12) 教科書 参考書・資料などは適切であった。

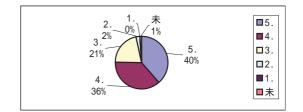
5.強くそう思う	58名
4. ややそう思う	104名
3. どちらともいえない	86名
2. あまりそう思わない	15名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	2名



分野	科目
総合科目	

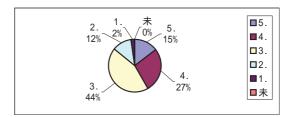
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	_	539	266	49.4%

5.強くそう思う	103名
4. ややそう思う	97名
3. どちらともいえない	57名
2. あまりそう思わない	6名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	3名



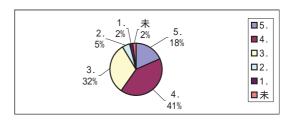
### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	39名
4. ややそう思う	72名
3. どちらともいえない	117名
2.あまりそう思わない	32名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	1名



### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

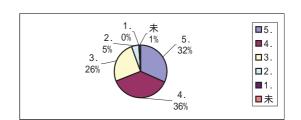
5.強くそう思う	49名
4. ややそう思う	110名
3. どちらともいえない	84名
2. あまりそう思わない	13名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	5名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

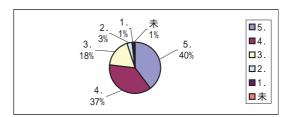
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	84名
4. ややそう思う	99名
3. どちらともいえない	68名
2. あまりそう思わない	12名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	2名

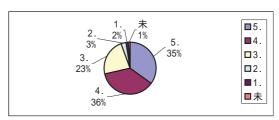


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

	100/2000 0
5.強くそう思う	106名
4. ややそう思う	99名
3. どちらともいえない	48名
2.あまりそう思わない	8名
1.まったくそう思わない	3名
未 未記入	2名



5.強くそう思う	93名
4. ややそう思う	97名
3. どちらともいえない	61名
2.あまりそう思わない	8名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	3名

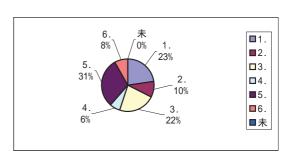


分野	科目
健康・運動科目	

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1178	871	73 9%

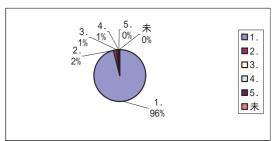
#### (1) 学部

) HL	
1.教育学部(学校教育)	198名
2.教育学部 (生涯教育)	86名
3.行政社会学部 (昼間)	195名
4.行政社会学部(夜間)	55名
5.経済学部 (昼間 )	268名
6.経済学部(夜間)	68名
未 未記入	1名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

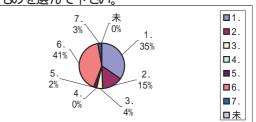
1. 1年	838名
2.2年	16名
3.3年	7名
4.4年	5名
5.5年以上	3名
未 未記入	2名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

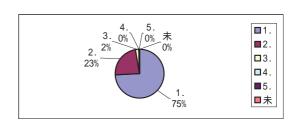
#### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから	303名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	128名
3.単位がとり易そうだったから	35名
4.受講し易い時間帯にあったから	2名
5.友人や先輩に勧められたから	18名
6. クラス指定又は必修だったから	361名
7. その他	22名
未 未記入	2名

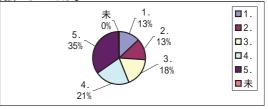


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Шир ОО ОГС13 о
1. 90%以上	646名
2.89% ~ 70%	200名
3.69% ~ 50%	19名
4.49% ~ 30%	3名
5. 29%以下	2名
未 未記入	1名



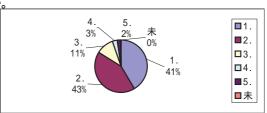
4名 4名
1夕
47
5名
6名
8名
4名



	科目
健康・運動科目	

	科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
Γ	_	-	-	1178	871	73.9%

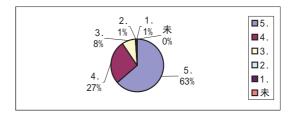
	<i>&gt;&gt; /</i> 10 / 10 / 10 / 10 / 10 / 10 / 10 / 10
1. 非常に意欲的	360名
2. ある程度意欲的	370名
3. どちらともいえない	95名
4. あまり意欲的でない	26名
5.まった〈意欲的でない	18名
未 未記入	2名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

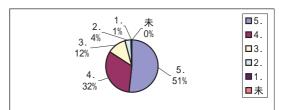
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	553名
4. ややそう思う	235名
3. どちらともいえない	73名
2.あまりそう思わない	5名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	0名

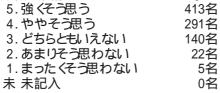


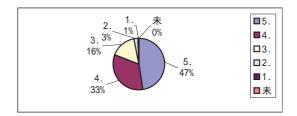
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強 <i>くそう</i> 思う	450名
4. ややそう思う	283名
3. どちらともいえない	101名
2.あまりそう思わない	31名
1.まったくそう思わない	6名
未 未記入	0名



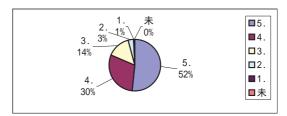
### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





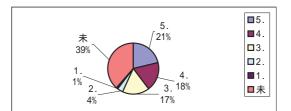
## (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	450名
4. ややそう思う	260名
3. どちらともいえない	124名
2.あまりそう思わない	29名
1.まった〈そう思わない	5名
未 未記入	3名



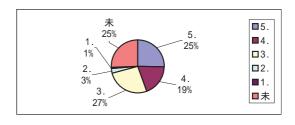
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	186名
4. ややそう思う	161名
3. どちらともいえない	146名
2.あまりそう思わない	31名
1.まった〈そう思わない	10名
未 未記入	337名



#### (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

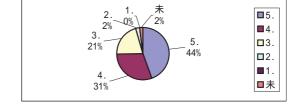
5.強くそう思う	219名
4. ややそう思う	169名
3. どちらともいえない	230名
2. あまりそう思わない	22名
1.まったくそう思わない	9名
未 未記入	222名



	科目
健康・運動科目	

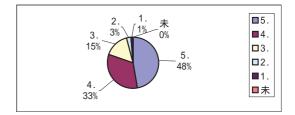
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	1178	871	73.9%

5.強くそう思う	386名
4. ややそう思う	266名
3. どちらともいえない	181名
2. あまりそう思わない	20名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	16名



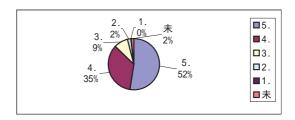
### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	412名
4. ややそう思う	287名
3. どちらともいえない	135名
2.あまりそう思わない	26名
1.まったくそう思わない	11名
未 未記入	0名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

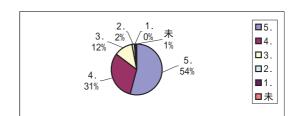
458名
302名
76名
17名
4名
14名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

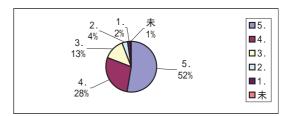
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	472名
4. ややそう思う	271名
3. どちらともいえない	102名
2.あまりそう思わない	15名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	7名

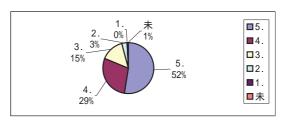


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	457名
4. ややそう思う	247名
3. どちらともいえない	116名
2. あまりそう思わない	31名
1.まった〈そう思わない	14名
未 未記入	6名



文冊日数は色のでのうに。	
5.強くそう思う	458名
4. ややそう思う	249名
3. どちらともいえない	127名
2. あまりそう思わない	29名
1.まった〈そう思わない	3名
未 未記入	5名

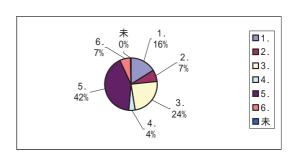


分野 科目	<b>革語</b>	
<b>/ \#</b>		. Λ≯ <del>H</del>

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	3145	2274	72.3%

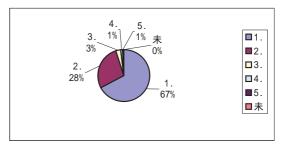
#### (1) 学部

1 Hr	
1.教育学部(学校教育)	365名
2.教育学部 (生涯教育)	163名
3.行政社会学部 (昼間)	551名
4.行政社会学部(夜間)	87名
5.経済学部 (昼間 )	949名
6.経済学部 (夜間 )	155名
未 未記入	4名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

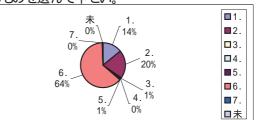
1. 1年	1527名
2.2年	631名
3.3年	69名
4.4年	27名
5.5年以上	14名
未 未記入	6名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

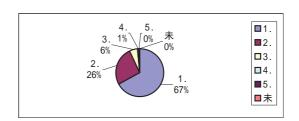
## (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

こつしてこの技業を選んだのですか。もつとも	ヨ いみま
1.勉学面で関心があったから	325名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	462名
3.単位がとり易そうだったから	17名
4.受講し易い時間帯にあったから	8名
5. 友人や先輩に勧められたから	16名
6. クラス指定又は必修だったから	1432名
7. その他	8名
未 未記入	6名

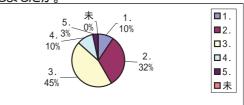


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	.Щпр Обо Огель о
1. 90%以上	1525名
2.89%~70%	590名
3.69% ~ 50%	130名
4.49% ~ 30%	15名
5. 29%以下	4名
未 未記入	10名



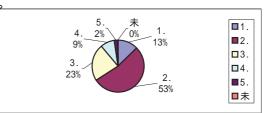
1
1
i
,
,
1



分野	科目
英語	

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	_	3145	2274	72.3%

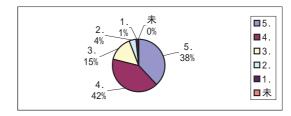
-071X <del></del>	
1.非常に意欲的	290名
2. ある程度意欲的	1205名
3. どちらともいえない	527名
4. あまり意欲的でない	201名
5.まった〈意欲的でない	45名
未 未記入	6名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

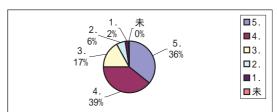
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	867名
4. ややそう思う	928名
3. どちらともいえない	344名
2. あまりそう思わない	100名
1.まったくそう思わない	31名
未 未記入	4名

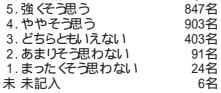


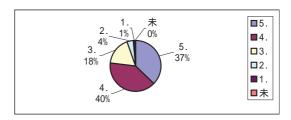
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	815名
4. ややそう思う	891名
3. どちらともいえない	383名
2.あまりそう思わない	128名
1.まったくそう思わない	53名
未 未記入	4名



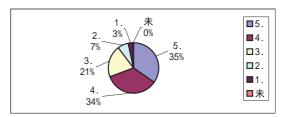
### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





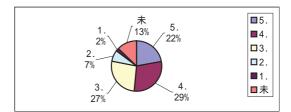
## (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	789名
4. ややそう思う	781名
3. どちらともいえない	470名
2.あまりそう思わない	156名
1.まった〈そう思わない	73名
未 未記入	5名



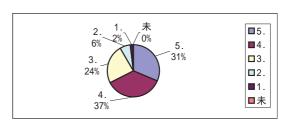
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	505名
4. ややそう思う	662名
3. どちらともいえない	610名
2.あまりそう思わない	162名
1.まったくそう思わない	45名
未 未記入	290名
未 未記入	2902



#### (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

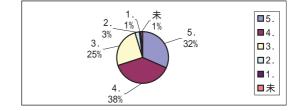
X11D 2 3D 311 0 C.	_ //3
5.強くそう思う	713名
4. ややそう思う	820名
3. どちらともいえない	549名
2. あまりそう思わない	147名
1.まった〈そう思わない	39名
未 未記入	6名



刀到'	<b>17</b> 🗖
公邸	彩田

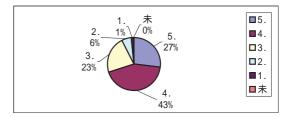
科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	_	3145	2274	72.3%

5.強くそう思う	719名
4. ややそう思う	873名
3. どちらともいえない	575名
2.あまりそう思わない	60名
1.まったくそう思わない	24名
未 未記入	23名



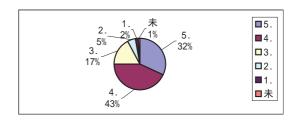
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	610名
4. ややそう思う	984名
3. どちらともいえない	512名
2. あまりそう思わない	133名
1.まったくそう思わない	31名
未 未記入	4名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

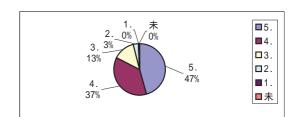
5.強くそう思う	725名
4. ややそう思う	981名
3. どちらともいえない	394名
2.あまりそう思わない	108名
1.まった <i>く</i> そう思わない	39名
未 未記入	27名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

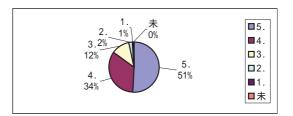
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	1036名
4. ややそう思う	843名
3. どちらともいえない	305名
2.あまりそう思わない	73名
1.まったくそう思わない	8名
未 未記入	9名

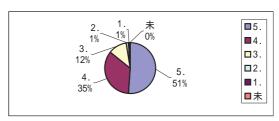


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

スポップップノーローは問う	
5.強くそう思う	1157名
4. ややそう思う	779名
3. どちらともいえない	262名
2.あまりそう思わない	50名
1.まったくそう思わない	17名
未 未記入	9名



5.強くそう思う	1165名
4. ややそう思う	787名
3. どちらともいえない	264名
2.あまりそう思わない	32名
1.まった〈そう思わない	16名
未 未記入	10名

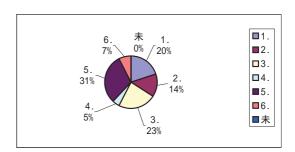


分野	科目
非英外国語	ドイツ語

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	892	746	83.6%

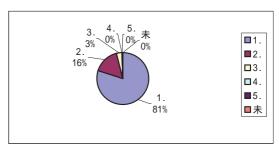
#### (1) 学部

2 Hr	
1.教育学部(学校教育)	150名
2.教育学部 (生涯教育)	105名
3.行政社会学部 (昼間)	173名
4. 行政社会学部 (夜間)	35名
5.経済学部 (昼間)	228名
6. 経済学部 (夜間)	54名
未 未記入	1名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

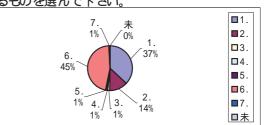
1. 1年	596名
2.2年	122名
3.3年	23名
4.4年	2名
5.5年以上	2名
未 未記入	1名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

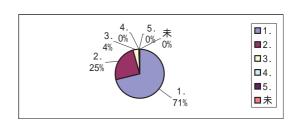
## (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

とつしてこの授業を選んたのですか。 もっとも言	<b>きなり</b> き
1. 勉学面で関心があったから	275名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	101名
3.単位がとり易そうだったから	9名
4.受講し易い時間帯にあったから	4名
5.友人や先輩に勧められたから	7名
6. クラス指定又は必修だったから	344名
7. その他	5名
未 未記入	1名

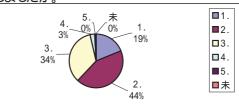


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	J C/C/J 0
1. 90%以上	530名
2.89% ~ 70%	183名
3.69% ~ 50%	28名
4.49% ~ 30%	3名
5. 29%以下	1名
未 未記入	1名



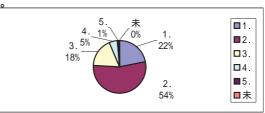
又未时  切り/バにこり/ブス未にほ	OCHU,
1.非常によく勉強した	141名
2.よ√勉強した	322名
3.多少はした	257名
4. ほとんどしなかった	20名
5.まったくしなかった	3名
未 未記入	3名



分野	科目
非英外国語	ドイツ語

I	科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	_	892	746	83.6%

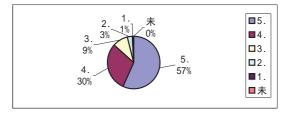
-071X <del>X</del> 1C1C0 · 7 007.01C07	
1.非常に意欲的	163名
2. ある程度意欲的	403名
3. どちらともいえない	132名
4. あまり意欲的でない	38名
5.まった <i>〈</i> 意欲的でない	8名
未 未記入	2名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

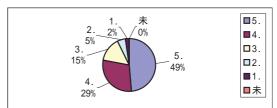
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	423名
4.ややそう思う	224名
3.どちらともいえない	69名
2.あまりそう思わない	23名
1.まったくそう思わない	6名
未未記入	1名



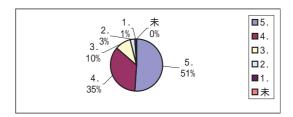
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	363名
4. ややそう思う	220名
3. どちらともいえない	109名
2.あまりそう思わない	38名
1.まったくそう思わない	15名
未 未記入	1名



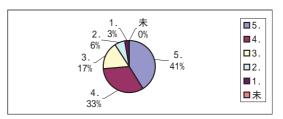
(9)授業の準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	382名
4. ややそう思う	262名
3. どちらともいえない	73名
2. あまりそう思わない	21名
1.まったくそう思わない	7名
未 未記入	1名



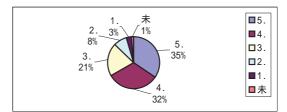
(10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	306名
4. ややそう思う	243名
3. どちらともいえない	129名
2.あまりそう思わない	47名
1.まったくそう思わない	20名
未 未記入	1名



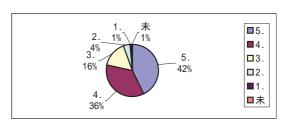
(11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

257名
240名
153名
63名
22名
11名



(12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

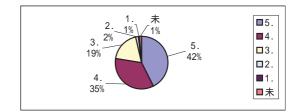
5.強くそう思う	320名
4. ややそう思う	265名
3. どちらともいえない	119名
2.あまりそう思わない	31名
1. まったくそう思わない	7名
未 未記入	4名



1 分野 1 科月

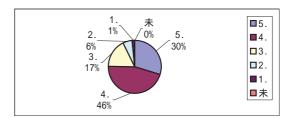
I	科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	_	892	746	83.6%

	10700
5.強くそう思う	317名
4.ややそう思う	261名
3. どちらともいえない	141名
2.あまりそう思わない	12名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	10名



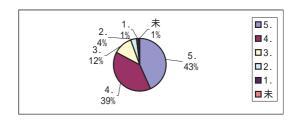
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	221名
4. ややそう思う	341名
3. どちらともいえない	130名
2.あまりそう思わない	42名
1.まったくそう思わない	11名
未 未記入	1名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

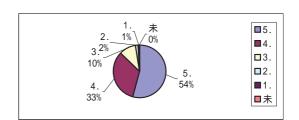
5.強くそう思う	324名
4. ややそう思う	294名
3. どちらともいえない	87名
2. あまりそう思わない	27名
1.まったくそう思わない	9名
未 未記入	5名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

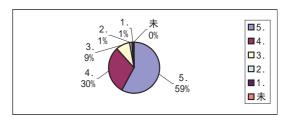
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	405名
4. ややそう思う	245名
3. どちらともいえない	78名
2.あまりそう思わない	12名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	2名

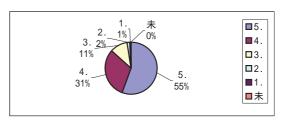


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	432名
4. ややそう思う	226名
3. どちらともいえない	68名
2.あまりそう思わない	10名
1.まったくそう思わない	8名
未 未記入	2名



5.強くそう思う	415名
4. ややそう思う	232名
3. どちらともいえない	81名
2.あまりそう思わない	12名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	2名

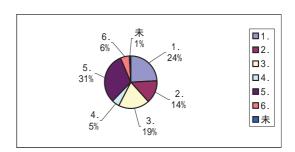


北井が国語	フニンフ钰
「フフ [*] 半ブ	科目
ノトロマ	47 🗆

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	564	430	76 2%

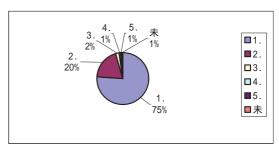
#### (1) 学部

구마	
1.教育学部 (学校教育)	104名
2.教育学部 (生涯教育)	61名
3.行政社会学部 (昼間)	82名
4.行政社会学部(夜間)	20名
5.経済学部 (昼間 )	136名
6.経済学部 (夜間 )	24名
未 未記入	3名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

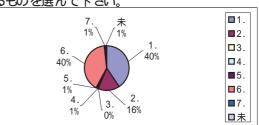
1. 1年	327名
2.2年	84名
3.3年	10名
4. 4年	3名
5.5年以上	3名
未 未記入	3名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

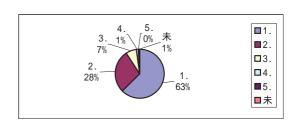
## (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

こうしてこの技業で送がたのですが。こうこと	1 (100
1. 勉学面で関心があったから	174名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	67名
3.単位がとり易そうだったから	2名
4.受講し易い時間帯にあったから	3名
5.友人や先輩に勧められたから	3名
6. クラス指定又は必修だったから	174名
7. その他	3名
未 未記入	4名

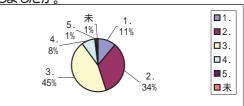


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	1111 000 01013 0
1. 90%以上	269名
2.89% ~ 70%	121名
3.69% ~ 50%	30名
4.49% ~ 30%	6名
5. 29%以下	1名
未 未記入	3名



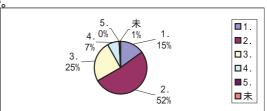
i
1
1
1
,
1



(1) (1) (1) (1)	科目
I 非央外国語 I	ノフン人語

科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	564	430	76 2%

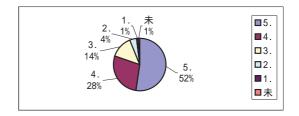
1. 非常に意欲的	64名
2. ある程度意欲的	223名
3. どちらともいえない	108名
4. あまり意欲的でない	31名
5.まった〈意欲的でない	1名
未 未記入	3名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

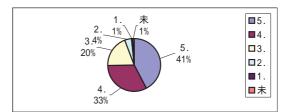
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	224名
4. ややそう思う	121名
3. どちらともいえない	59名
2. あまりそう思わない	18名
1. まったくそう思わない	5名
未 未記入	3名

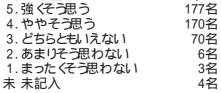


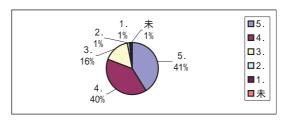
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	181名
4. ややそう思う	140名
3. どちらともいえない	84名
2.あまりそう思わない	18名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	3名



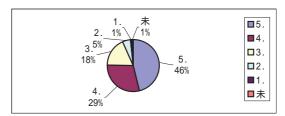
## (9)授業の準備がしっかりなされていた。





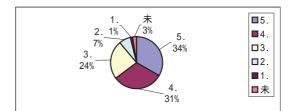
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	198名
4. ややそう思う	126名
3. どちらともいえない	77名
2.あまりそう思わない	22名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	3名



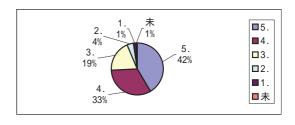
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	143名
4. ややそう思う	135名
3. どちらともいえない	104名
2. あまりそう思わない	31名
1.まったくそう思わない	6名
未 未記入	11名



#### (12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

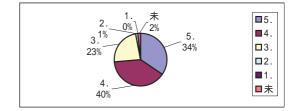
5.強くそう思う	178名
4. ややそう思う	141名
3. どちらともいえない	83名
2. あまりそう思わない	19名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	4名



非茁外国語	フランス語
分野	科日

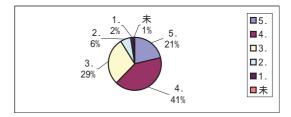
I	科目名	アンケートコート゛	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	_	564	430	76.2%

5.強くそう思う	148名
4. ややそう思う	169名
3. どちらともいえない	100名
2.あまりそう思わない	6名
1.まった〈そう思わない	0名
未 未記入	7名



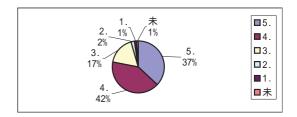
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	92名
4. ややそう思う	175名
3. どちらともいえない	125名
2.あまりそう思わない	27名
1.まったくそう思わない	8名
未 未記入	3名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

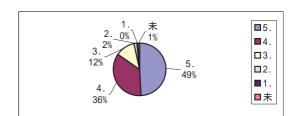
5.強くそう思う	159名
4. ややそ <b>う</b> 思う	177名
3. どちらともいえない	75名
2.あまりそう思わない	10名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	5名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

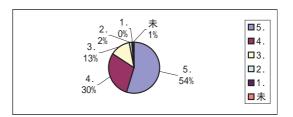
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	211名
4. ややそう思う	153名
3. どちらともいえない	52名
2. あまりそう思わない	7名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	5名

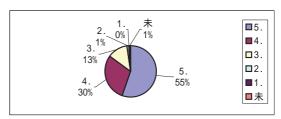


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

D EN WILL I D D / CO M - CO - C C I M - C C I	
5.強くそう思う	235名
4. ややそう思う	127名
3. どちらともいえない	55名
2.あまりそう思わない	7名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	4名



5.強くそう思う	238名
4. ややそう思う	128名
3. どちらともいえない	55名
2.あまりそう思わない	4名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	4名

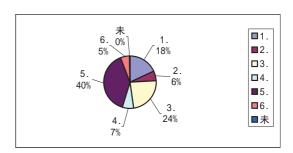


分野	科目
非英外国語	中国語

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	955	746	78.1%

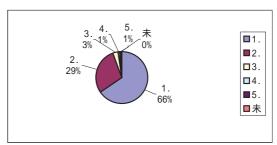
#### (1) 学部

1 HL	
1.教育学部 (学校教育)	135名
2.教育学部 (生涯教育)	46名
3.行政社会学部(昼間)	176名
4. 行政社会学部 (夜間)	52名
5.経済学部 (昼間)	294名
6. 経済学部 (夜間)	41名
未 未記入	2名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

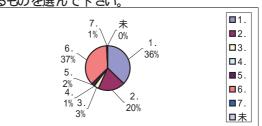
1.1年	490名
2.2年	215名
3.3年	24名
4.4年	7名
5.5年以上	7名
未 未記入	3名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

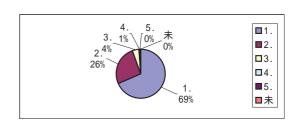
## (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

_ プレしこの技未で医ルルのしゅか。 もっこし=	さんしつ ド
1. 勉学面で関心があったから	277名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	146名
3.単位がとり易そうだったから	24名
4.受講し易い時間帯にあったから	4名
5. 友人や先輩に勧められたから	15名
6. クラス指定又は必修だったから	273名
7. その他	4名
未 未記入	3名

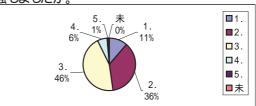


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Шир ООС ОГСТЭ о
1.90%以上	510名
2.89% ~ 70%	195名
3.69% ~ 50%	33名
4.49% ~ 30%	4名
5. 29%以下	1名
未 未記入	3名



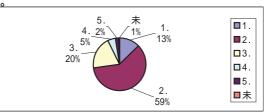
又未时  り外川  にこり  又未にほ	
1.非常によ√勉強した	85名
2.よく勉強した	272名
3.多少はした	335名
4. ほとんどしなかった	44名
5.まったくしなかった	8名
未 未記入	2名



가 보시 중 보	分野	科目
----------	----	----

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	955	746	78.1%

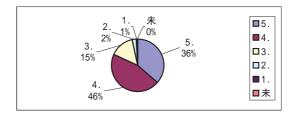
-071X <del>X</del> 1C1C0 · 7 G07.G1C07	
1.非常に意欲的	96名
2. ある程度意欲的	447名
3. どちらともいえない	149名
4. あまり意欲的でない	35名
5.まった <i>く</i> 意欲的でない	15名
未 未記入	4名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

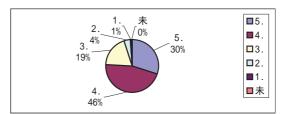
#### (7)授業への熱意が感じられた。

4. ややそう思う 3. どちらともいえない 1 ² 2. あまりそう思わない 1. まったくそう思わない 未 未記入
------------------------------------------------------------------------



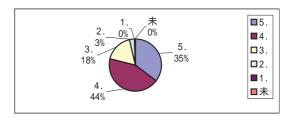
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	223名
4. ややそう思う	343名
3. どちらともいえない	143名
2.あまりそう思わない	28名
1.まったくそう思わない	7名
未 未記入	2名



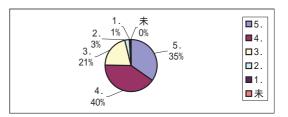
#### (9)授業の準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	263名
4. ややそう思う	325名
3. どちらともいえない	132名
2. あまりそう思わない	21名
1.まったくそう思わない	3名
未 未記入	2名



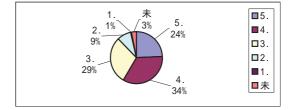
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	260名
4. ややそう思う	301名
3. どちらともいえない	157名
2.あまりそう思わない	19名
1.まったくそう思わない	7名
未 未記入	2名



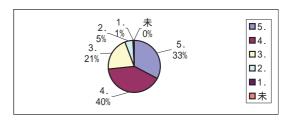
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	182名
4. ややそう思う	254名
3. どちらともいえない	219名
2. あまりそう思わない	64名
1.まった〈そう思わない	5名
未 未記入	22名



#### (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

5.強くそう思う	244名
4. ややそう思う	303名
3. どちらともいえない	155名
2.あまりそう思わない	37名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	2名



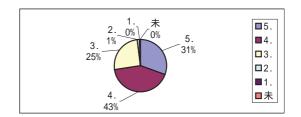
77197	科目
非英外国語	中国語

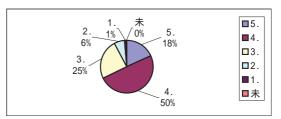
I	科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	-	955	746	78.1%

5.強くそう思う	227名
4. ややそう思う	314名
3. どちらともいえない	190名
2. あまりそう思わない	11名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	3名

# (14) 授業の内容はよく理解できた。

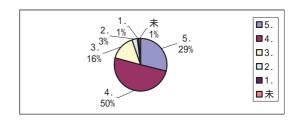
5.強くそう思う	137名
4. ややそう思う	368名
3. どちらともいえない	184名
2. あまりそう思わない	46名
1.まった〈そう思わない	9名
未 未記入	2名





#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

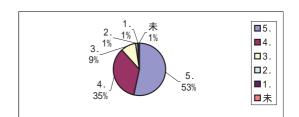
5.強くそう思う	215名
4. ややそう思う	375名
3. どちらともいえない	117名
2.あまりそう思わない	24名
1.まった <i>く</i> そう思わない	6名
未 未記入	9名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

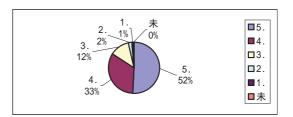
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	397名
4. ややそう思う	262名
3. どちらともいえない	70名
2.あまりそう思わない	9名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	4名

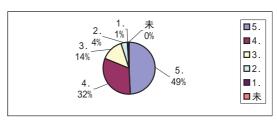


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

	-/3 (0) -
5.強くそう思う	380名
4. ややそう思う	247名
3. どちらともいえない	93名
2. あまりそう思わない	16名
1.まったくそう思わない	7名
未 未記入	3名



5.強くそう思う	366名
4. ややそう思う	239名
3. どちらともいえない	103名
2.あまりそう思わない	30名
1.まった〈そう思わない	5名
未 未記入	3名

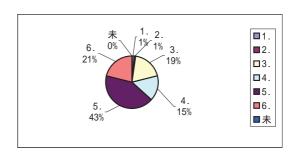


力對 非某人民等	
∠⋋⊞玄	7

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	174	142	81.6%

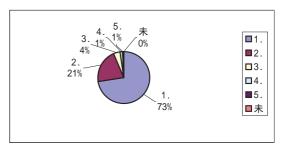
#### (1) 学部

2 Hr	
1.教育学部(学校教育)	2名
2.教育学部 (生涯教育)	1名
3.行政社会学部 (昼間)	27名
4. 行政社会学部 (夜間)	22名
5.経済学部 (昼間)	60名
6. 経済学部 (夜間)	30名
未 未記入	0名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

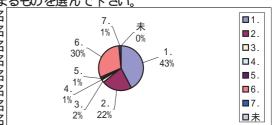
1. 1年	103名
2.2年	30名
3.3年	6名
4. 4年	2名
5.5年以上	1名
未 未記入	0名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

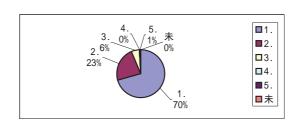
### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

	- 10-0
1. 勉学面で関心があったから	60名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランス から	31名
3.単位がとり易そうだったから	3名
4.受講し易い時間帯にあったから	1名
5.友人や先輩に勧められたから	2名
6. クラス指定又は必修だったから	43名
7. その他	2名
未 未記入	0名

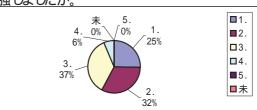


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Шир Оос ОтСтэ о
1. 90%以上	100名
2.89% ~ 70%	33名
3.69% ~ 50%	8名
4.49% ~ 30%	0名
5. 29%以下	1名
未 未記入	0名



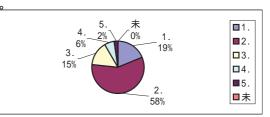
1. 非常によく勉強した	36名
2.よく勉強した	46名
3.多少はした	51名
4.ほとんどしなかった	9名
5.まったくしなかった	0名
未 未記入	0名



<b>(1) (1)</b> (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	科目
非血机制造	ロジノフノミキ

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	_	174	142	81.6%

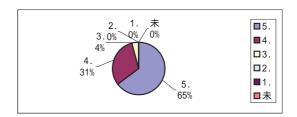
1. 非常に意欲的 2	7名
1. 非市に总部の 2	
2. ある程度意欲的 8	2名
3. どちらともいえない 2	1名
4. あまり意欲的でない	9名
5.まった〈意欲的でない	3名
未 未記入	0名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

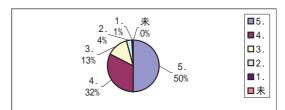
### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	92名
4. ややそう思う	44名
3. どちらともいえない	6名
2.あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名

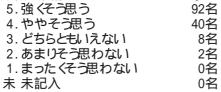


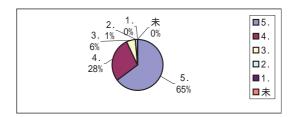
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	71名
4. ややそう思う	46名
3. どちらともいえない	19名
2.あまりそう思わない	5名
1.まった <i>く</i> そう思わない	1名
未 未記入	0名



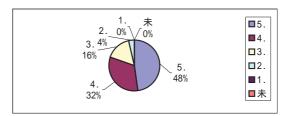
### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





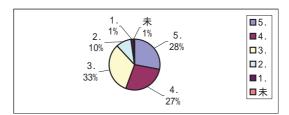
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	68名
4. ややそう思う	46名
3. どちらともいえない	23名
2.あまりそう思わない	5名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



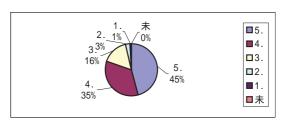
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	40名
4.ややそう思う	39名
3. どちらともいえない	46名
2.あまりそう思わない	14名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	1名



### (12) 教科書 参考書・資料などは適切であった。

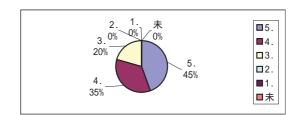
5.強くそう思う	65名
4. ややそう思う	49名
3. どちらともいえない	23名
2. あまりそう思わない	4名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



	科目
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	ロンア語

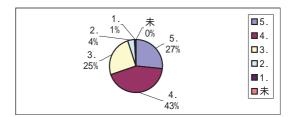
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	_	_	174	142	81.6%

5.強くそう思う	63名
4. ややそう思う	50名
3. どちらともいえない	29名
2. あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



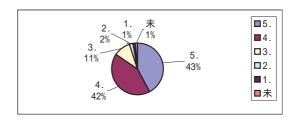
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	38名
4. ややそう思う	61名
3. どちらともいえない	36名
2. あまりそう思わない	6名
1.まった〈そう思わない	1名
未 未記入	0名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

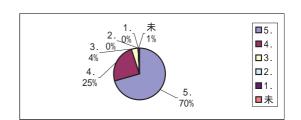
5.強くそう思う	60名
4. ややそう思う	60名
3. どちらともいえない	15名
2.あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	2名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

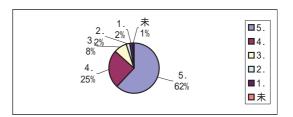
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	100名
4. ややそう思う	35名
3. どちらともいえない	6名
2.あまりそう思わない	0名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	1名

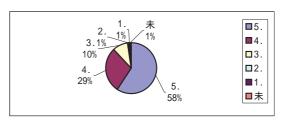


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	88名
4. ややそう思う	35名
3. どちらともいえない	12名
2.あまりそう思わない	3名
1.まった〈そう思わない	3名
未 未記入	1名



5.強くそう思う	84名
4. ややそう思う	41名
3. どちらともいえない	14名
2.あまりそう思わない	1名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	1名

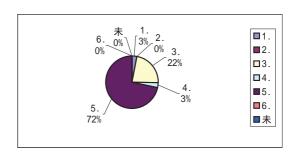


非英外国語	スペイン語
<b>ケプ</b> 型が	科目

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	139	99	71 2%

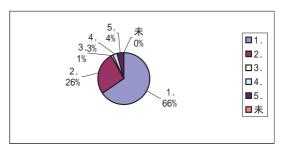
#### (1) 学部

1 Hr	
1.教育学部 (学校教育)	3名
2.教育学部 (生涯教育)	0名
3. 行政社会学部 (昼間)	22名
4. 行政社会学部 (夜間)	3名
5.経済学部 昼間)	71名
6. 経済学部 (夜間)	0名
未 未記入	0名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

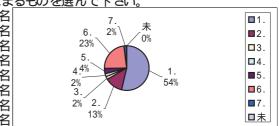
1. 1年	65名
2.2年	26名
3.3年	1名
4.4年	3名
5.5年以上	4名
未 未記入	0名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

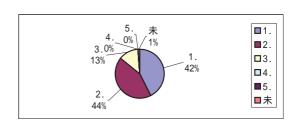
## (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

こつしてこの技業を選んにのですか。もつとも主	$C \mathcal{A}^2$
1. 勉学面で関心があったから	53名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	13名
3.単位がとり易そうだったから	2名
4.受講し易い時間帯にあったから	2名
5. 友人や先輩に勧められたから	4名
6. クラス指定又は必修だったから	23名
7. その他	2名
未 未記入	0名

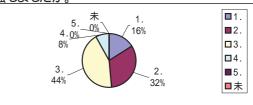


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	_/3 0
1. 90%以上	42名
2.89% ~ 70%	43名
3.69% ~ 50%	13名
4.49% ~ 30%	0名
5. 29%以下	0名
未 未記入	1名



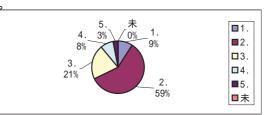
文米時間のハーにこの  文米には して	ロハ、
1. 非常によく勉強した	16名
2.よく勉強した	32名
3.多少はした	43名
4. ほとんどしなかった	8名
5.まったくしなかった	0名
未 未記入	0名



分野	科目
11. 英外国語	人ペイン語

科目名	アンケートコート	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	139	99	71 2%

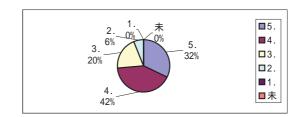
この技術にだいてものがはにのを加	APV HV IC
1.非常に意欲的	9名
2. ある程度意欲的	58名
3. どちらともいえない	21名
4.あまり意欲的でない	8名
5.まった√意欲的でない	3名
未 未記入	0名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

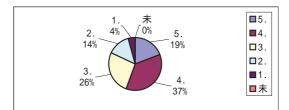
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	32名
4. ややそう思う	41名
3. どちらともいえない	20名
2.あまりそう思わない	6名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名

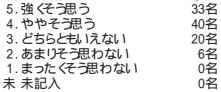


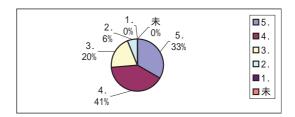
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	19名
4. ややそう思う	36名
3. どちらともいえない	26名
2.あまりそう思わない	14名
1.まったくそう思わない	4名
未 未記入	0名



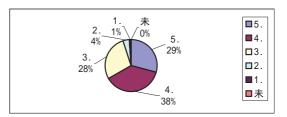
### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





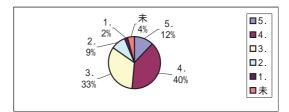
## (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	29名
4. ややそう思う	37名
3. どちらともいえない	28名
2.あまりそう思わない	4名
1.まったくそう思わない	1名
未 未記入	0名



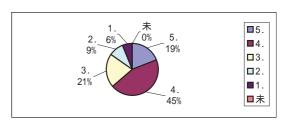
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	12名
4. ややそう思う	39名
3. どちらともいえない	33名
2.あまりそう思わない	9名
1.まった <i>く</i> そう思わない	2名
未 未記入	4名



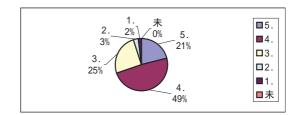
#### (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

5.強くそう思う	19名
4. ややそう思う	44名
3. どちらともいえない	21名
2.あまりそう思わない	9名
1.まったくそう思わない	6名
未 未記入	0名



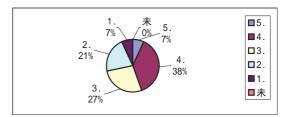
I	科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
	-	-	-	139	99	71 2%

	1 47 -0
5.強くそう思う	21名
4. ややそう思う	48名
3. どちらともいえない	25名
2. あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	2名
未 未記入	0名



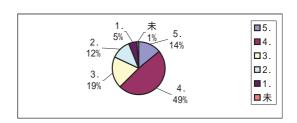
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	7名
4. ややそう思う	37名
3. どちらともいえない	27名
2.あまりそう思わない	21名
1.まったくそう思わない	7名
未 未記入	0名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

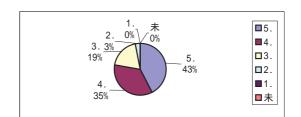
5.強くそう思う	14名
4. ややそう思う	48名
3. どちらともいえない	19名
2.あまりそう思わない	12名
1.まったくそう思わない	5名
未 未記入	1名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

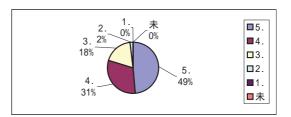
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	42名
4. ややそう思う	35名
3. どちらともいえない	19名
2. あまりそう思わない	3名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名

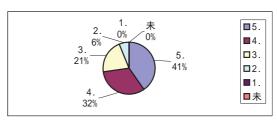


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	48名
4. ややそう思う	31名
3. どちらともいえない	18名
2. あまりそう思わない	2名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



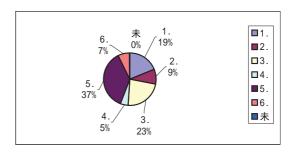
5.強くそう思う	40名
4. ややそう思う	32名
3. どちらともいえない	21名
2. あまりそう思わない	6名
1.まったくそう思わない	0名
未 未記入	0名



科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共通教育科目総合計	-	-	12156	7530	61 9%

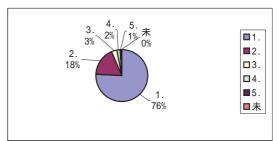
#### (1) 学部

) Hr.	
1.教育学部 (学校教育)	1423名
2.教育学部 (生涯教育)	681名
3. 行政社会学部 (昼間 )	1744名
4.行政社会学部(夜間)	353名
5.経済学部 (昼間)	2775名
6.経済学部 (夜間)	539名
未 未記入	15名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

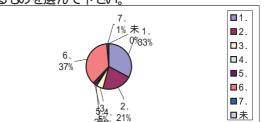
5705名
1353名
250名
138名
66名
18名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

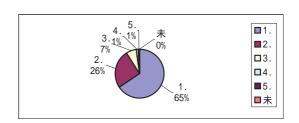
(3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

こうしてこの対象来で送んだいとうとうが。いうこの	
1. 勉学面で関心があったから	2466名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	1609名
3.単位がとり易そうだったから	363名
4.受講し易い時間帯にあったから	84名
5. 友人や先輩に勧められたから	151名
6. クラス指定又は必修だったから	2762名
7. その他	75名
未 未記入	20名

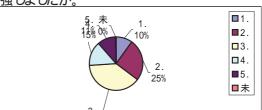


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Щ л р оок от ста о
1. 90%以上	4942名
2.89%~70%	1927名
3.69% ~ 50%	504名
4.49% ~ 30%	89名
5. 29%以下	48名
未 未記入	20名



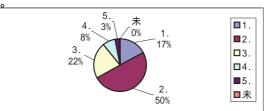
1. 非常によ√勉強した	747名
2.よく勉強した	1912名
3. 多少はした	2913名
4. ほとんどしなかった	1103名
5. まったくしなかった	829名
未 未記入	26名



	科目 + 活勃
総合計	<b>土</b> 诵教

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共通教育科目総合計	-	-	12156	7530	61.9%

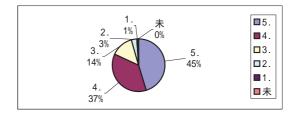
-071X <del>X</del> 1C1C0 · 7 007.01C07	
1. 非常に意欲的	1300名
2. ある程度意欲的	3743名
3. どちらともいえない	1662名
4. あまり意欲的でない	599名
5.まった〈意欲的でない	202名
未 未記入	24名



## .この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

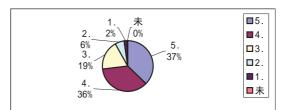
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	3401名
4. ややそう思う	2761名
3. どちらともいえない	1031名
2.あまりそう思わない	245名
1.まったくそう思わない	80名
未 未記入	12名



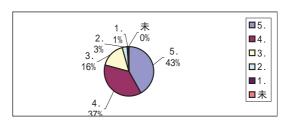
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	2798名
4. ややそう思う	2709名
3. どちらともいえない	1419名
2.あまりそう思わない	435名
1.まったくそう思わない	156名
未 未記入	13名



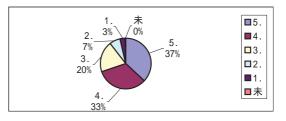
#### (9)授業の準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	3168名
4. ややそう思う	2800名
3. どちらともいえない	1219名
2.あまりそう思わない	255名
1.まった〈そう思わない	73名
未 未記入	15名



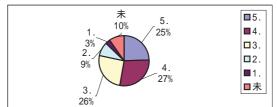
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	2780名
4. ややそう思う	2470名
3. どちらともいえない	1489名
2.あまりそう思わない	512名
1.まったくそう思わない	263名
未 未記入	16名



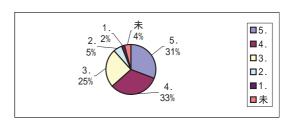
### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

1849名
2119名
1922名
675名
229名
736名



#### (12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

5.強くそう思う	2322名
4. ややそう思う	2439名
3. どちらともいえない	1895名
2. あまりそう思わない	414名
1.まったくそう思わない	152名
未 未記入	308名



分野	科目
総合計	共调教台科月総合計

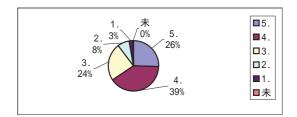
科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共诵教育科日総合計	-	-	12156	7530	61.9%

5.強くそう思う	2637名
4. ややそう思う	2776名
3. どちらともいえない	1804名
2.あまりそう思わない	173名
1.まったくそう思わない	65名
未 未記入	75名

#### 

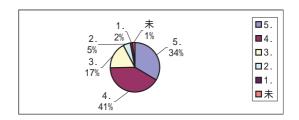
#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	1927名
4. ややそう思う	3002名
3. どちらともいえない	1827名
2. あまりそう思わない	565名
1.まったくそう思わない	196名
未 未記入	13名



#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

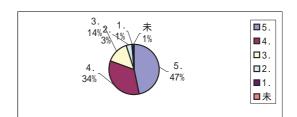
	3,42 001 0,6
5.強くそう思う	2524名
4. ややそう思う	3104名
3. どちらともいえない	1308名
2. あまりそう思わない	362名
1.まったくそう思わない	125名
未 未記入	107名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

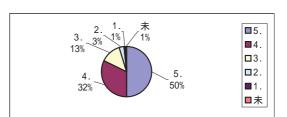
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	3508名
4. ややそう思う	2568名
3. どちらともいえない	1079名
2. あまりそう思わない	262名
1.まった〈そう思わない	69名
未 未記入	44名

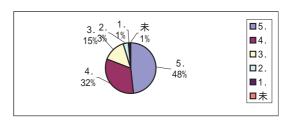


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

スポッツッパして「以間立」	
5.強くそう思う	3771名
4. ややそう思う	2427名
3. どちらともいえない	982名
2.あまりそう思わない	215名
1.まった〈そう思わない	94名
未 未記入	41名



5.強くそう思う	3634名
4. ややそう思う	2444名
3. どちらともいえない	1103名
2.あまりそう思わない	236名
1.まった〈そう思わない	71名
未 未記入	42名



기 되 [']	
	彩目

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
共通教育科目総合計	-	-	12156	7530	61.9%

## 【専門教育科目】

		i	•	
		i		
		i		
授業コード		ı	•	
		ı	•	
		i		

# 教育改善のための学生アンケート 平成16年1月実施

福島大学FDプロジェクト

- 該当する番号を に記入してください。
- 自由記載欄には思っていることを率直に述べてください。
- あなた自身についてお答え下さい。
- (1) 学部
  - 1. 教育学部(学校教育教員養成課程) 2. 教育学部(生涯教育課程)
  - 3. 行政社会学部(昼間主コース)
  - 5. 経済学部(昼間主コース)
- 4. 行政社会学部(夜間主コース)
- 6. 経済学部(夜間主コース)

(1)
-----

(2) 学年(入学してからの年数)

- 1. 1年
- 2.2年
- 3.3年
- 4.4年
- 5.5年以上

(2)		
-----	--	--

- .この授業についてのあなた自身の取り組みについておたずねします。
- (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んでください。
  - 1. 勉学面で関心があったから
- 2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから
- 3. 単位がとり易そうだったから
- 4. 受講し易い時間帯にあったから
- 5. 友人や先輩に勧められたから 6. クラス指定又は必修だったから



7. その他

- (4) この授業にどのくらい出席しましたか。
  - 1. 90%以上
- 2. 89~70%
- 3.69~50% 4.49~30% 5.29%以下

- (4)

)

- (5) 授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。
  - 1. 非常によく勉強した
- 2. よく勉強した
- 3. 多少はした
- (5)

- 4. ほとんどしなかった
- 5. まったくしなかった
- (6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。
  - 1. 非常に意欲的

- 2. ある程度意欲的
- 3. どちらともいえない
- (6)

- 4. あまり意欲的でない
- 5. まったく意欲的でない

## 【以下の各設問については,次の区分により評価をし、該当する評価ポイント(数字)を に記入してください。】

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない
ポイント	5	4	3	2	1

- . この授業及び担当教員に関して,次の項目について評価をし,評価ポイント5~1のいずれかの数字でお答え ください。(担当教員が複数の場合は総合的に判断してお答えください。)
  - (7) 授業への熱意が感じられた。
  - (8) 学生への対応は適切であった。
  - (9) 授業の準備がしっかりなされていた。
  - (10) 聞き取り易い話し方だった。
  - (11) 板書・OHPなどは見やすかった。(使用していない授業の場合は空欄にしてください。)
  - (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。
  - (13) シラバスに沿って授業が行われた。
  - (14) 授業の内容はよく理解できた。

- (7)
  - (8)
  - (9)
  - (10) (11)
  - (12)
  - (13) (14)
- 裏面につづく

評 価	強くそう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	まったくそう思わない	
ポイント	5	4	3	2	1	
(15) その他担当教員の授業方法について思ったことを自由に建いてください						

(15)	その他担当教員の授業方法について思ったことを自田に書いてください。	
		$\Box$
. 総合的	りにみてこの授業に満足しましたか。評価ポイント5~1のいずれかの数字でお答えください。	.
数容I	<b>環境について評価をし,評価ポイント5~1のいずれか数字でお答えください。</b>	
• 狄月》	表現に フィーCerimite ひ、計画がイントラー・00パッターのが数子での音えてたでい。	
(16)	授業の場では学習する雰囲気は保たれた。	(16)
(10)	1文条の物では子目する分型以ば体だ10元。	(10)
(17)	授業の場の大きさや設備等は適切であった。	(17)
` ,		
(40)	平	(40)
(18)	受講者数は適切であった。	(18)
(19)	その他教育環境について感じたことを自由に書いてください。	
( )	Color, Factor Carlotte Color,	
. その作	也この授業の感想を自由に書いてください。	

このアンケートは,本学の教育改善のため,学生のみなさんにご協力をいただいて実施するものです。 このアンケートの集計結果の取り扱いについては,次のとおりです。

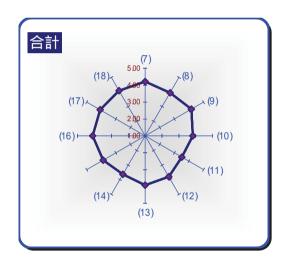
各科目ごとの集計結果は,それぞれの授業担当教官にフィードバックされます。 各科目ごとの集計結果を各学部ごとに再集計し,報告書等において公表することにしています。また, その内容は学生のみなさんにも掲示等でお知るせします。

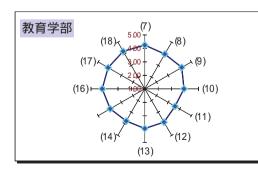
## 平成 16年 1月実施分 教育改善のための学生アンケート実施状況 (通年 後期 1専門教育科目)

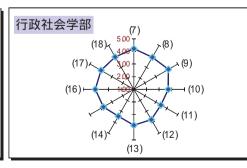
	学部毎の学生アンケート実施率	教育学部	行政社会学部	経済学部	合計
<i>II</i> +	学生アンケート対象科目数(a)	227	38	31	296
件数	学生アンケート実施科目数(b)	194	33	25	252
	学生アンケート実施率(b/a:%)	85 5%	86 8%	80.6%	85.1%
1	学生アンケート受講者数(c)	8,672	5,011	4,820	18,503
数	学生アンケー l回答者数(d)	5,549	2,262	1,981	9,792
	学生アンケー l回答率(d/c:%)	64 D%	45.1%	41.1%	52 9%

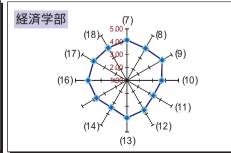
# 教育改善のための学生アンケー トにおける授業評価項目別 評価ポイント平均値 (学部毎)

	フレハ		O DAY PICK	4°%   1/3   1		
	番号	設 問	教育学部	行政社会学部	経済学部	合計
	(7)	授業への熱意が感 USれた	4 25	4 21	4.13	4 22
+177	(8)	学生への対応は適切であった	3 98	3 92	3.87	3 94
授 業 及	(9)	授業の準備がしっかりなされていた	4.17	4.15	4.16	4.16
び	(10)	聞き取り易い話し方だった	3.91	3.73	3.69	3.83
担当	(11)	板書 OHPなどは見やすかった	3.60	3.46	3 36	3 5 1
担当教官	(12)	教科書 参考書 資料などは適切であった	3.86	3.76	3.66	3.79
	(13)	シラバスに沿って授業が行われた	3.95	3.83	3 90	3 92
	(14)	授業の内容はよく理解できた	3.77	3.46	3.42	3 63
総合		総合的にみてこの授業に満足しましたか	3 96	3.77	3.72	3.87
教	(16)	授業の場では学習する雰囲気は保たれた	4.17	4.04	4.00	4.11
育環	(17)	授業の場の大きさや設備等は適切であった	4.14	4.00	3 98	4 08
境	(18)	受講者数は適切であった	4 21	3 95	3.91	4 09









評価ポイント 5強くそう思う 4ややそう思う 3どちらともいえない 2あまりそう思わない 1まったくそう思わない

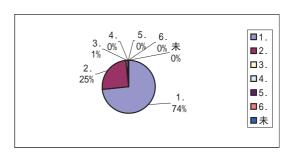
## 学部 教育学部

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	8672	5549	64 D%

### .あなた自身についてお答え下さい。

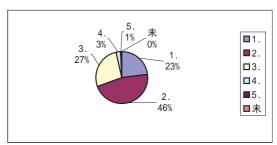
#### (1) 学部

1 HL	
1.教育学部 (学校教育)	4062名
2.教育学部 (生涯教育)	1402名
3. 行政社会学部 (昼間 )	50名
4. 行政社会学部 (夜間)	25名
5.経済学部 (昼間)	0名
6.経済学部 (夜間)	1名
未 未記入	9名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

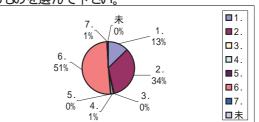
1.1年	1276名
2.2年	2571名
3.3年	1509名
4.4年	151名
5.5年以上	31名
未 未記入	11名



### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

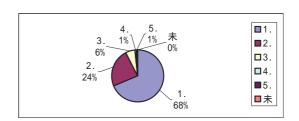
#### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから	709名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	1870名
3.単位がとり易そうだったから	24名
4.受講し易い時間帯にあったから	77名
5. 友人や先輩に勧められたから	18名
6. クラス指定又は必修だったから	2808名
7. その他	35名
未 未記入	8名

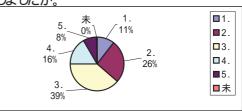


#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	от . Пир остолеть в
1. 90%以上	3800名
2.89% ~ 70%	1331名
3.69% ~ 50%	327名
4.49% ~ 30%	45名
5. 29%以下	30名
未 未記入	16名



1. 非常によ√勉強した	590名
2.よく勉強した	1429名
3.多少はした	2146名
4.ほとんどしなかった	915名
5.まったくしなかった	460名
未 未記入	9名

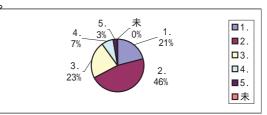


学部 教育学部

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	8672	5549	64 D%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

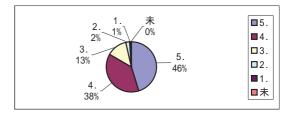
-V/1X <del>   </del>   C   C   V   Y   O   O   O   C   V	
1.非常に意欲的	1172名
2. ある程度意欲的	2560名
3. どちらともいえない	1262名
4. あまり意欲的でない	396名
5.まった〈意欲的でない	145名
未 未記入	14名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

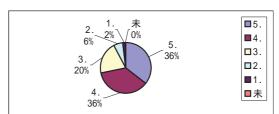
(7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	2513名
4. ややそう思う	2116名
3. どちらともいえない	720名
2.あまりそう思わない	132名
1.まったくそう思わない	57名
未 未記入	11名

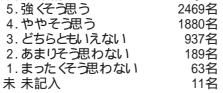


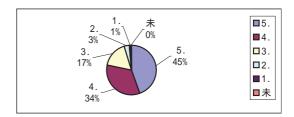
(8)学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	1980名
4. ややそう思う	2003名
3. どちらともいえない	1129名
2.あまりそう思わない	322名
1.まったくそう思わない	105名
未 未記入	10名



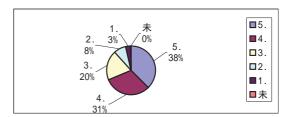
(9)授業の準備がしっかりなされていた。





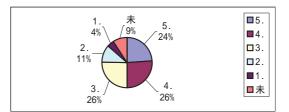
(10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	2079名
4. ややそう思う	1727名
3. どちらともいえない	1101名
2. あまりそう思わない	441名
1.まったくそう思わない	191名
未 未記入	10名



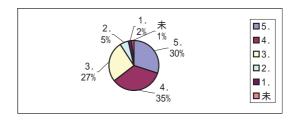
(11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	1325名
4. ややそう思う	1443名
3. どちらともいえない	1415名
2.あまりそう思わない	613名
1.まったくそう思わない	238名
未 未記入	515名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

5.強くそう思う	1666名
4. ややそう思う	1903名
3. どちらともいえない	1479名
2.あまりそう思わない	301名
1.まったくそう思わない	120名
未 未記入	80名

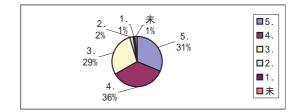


学部 教育学部

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	_	8672	5549	64.0%

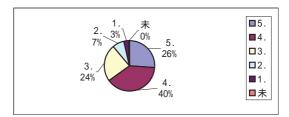
(13) シラバスに沿って授業が行われた。

5.強くそう思う	1747名
4. ややそう思う	1956名
3. どちらともいえない	1585名
2.あまりそう思わない	124名
1.まった〈そう思わない	56名
未 未記入	81名



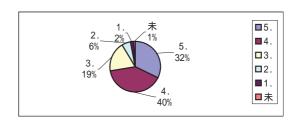
(14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	1446名
4. ややそう思う	2158名
3. どちらともいえない	1328名
2.あまりそう思わない	414名
1.まったくそう思わない	194名
未 未記入	9名



.総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

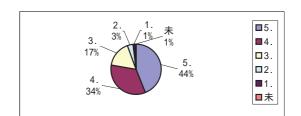
	3/AL 001 0/C
5.強くそう思う	1784名
4. ややそう思う	2217名
3. どちらともいえない	1068名
2.あまりそう思わない	313名
1.まったくそう思わない	99名
未 未記入	68名



.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

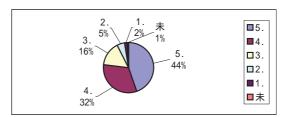
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	2436名
4. ややそう思う	1885名
3. どちらともいえない	921名
2.あまりそう思わない	194名
1.まったくそう思わない	63名
未 未記入	50名

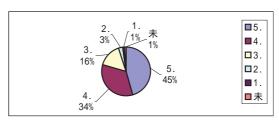


(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	2481名
4. ややそう思う	1787名
3. どちらともいえない	865名
2.あまりそう思わない	272名
1.まった〈そう思わない	94名
未 未記入	50名



5.強くそう思う	2535名
4. ややそう思う	1867名
3. どちらともいえない	871名
2.あまりそう思わない	160名
1.まった〈そう思わない	62名
未 未記入	54名



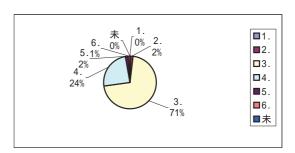
#### 学部 行政社会学部

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	5011	2262	45.1%

#### .あなた自身についてお答え下さい。

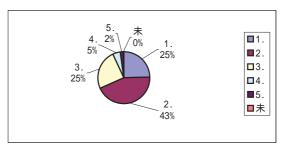
#### (1) 学部

1 HP	
1.教育学部 (学校教育)	5名
2.教育学部(生涯教育)	41名
3. 行政社会学部 (昼間)	1602名
4. 行政社会学部 (夜間)	551名
5. 経済学部 (昼間)	40名
6. 経済学部 (夜間 )	20名
未 未記入	3名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

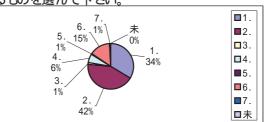
1. 1年	557名
2.2年	990名
3.3年	556名
4.4年	109名
5.5年以上	45名
未 未記入	5名



#### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

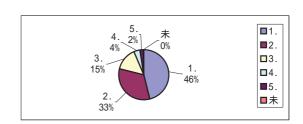
#### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

- プロしての対象来で透れたのですが。 ひつこじコ	C 100 0
1. 勉学面で関心があったから	760名
2. 卒業までに必要な取得単位のパランスから	970名
3.単位がとり易そうだったから	28名
4.受講し易い時間帯にあったから	140名
5. 友人や先輩に勧められたから	14名
6. クラス指定又は必修だったから	332名
7. その他	14名
未 未記入	4名



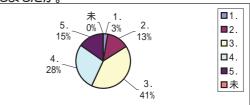
#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	. Щир оок отста о
1. 90%以上	1043名
2.89%~70%	743名
3.69% ~ 50%	329名
4.49% ~ 30%	93名
5. 29%以下	49名
未 未記入	5名



#### (5)授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

1. 非常によく勉強した	65名
2.よく勉強した	297名
3.多少はした	925名
4.ほとんどしなかった	632名
5.まったくしなかった	341名
未 未記入	2名

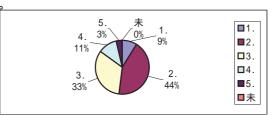


学部 行政社会学部

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	5011	2262	45.1%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

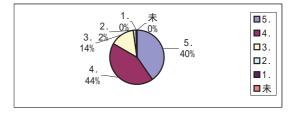
1.非常に意欲的	199名
2. ある程度意欲的	975名
3. どちらともいえない	746名
4. あまり意欲的でない	258名
5.まった〈意欲的でない	77名
未 未記入	7名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

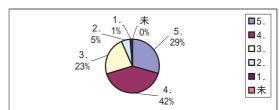
(7)授業への熱意が感じられた。

4. ややそう思う 973名	3
- 101 - 1 1 1 1 2 - 4 - 4 - 4 - 4	3
3. どちらともいえない 326名	3
2. あまりそう思わない 35名	3
1. まったくそう思わない 11名	3
未 未記入 3名	3



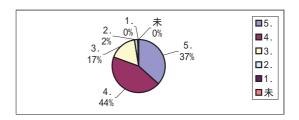
(8) 学生への対応は適切であった。

5.強 <i>くそう</i> 思う	667名
4. ややそう思う	922名
3. どちらともいえない	521名
2. あまりそう思わない	120名
1.まったくそう思わない	29名
未 未記入	3名

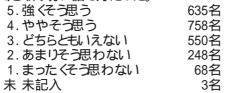


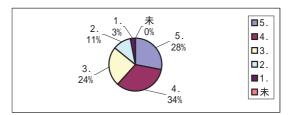
(9) 授業の準備がしっかりなされていた。

5.強くそう思う	832名
4. ややそう思う	992名
3. どちらともいえない	381名
2.あまりそう思わない	43名
1.まったくそう思わない	11名
未 未記入	3名



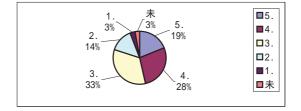
(10) 聞き取り易い話し方だった。





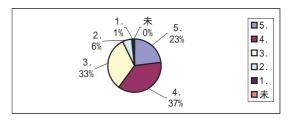
(11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

429名
623名
758名
317名
72名
63名



(12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

5.強くそう思う	524名
4. ややそう思う	835名
3. どちらともいえない	741名
2. あまりそう思わない	126名
1.まったくそう思わない	25名
未 未記入	11名



24%

38%

**□**5. **■**4.

**□**3.

■2. ■1. ■未

学部 行政社会学部

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	_	5011	2262	45.1%

#### (13) シラバスに沿って授業が行われた。

5.強くそう思う	553名
4. ややそう思う	860名
3. どちらともいえない	741名
2. あまりそう思わない	66名
1.まったくそう思わない	17名
未 未記入	25名

#### (14) 授業の内容はよく理解できた。

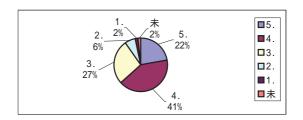
5.強くそう思う	327名
4. ややそう思う	812名
3. どちらともいえない	764名
2. あまりそう思わない	286名
1.まったくそう思わない	69名
未 未記入	4名

# また。 2. 3% 5. 14% 5. 14% 3. □2. □1. □未 1. □未

3.

#### .総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

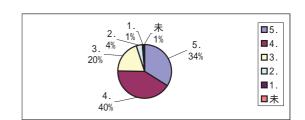
	3,
5.強くそう思う	501名
4. ややそう思う	932名
3. どちらともいえない	609名
2.あまりそう思わない	146名
1.まったくそう思わない	38名
未 未記入	36名



#### .教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

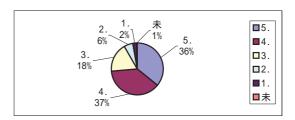
#### (16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	767名
4. ややそう思う	938名
3. どちらともいえない	442名
2. あまりそう思わない	82名
1. まったくそう思わない	20名
未 未記入	13名

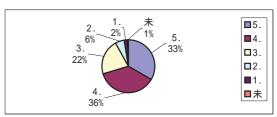


#### (17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	808名
4. ややそう思う	854名
3. どちらともいえない	410名
2. あまりそう思わない	126名
1.まったくそう思わない	51名
未 未記入	13名



5.強くそう思う	756名
4. ややそう思う	836名
3. どちらともいえない	487名
2. あまりそう思わない	127名
1.まったくそう思わない	44名
未 未記入	12名



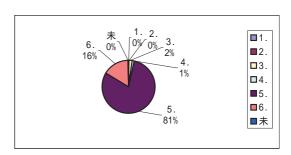
学部 経済学部

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-		4820	1981	41.1%

#### .あなた自身についてお答え下さい。

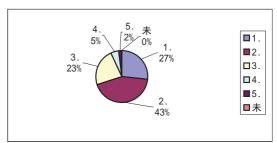
#### (1) 学部

1.教育学部 (学校教育)	4名
2.教育学部 (生涯教育)	1名
3. 行政社会学部 (昼間)	41名
4. 行政社会学部 (夜間)	25名
5.経済学部(昼間)	1588名
6.経済学部(夜間)	317名
未 未記入	5名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

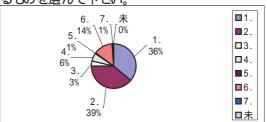
1. 1年	529名
2.2年	859名
3.3年	457名
4.4年	96名
5.5年以上	35名
未 未記入	5名



#### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

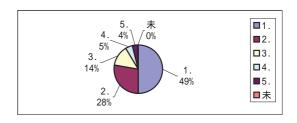
#### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。 もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1. 勉学面で関心があったから 717名 2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから 771名 3.単位がとり易そうだったから 68名 4. 受講し易い時間帯にあったから 115名 5. 友人や先輩に勧められたから 15名 6. クラス指定又は必修だったから 274名 7. その他 16名 未 未記入 5名



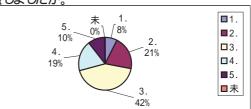
#### (4) この授業にどのくらい出席しましたか。

	00,0,0,0
1. 90%以上	991名
2.89% ~ 70%	550名
3.69% ~ 50%	268名
4.49% ~ 30%	95名
5. 29%以下	70名
未 未記入	7名



#### (5)授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

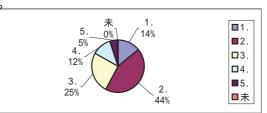
151名
407名
845名
370名
203名
5名



科目名	アンケートコート゛	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	4820	1981	41.1%

(6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

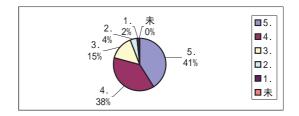
	> 75-700 HATTO
1. 非常に意欲的	281名
2. ある程度意欲的	866名
3. どちらともいえない	501名
4. あまり意欲的でない	233名
5.まった〈意欲的でない	93名
未 未記入	7名



.この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

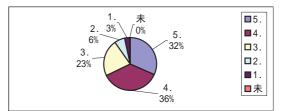
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	816名
4. ややそう思う	750名
3. どちらともいえない	301名
2. あまりそう思わない	80名
1.まったくそう思わない	31名
未 未記入	3名

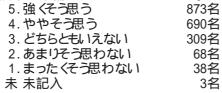


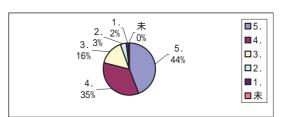
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強 <i>くそう</i> 思う	628名
4. ややそう思う	713名
3. どちらともいえない	448名
2. あまりそう思わない	127名
1.まった〈そう思わない	61名
未 未記入	4名



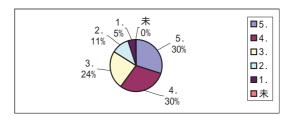
#### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





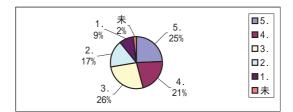
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	597名
4. ややそう思う	594名
3. どちらともいえない	469名
2.あまりそう思わない	222名
1.まったくそう思わない	96名
未 未記入	3名



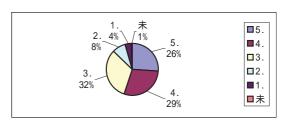
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	486名
4. ややそう思う	420名
3. どちらともいえない	522名
2. あまりそう思わない	336名
1.まったくそう思わない	181名
未 未記入	36名



#### (12) 教科書・参考書・資料などは適切であった。

5.強くそう思う	515名
4. ややそう思う	575名
3. どちらともいえない	640名
2.あまりそう思わない	165名
1.まった〈そう思わない	73名
未 未記入	13名

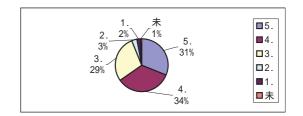


学部 経済学部

科目名	アンケートコード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
-	-	-	4820	1981	41.1%

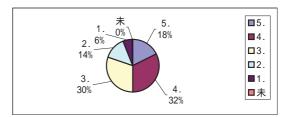
(13) シラバスに沿って授業が行われた。

5.強くそう思う	619名
4. ややそう思う	676名
3. どちらともいえない	567名
2. あまりそう思わない	65名
1.まったくそう思わない	39名
未 未記入	15名



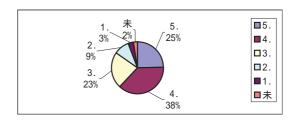
(14) 授業の内容はよく理解できた。

5.強くそう思う	352名
4. ややそう思う	637名
3. どちらともいえない	599名
2. あまりそう思わない	272名
1.まったくそう思わない	116名
未 未記入	5名



.総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

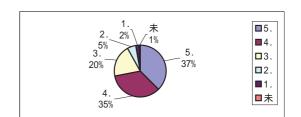
	~ 000 010
5.強 <i>くそう</i> 思う	487名
4. ややそう思う	741名
3. どちらともいえない	453名
2. あまりそう思わない	184名
1.まった〈そう思わない	69名
未 未記入	47名



.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

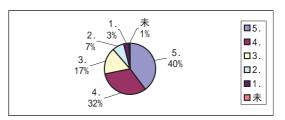
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	741名
4. ややそう思う	684名
3. どちらともいえない	396名
2.あまりそう思わない	106名
1.まったくそう思わない	43名
未 未記入	11名

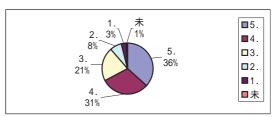


(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	785名
4. ややそう思う	633名
3. どちらともいえない	340名
2.あまりそう思わない	148名
1.まったくそう思わない	63名
未 未記入	12名



5.強くそう思う	725名
4. ややそう思う	607名
3. どちらともいえない	422名
2.あまりそう思わない	150名
1.まったくそう思わない	63名
未 未記入	14名



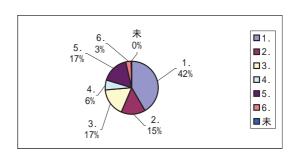
#### 学部 専門教育科目

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
専門教育科目 総合計			18503	9792	52 9%

#### .あなた自身についてお答え下さい。

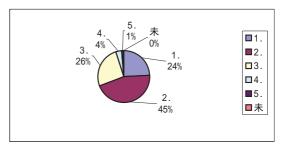
#### (1) 学部

1 HL	
1.教育学部 (学校教育)	4071名
2.教育学部(生涯教育)	1444名
3.行政社会学部 (昼間)	1693名
4.行政社会学部(夜間)	601名
5.経済学部 (昼間 )	1628名
6.経済学部 (夜間 )	338名
未 未記入	17名



#### (2) 学年 (入学してからの年数)

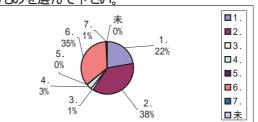
1. 1年	2362名
2.2年	4420名
3.3年	2522名
4.4年	356名
5.5年以上	111名
未 未記入	21名



#### .この授業についてあなた自身の取り組みについておたずねします。

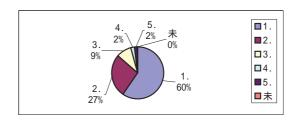
#### (3) どうしてこの授業を選んだのですか。もっとも当てはまるものを選んで下さい。

1.勉学面で関心があったから	2186名
2. 卒業までに必要な取得単位のバランスから	3611名
3.単位がとり易そうだったから	120名
4.受講し易い時間帯にあったから	332名
5. 友人や先輩に勧められたから	47名
6. クラス指定又は必修だったから	3414名
7. その他	65名
未 未記入	17名



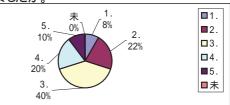
#### (4) この授業にどの くらい出席しましたか。

	и .Шир оок отста _о
1. 90%以上	5834名
2.89%~70%	2624名
3.69% ~ 50%	924名
4.49% ~ 30%	233名
5. 29%以下	149名
未 未記入	28名



#### (5)授業時間以外にこの授業に関して自分でどのくらい勉強しましたか。

1. 非常によく勉強した	806名
2.よく勉強した	2133名
3.多少はした	3916名
4. ほとんどしなかった	1917名
5.まったくしなかった	1004名
未 未記入	16名

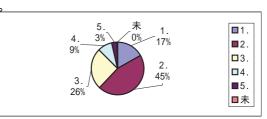


#### 学部 専門教育科目

科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
専門教育科目 総合計			18503	9792	52 9%

#### (6) この授業にたいするあなたの参加意欲はどうでしたか。

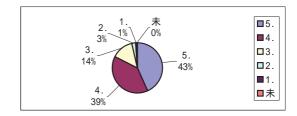
1.非常に意欲的	1652名
2. ある程度意欲的	4401名
3. どちらともいえない	2509名
4. あまり意欲的でない	887名
5.まった〈意欲的でない	315名
未 未記入	28名



#### .この授業及び担当教員について評価をし、評価ポイントでお答えください。

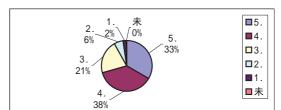
#### (7)授業への熱意が感じられた。

5.強くそう思う	4243名
4. ややそ <b>う</b> 思う	3839名
3. どちらともいえない	1347名
2. あまりそう思わない	247名
1.まった〈そう思わない	99名
未 未記入	17名

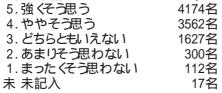


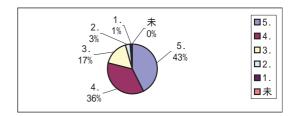
#### (8) 学生への対応は適切であった。

5.強くそう思う	3275名
4. ややそう思う	3638名
3. どちらともいえない	2098名
2.あまりそう思わない	569名
1.まったくそう思わない	195名
未 未記入	17名



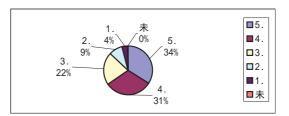
#### (9)授業の準備がしっかりなされていた。





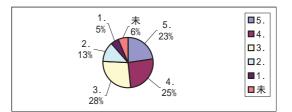
#### (10) 聞き取り易い話し方だった。

5.強くそう思う	3311名
4. ややそう思う	3079名
3. どちらともいえない	2120名
2.あまりそう思わない	911名
1.まったくそう思わない	355名
未 未記入	16名



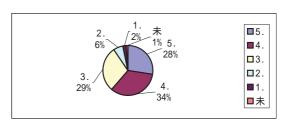
#### (11) 板書 ·OHPなどは見やすかった。

5.強くそう思う	2240名
4. ややそう思う	2486名
3. どちらともいえない	2695名
2.あまりそう思わない	1266名
1.まったくそう思わない	491名
未 未記入	614名



#### (12) 教科書 参考書 資料などは適切であった。

5.強くそう思う	2705名
4. ややそう思う	3313名
3. どちらともいえない	2860名
2. あまりそう思わない	592名
1.まったくそう思わない	218名
未 未記入	104名



学部 専門教育科目

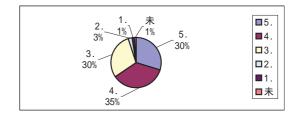
科目名	授業コード	担当教官	受講者数	回答者数	回答率
専門教育科目 総合計			18503	9792	52 9%

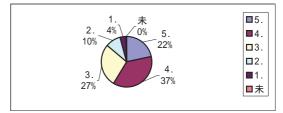
(13) シラバスに沿って授業が行われた。

5.強くそう思う	2919名
4. ややそ <b>う</b> 思う	3492名
3. どちらともいえない	2893名
2.あまりそう思わない	255名
1.まったくそう思わない	112名
未 未記入	121名



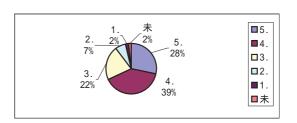
XXVIIII ISS VERT CCIC.	
5.強くそう思う	2125名
4. ややそう思う	3607名
3. どちらともいえない	2691名
2.あまりそう思わない	972名
1.まったくそう思わない	379名
未 未記入	18名





.総合的にみてこの授業内容に満足しましたか。

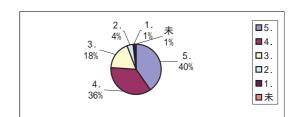
5.強 <i>くそう</i> 思う	2772名
4. ややそう思う	3890名
3. どちらともいえない	2130名
2. あまりそう思わない	643名
1.まったくそう思わない	206名
未 未記入	151名



.教育環境について評価をし、評価ポイントでお答えください。

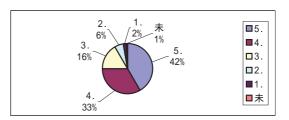
(16) 授業の場では学習する雰囲気は保たれた。

5.強くそう思う	3944名
4. ややそう思う	3507名
3. どちらともいえない	1759名
2.あまりそう思わない	382名
1.まったくそう思わない	126名
未 未記入	74名

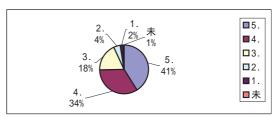


(17) 授業の場の大きさや設備等は適切であった。

5.強くそう思う	4074名
4. ややそう思う	3274名
3. どちらともいえない	1615名
2. あまりそう思わない	546名
1. まったくそう思わない	208名
未 未記入	75名



5.強くそう思う	4016名
4. ややそう思う	3310名
3. どちらともいえない	1780名
2.あまりそう思わない	437名
1.まったくそう思わない	169名
未 未記入	80名



# FUKUSHIMA-U. PROJECT

#### 福島大学 FD プロジェクト要項

#### ○福島大学 FD プロジェクト要項

制定 平成13年5月8日

改正 平成 14 年 3 月 19 日

(趣旨)

- 第1条 この要項は、福島大学(以下「本学」という。)の教育水準の向上を図り、かつ本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育内容及び教授方法の改善(以下「FD」という。)を推進するため、必要な事項を定めるものとする。 (FD プロジェクト)
- 第2条 評議会の議に基づき、本学に、FD プロジェクト(以下「プロジェクト」という。)を置く。
- 2 プロジェクトは次の各号に掲げる事項を処理する。
  - 一 教授方法改善等のための調査及び研究に関する事項
  - 二 教授方法改善等の目標決定及び改善方法に関する事項
  - 三 教授方法改善等のための企画及び実施に関する事項
  - 四 教授方法改善等のための学生による授業評価に関する事項
  - 五 その他教授方法改善等に関する事項

(組織)

- 第3条 プロジェクトは、次の各号に掲げる者をもって組織する。
  - 副学長のうち学長が指名した者(以下「副学長」という。)
  - 二 全学教育主管
  - 三 各学部の教育 各2名
- 2 前項第3号の教官は、当該学部教授会において選出し、学長が任命する。 (メンバーの任期)
- 第4条 前条第1項第3号のメンバーの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、 補欠のメンバーの任期は、前任者の任期の残余の期間とする。 (責任者)
- 第5条 プロジェクトに責任者を置き、副学長をもって充てる。
- 2 責任者に事故あるときは、あらかじめ責任者の指名した者がその職務を代行する。 (ワーキングチーム)
- 第6条 プロジェクトは、FD の内容等により、必要かつ適当な員数の FD ワーキングチーム(以下「ワーキング」という。)を編成することができる。
- 2 ワーキングのメンバーは、プロジェクトの依頼に基づいて当該学部の長が推薦し、 当該学部教授会の了承を得ることとする。

(FD 報告書の作成)

- 第7条 プロジェクトは、FD 報告書を作成し、評議会に提出する。 (東森)
- 第8条 プロジェクトの事務は、教務課において処理する。

附則

この要項は、平成13年5月8日から施行する。

附制

この要項は、平成14年4月1日から施行する。



## 福島大学 FD プロジェクトメンバー

## 平成15年度 FDプロジェクトメンバー名簿

所属部局等	委員名
副 学 長 (責任者)	今 野 順 夫
全学教育主管	小 島 定
教 育 学 部	栗原秀幸
教 育 学 部	白 石 昌 子
行政社会学部	北村寧
行政社会学部	田村奈保子
経済学部	後藤康夫
経済学部	佐野孝治

# FUKUSHIMA-U.

### あ と が き

福島大学 F D プロジェクトメンバー 全学教育主管 小島 定

本学の F D 活動は立ち遅れているという意識から出発して、今年の FD プロ ジェクトの企画には、山形大学の小田先生を招いた講演会のほかに、本冊子に 掲載されているように2回目の宿泊型ワークショップの開催がありました。こ うした企画を実施する中から、最近本学のなかに新しい芽が育ってきたことを 実感するうれしいニュースに触れました。昨年初めてわれわれが手探りしなが ら企画したワークショップ(「教え」から「学び」へ 教養教育における学習観 の転換、がテーマでした)がひとつのきっかけになって、教育学部の小野原先 生が講義形式の授業方法の改善に取り組み、自分の授業を同僚の岩崎先生に見 てもらって評価を受けるという試みをされました。いわゆる同僚への公開授業 であり、同僚による授業評価と言われるものです。この小野原先生の取り組み の内容と小野原先生の授業に対する「観察者」としての岩崎先生のコメントが、 「講義型授業において学生の主体的学びを支援する試み」と題して、『京都大学 高等教育研究』第9号(2003年12月)に、お二人の共著の形で発表されました。 私は論文の抜刷をいただいてすぐ読ませてもらいましたが、いわゆる典型的な 「チョーク&トーク」方式(岩崎先生の指摘)から「アンケート&フィードバッ ク」方式へと 論文のなかでそう呼ばれています 小野原先生は授業の方法を 転換させたというのです。どうしたら学生の主体的な学習への意欲を高めるか を考えながら、教師と学生の間のコミュニケーションのツールとして「ワーク シート」なるものを編み出して、いろいろな工夫をこらして授業改善に効果を 挙げておられることが、論文を読むとよく伝わってきます。ちなみに、当然と いえば当然でしょうが、本冊子に集計結果が収録されている学生による授業評 価では、小野原先生の授業は軒並み高得点だそうです。

上からの押し付けではなくて、共同してお互いに授業の改善につなげようという精神は、本学の FD の基本に据えるべきものではないかと思います。小野原先生たちの試みは、ひとつの例でしかなくて、個々の先生方の取り組みや、あるいは同じような先生同士の共同の取り組みがまだまだ本学には事例とあるのではないかと思えてきます。次の企画として、それらを交流しあう機会を設定してはどうかと思います。必ずしもスマートな出だしではなかった FD プロジェクトの蒔いた種が、こうして芽を出してきたのを見ると、立場上主催する側に立った者として少しは役に立つこともあったかなと思えます。